



電子メディアの中の高校生

要約

第2章 携帯電話の利用と友人関係 - ケイタイ世代のコミュニケーション -

① 携帯電話の利用状況

携帯電話（携帯＋PHS）の利用率は約75%（p.13 図2-1）で、中学の終わり頃、あるいは高校生になってから利用を始めた者が多く、月額で平均6500円程度の費用をかけている（p.15 表2-2）。通話の相手としては友だちが多く、番号を登録している友だちの数は平均で約90人（p.15 表2-3）である。1週間で平均4回程度友だちへ電話をかけ、6回程度電話をもらっている。友だちへの1回の通話時間の平均は、かけたときが約10分で、かかってきたときが約18分である（p.16 表2-4）。

② メールやウェブの利用

携帯電話を使用している高校生の約95%がメールを利用している（p.17 図2-2）。平均すると、友だちとの間で1週間に100通ものメールがやりとりされている（p.18 表2-5）。また、携帯電話利用者の約75%がウェブを利用しており、大部分が「着メロや待受画像のダウンロード」である（p.19 表2-6）。

③ 携帯電話の利用における拘束感・依存度
携帯電話の利用に関して、拘束感を感じている者は利用者の約1割と少なく、利便性が強く意識されているが、常に持っていないと不安という依存の意識を半数が持っている（p.21 表2-8）。

④ 携帯電話の利用スタイル

初めて会った人にも気軽に携帯電話の番号を教える者は利用者の約4割、発信電話番号表示を利用して相手によって着信選択する者は約3割である。利用頻度の高い者は、気軽に番号を教える者が半数を超える一方、通話中に電話をわざと切ったり、番号表示によって通話相手を選択したりする傾向が強い（p.23 表2-9）。

⑤ 通話とメールの使い分け

通話は「待ち合わせの連絡」など用件のための道具的な利用が多いのに対し、メールは「特に用件のないおしゃべり」が多く、それ自体を目的とした利用が多くなっている（p.24 図2-3）。

⑥ 携帯電話の影響

携帯電話の利用によってコミュニケーションが活発化したり、他者との関係が拡大したりしたとする者が多い。特にその傾向は、女子と携帯電話の利用頻度の高い者で強い（p.25 表2 - 10）。

⑦ 携帯電話と友人関係

携帯電話の利用頻度が高い高校生は、友だちと「広く」かつ「選択的な」つきあい方をしている割合が高い。しかし同時に、悩みを話すことも多く、あっさりとした関係ではなく「深い」関係を築いている（p.27 表2 - 11）。

⑧ メールによる対人関係の広がり

メール利用者の43.5%が「ふだんあまり話さない学校の友だち」と、29.9%が「直接会ったことのない学校外の人」とメールのやりとりをしている。また、「出会いのサイトなどで友だちやメル友を募集」は8.7%である（p.29 表2 - 13）。

⑨ 他者への配慮

電源を切ったり、マナーモードにしたりする高校生は、「学校の授業中」92.4%、「コンサートやライブの最中」84.8%、「混んだ電車やバスの中にいるとき」83.9%となっている（そのような状況がない者は除いた割合）（p.29 表2 - 14）。

第3章 I HATE MUSIC. WE ARE THE MUSIC.

① 音楽の学習経験

音楽学習経験については、学校では、半数強が芸術科で音楽を選択した経験があり、3割が音楽系部活動に入っていた経験がある。地域の音楽活動にはほとんど参加していないが、男子は4人に1人がバンド経験がある。家庭では、4割がピアノを習ったことがあるが、東京・女子=72.2%、秋田・女子=53.2%、東京・男子=25.2%、秋田・男子=11.0%と、男女差と地域差がはっきりみられる（p.35 図3 - 1、p.36 表3 - 1、p.37 図3 - 2）。

② ふだんの音楽行動

ふだんの音楽行動については、最も頻度が高いのが「家でCDなどを聴く」で、「毎日+よく+ときどき」=92.9%。以下、「音楽番組を聴く」(88.3%)、「友だちとCDなどの貸し借りをする」(80.6%)、「CDを買う」(74.9%)、「友だちとJ-POPや洋楽の話をする」(69.1%)、「“ながら聴き”をする」(68.6%)、「カラオケに行く」(63.8%)と続いている。女子の方が「音楽番組」を聴いたり「カラオケ」に行ったりし、男子の方が「自由に楽器を演奏する」傾向がある（p.39 図3 - 3）。

③ 様々な音楽ジャンルのイメージ

10種類の音楽ジャンルについて、「親近感」「理解度」「気分のもちよう」「心地ぐあい」の4つの側面からイメージを整理した（p.41 図3 - 4～図3 - 7）。

アイドル：親しみやすく、わかりやすく、気分が盛り上がる音楽。

癒し系バンド：親しみやすく、わかりや

すく、気分が落ち着き、心地よい音楽。

ヒップホップ：よくわからないが、気分が盛り上がる音楽。

女性ボーカル：親しみやすく、わかりやすく、心地よい音楽。

男性ボーカル：親しみやすく、わかりやすく、気分が落ち着き、心地よい音楽。

80年代：近づきたいが、気分が落ち着く音楽。

ジャズ：近づきがたく、よくわからない音楽。

洋楽：心地よい音楽。

クラシック：近づきがたく、よくわからないが、気分が落ち着き、心地よい音楽。

唱歌：近づきがたく、よくわからないが、気分が落ち着く音楽。

④ 音楽へのかかわり方

高校生の音楽行動や音楽の好みは、社会学や音楽教育学でいわれてきた階層性や音楽学習経験でははっきりした差異が生じなくなり、説明力が落ちている (p.43 表3 - 3、表3 - 4)。

音楽の“メディア”性に注目して、「ツールの使用」別にみると、「外出時ポータブルCDプレーヤーなどで音楽を聴く」「家でCDなどを聴く」「自由に楽器を演奏する」といった個人的な音楽行動では、「ツールの使用」者の方が頻度が高い (p.45 表3 - 7)。

⑤ 音楽を聴きたくなったり聴きたくなかったりするとき

音楽を聴きたくなるときは、「ひまなとき」(84.9%)、「気分がいいとき」(67.1%)、「なんにもやりたくないとき」(60.7%)、「落ち込んでいるとき」(58.7%)、音楽を聴きたくな

いときは、「集中しているとき」(45.6%)、「疲れて休みたいとき」(32.6%)、「悩んでいるとき」(26.2%)。回答が分かれたのは、「勉強しているとき」(「聴きたくなる」:「どちらでもない」:「聴きたくない」=44:35:21)、「盛り上がっているとき」(34:47:19)、「悩んでいるとき」(39:35:26)、「疲れて休みたいとき」(36:31:33)(p.47 図3 - 8)。「ツールの使用」者の方が、どんな場合でもより音楽を聴きたくなる傾向がある。「非ツールの使用」者に音楽を聴きたくない傾向がみられるのは、「集中しているとき」「盛り上がっているとき」「疲れて休みたいとき」(p.48 表3 - 8)。

⑥ 音楽がなくなったらどうなると思うか
「感性がなくなる」(65.3%)、「やる気なくなる」(63.2%)、「ストレスがたまる」(61.9%)、「時間をもてあます」(59.6%)、「イライラしたり怒ったりしやすくなる」(57.0%)で、高い支持を得た項目はない。一方で、「あまり変わらない」に否定的に回答した割合は70.7% (p.49 図3 - 9)。

「ツールの使用」別にみると、すべての項目で差がみられ、「ツールの使用」者の方がより変化があると思っている (p.50 表3 - 9)。

⑦ 音楽が嫌いになるとき

「嫌いな音楽を聴いたとき」(37.5%)、「音楽の授業で評価されるとき」(36.0%)、「うまく歌ったり演奏できなかつたとき」(34.1%)と、全般に嫌いにならない傾向が強い。「雑音のような音楽」(27.2%)や「わからない音楽」(27.1%)を聴いたときには相対的に抵抗感が低かった (p.51 表3 - 10)。

⑧ 高校生にとっての音楽

音楽の選択基準について、聴く歌は「アーティストより曲で選ぶ」78.1%。歌は「メロディより歌詞の方が大切」46.2%。「試聴やジャケットだけでCDを買うことがある」16.9%。生活や人生の中での音楽の位置について、「音楽で人生が大きく変わった」41.7%。「自分の生活の中で音楽は必要だ」88.6% (p.52 図3 - 10)

「ツールの使用」者は52.7%が「音楽で人生が大きく変わった」経験を持ち、96.8%が「自分の生活の中で音楽は必要だ」と思っている (p.53 表3 - 11)

第4章 高校生のテレビ視聴

- ニュース番組の見方・感じ方 -

① テレビの視聴時間

視聴時間は1時間から2時間半程度である (p.55 図4 - 1) 平均は144.8分である (p.55 表4 - 1) 長時間視聴しているのは秋田・女子、父母学歴がfmの生徒、成績 全教科 が上の方、地上波以外のテレビ加入者、家の本の数が60冊未満の生徒である (p.56 表4 - 2、表4 - 3) 地上波以外のテレビ加入は秋田の生徒に多い (p.57 表4 - 4)

よく見る時間帯は、「午後7～9時」「9～11時」に8割以上が集中する (p.57 図4 - 2、p.58 表4 - 5)

② テレビ番組について

よく見るテレビ番組は「映画・ドラマ・アニメ番組」「音楽番組」「クイズ・バラエティー番組」「お天気を含むニュース番組」と続く (p.59 図4 - 3、表4 - 6)

③ 友だちとの話題について

テレビ番組についての友だちとのやりとりではクイズやバラエティー番組の話はよくする。しかし、ニュース番組や海外の情報についての話はあまりしない (p.60 図4 - 4、表4 - 7)

④ ニュース番組について

よく見るニュース番組は、自分が住む地域のニュース 国内のニュース 国内のスポーツ 世界のスポーツ 世界のニュースの順である (p.61 図4 - 5) 男子が女子よりもスポーツを、東京の高校生は自分が住む地域のニュースを、世界のニュースは秋田の生徒がよく見る (p.62 表4 - 8)

ニュースを見るように働きかける人は、両親よりも社会科の先生である (p.62 図4 - 6) ただし、全体的に人からニュースを見るようには言われていない。調査した秋田の担任の先生からの働きかけが目立つ (p.63 表4 - 9)

⑤ テレビ情報の受けとめ方

テレビ情報の受けとめ方についてみると、「オリンピックなどを見ると、日本選手の結果が気になる」というナショナリズムへの意識が強く伝達されている。他にもスポーツ実況など、メディアによって作られたリアリティを受け入れている。メディア情報をそのままステレオタイプ的に読み取る反面、青少年の犯罪については、メディアの取り上げ方に不信感を抱いている (p.64 図4 - 7)

女子に事件や事故の被害報道を心配する感受性が高くなり、父母の学歴が高いとナショナリズムやステレオタイプ的な志向性を持たなくなる (p.64 表4 - 10)

⑥ ニュース番組・内容の感じ方

ニュースについては、ためになって、暗い話題が多くて、真実に基づいていて、何かしながら見ることができて、見ていてよくわかるという考え方が一般的なようだ（p.65 図4 - 8）。この考え方は女子に強い。東京の高校生に、「見ていてよくわかる」「自分の意見を言いたい」「番組はおもしろい」「放送時間が短い」と考えられており、父母学歴がFMの生徒に、「見ていてよくわかる」「自分の意見を言いたい」「放送時間が短い」「番組はおもしろい」「内容は番組によって異なる」と考えられている（p.66 表4 - 11）

ニュースキャスターについて関心がある部分は、「話し方や言葉づかい」「見た目やファッション」「人気や知名度」「コメント」である（p.67 図4 - 9）。東京・女子は「話し方や言葉づかい」に関心を持ち、秋田・女子では「見た目やファッション」「知名度」に関心がある。家の本の数が60冊以上ある生徒は「コメント」に関心がある（p.67 表4 - 12）

ニュースの視聴者タイプ（「考え視聴派」「ながら視聴派」「見るときは集中派」「たまに見てもながら視聴派」）を作成した（p.68 表4 - 13）。これらのタイプ別に、それぞれのニュースに対する受けとめ方・感じ方に特徴がみられた。最もニュースに対して積極的なのは「考え視聴派」で、その反対なのが「たまに見てもながら視聴派」である（p.69 表4 - 15、p.70 表4 - 16）。ニュースに対する態度によって、情報行動に大きな差がある。

第5章 高校生の言葉・つかい

① 印象に残っている言葉

高校に入ってから最も印象に残った言葉は、「友だち・恋人から」（16.6%）の言葉が最も多く、特に男子より女子に多い。次に、「歌詞から」（9.1%）「本や雑誌から」（8.9%）が多い。ただし無回答も4割近く（37.9%）に達していた（p.73 表5 - 1）

② 話す、読む、かく

好きな順が、「マンガを読むのが好き」（62.0%）（「マンガを除く」本や雑誌を読むのが好き）（52.8%）「人と話すのが好き」（34.8%）「ものを書くのが好き」（19.3%）「マンガを描くのが好き」（5.2%）という、読む>話す>か（書、描）く、の順になっていた（p.75 表5 - 2）

③ 若者言葉

様々な若者言葉を使う相手が、友だち、親、先輩、先生の順になっている。また敬語を使う相手は初対面のおとな、先生の順になっており、一応使い分けがなされている（p.79 表5 - 3）

半疑問、ぼかし言葉を使う者は、「どこへ行くかによって、友だちを選ぶ」という友人のチャンネル能力がある。

④ メディアの使い分け

好きな人に告白、ケンカした友だちと仲直り、親戚のおじさんに相談、親しい友だちを遊びに誘う場合は、「直接会って話す」が最も多い。それに対して、あまり親しくない友だちを遊びに誘う場合は、「PHSや携帯電話でメールを送る」が多い。

⑤ 短歌・俳句

この1年間、授業以外で短歌、俳句を読んだことがあるが約3割、これまで短歌、俳句をつくったことがあるが約4割であった(p.81 表5 - 4)。また正月に百人一首をすると、短歌・俳句へのイメージがよくなり、短歌・俳句を読み、詠む傾向がある(p.82 図5 - 1)。また現在の高校生でも、5・7・5・7・7の韻律を好む傾向がみられる(p.83 表5 - 5)。

[調査概要]

対象 東京(3校)、秋田(3校)の公立高校の1、2年生

時期 2001年1月～3月

方法 学校通しによる質問紙調査

サンプル数 1,357名(1年692名・2年665名、男子678名・女子679名、東京673名・秋田684名)

[執筆分担]

はじめに

深谷 昌志(東京成徳短期大学教授)

第1章・第5章

大野 道夫(大正大学助教授)

第2章

岩田 考(東京学芸大学大学院生)

第3章

西島 央(東京大学助手)

第4章

浜島 幸司(上智大学大学院生)

はじめに

電子メディア社会の中での成長

パーソナル化がキーワード

今回のモノグラフは、高校生が電子メディア社会とどうつきあっているのかを考えようとしている。「電子メディア社会」という言葉を耳にする機会が多いが、高校生からすると、電子メディア社会とはどういう状況なのか。

高校生のまわりにテレビ、ビデオ、テレビゲーム、コンポ、携帯電話、ファックスやパソコンなどが見られる。もちろん、マンガ雑誌や情報誌などの古典的なメディアもある。

端的に言って、電子メディア社会に特徴的なことは、手近なところに様々なメディアが混在していることではないだろうか。「手近」ということでいえば、かつてテレビは一家に1台しかなかった。居間に鎮座して、みんなで見るのがテレビだった。そうであるから、チャンネル権などの言い方があった。しかし現在では、一家に2台や3台のテレビがあるのが当たり前になり、自分専用のテレビで好きな番組を見る。つまり、テレビがパーソナル化している。

コンポもかつては高価だったから、子どもが手を出せるものでなかった。しかし、音響関係は値段が安くなると同時に、音響もよくなった。加えて、様々なモードの変換や録音が可能になり、高校生は自分の好みの自分だけの音楽を楽しめるようになった。そうした意味では、音楽もパーソナル化している。

パーソナル化という意味では、その典型が携帯電話であろう。これまで、子どもの長電話が問題になることがあった。子どもの長電話にイライラした親が少なくないと思うが、子どもも親の目を意識して、長く話してはいけないと感じてはいた。それだけに、自分が電話したいときに、いつでも電話できる携帯電話の普及は、高校生にとって宝物的な値打ちを持つ。それでも、通話料が高く、時間を気にしての通話だった。しかし、現在ではメールを使えば、料金をあまり気にしないですむ。

快適な私的環境

携帯電話の操作は簡単だ。携帯電話を持っているれば、単純な操作で、時間を超え、場所

を超えて、誰とでもコミュニケーションを取れる。これまで、友だちと会おうと思うと会う場所を決めることが必要になるし、夜遅くは連絡を取れない。しかし、携帯電話は時間の制約や場所の限定を超越して、友だちとコンタクトすることを可能にした。

労力の少なさと比較して、多くの利便さを期待できる。高校生を取り巻くメディアは、携帯電話の他にも、コンボやテレビゲームも軽便さを備えている。コンボは頭出しやリポートが可能だし、サウンドも自分の好みに選択できる。もちろん、様々な形で録音も可能だ。

そうした便利なメディアに囲まれていると、メディアのある空間が快適になる。そして、自分の部屋で、心のままに、いくつかのメディアを操作して、ゆったりとくつろぐのが至福の時となろう。

部屋の中での自分は、ただ1人の権威者で、ストレスもなく、好きなままの行動をとれる。特に自分の好みの音響が流れるし、ビデオは自分で録画したものだ。加えて、現在のテレビゲームは映像がシャープなので、臨場感を味わいつつ、自分なりにアタックができる。

そうした環境の中で生活していると、1人であることが快適だし、自分流に生きている気持ちがある。そうすると、部屋から外へ出て、人とふれあうことが億劫になりやすい。そう考えると、「ひきこもり」は現代の若者が陥りやすい心の状況のように思われてくる。

メディアに埋没するか、メディアを活用するか

高校生の回りには多様なメディアがある。しかし改めてふれるまでもなく、メディアはあくまでメディアで、使い方は個人の問題になる。

携帯電話を例にしても、電話を友人や恋人と話すためのメディアとして使うのが一般的であろうが、多様な情報を探索することも可能だ。高校生でもパソコンをゲーム機として使える一方、インターネットなどで情報を収集したり、発信したりすることもできる。

そうした意味では、電子メディア社会の場合、多様なメディアを自分の休息や気晴らしのために使うことも1つの接し方だ。その一方、メディアの機能を駆使して、自己開発や知的な探求のために活用するのもメディアとの別の接し方となる。

見方を変えると、メディアを自分本位にイージーに使って、メディアの中に埋没するか。それとも、メディアの機能を活用して、自己成長の手段としてメディアを駆使するか。いずれの方策も可能だ。もちろん、メディアを部屋への巣籠もりの道具にするのではなく、社会との接点、あるいは、個性化のステップの道具として活用してほしいと思う。そう考えると、メディア・リテラシーを育てることの必要性を感じてくる。

電子メディアへの考察はここまでとして、以下、携帯電話、音楽、テレビ、言葉の4領域から、メディアの問題に迫りたいと思う。

第1章 IIIII

調査の意図と調査対象の属性

1 調査の意図

マルチメディアの時代が到来する、といわれてからすでに久しく時が過ぎた。一口にメディアといっても、たとえば言葉もメディアである。また戦後若者との関係で問題になったメディアとしては、テレビ、マンガの子どもへの悪影響などが、ちょうど今の高校生の親の世代くらいからいわれてきている。また最近ではポケベルをへて、携帯電話が高校生が使うメディアとして注目を浴びてきている。

今回はこの高校生とメディアの問題から、特に携帯電話、音楽、テレビ、そして言葉を取り上げ、調査していくことにした。

いうまでもなく携帯電話は双方向の、パーソナルなメディアとして急速に普及している。また最近では着メロ、メールの機能をはじめとして、こうして調査している間にも様々な機能が付加されてきている。2章ではこの携帯電話と高校生の問題を、友人関係への影響も含めて調査することにした。

音楽は基本的に、テレビ、ラジオ、CDなどにより、一方向的に、マスメディアにより

「受信」される。ただ高校生と音楽の関係はそれだけでなく、授業、部活動、おけいごと、さらにカラオケなどを通じて、パーソナルに「送信」することもできる。3章ではこの音楽と高校生の関係を、音楽へのかまえなども含めて調査することにした。

テレビは前述したように、戦後間もない頃から一方向的な、マスメディアの代表として注目を集めてきた。また最近ではBS（衛星放送）、CS（有料放送）、CATV（ケーブルテレビ）などが放映されだし、地域によっても様々な番組が生まれつつある。4章ではこのテレビと高校生の関係を、地域性、高校生の受けとめ方なども含めて調査することにした。

言葉は、人間が使う最も基本的なメディアである。それは双方向に、パーソナルに話すことにはじまり、書かれてマスメディアのなかで流通し、読まれたりする。5章ではこの言葉と高校生の関係を、他のメディアとの関係、場面による使い分け、そして短歌・俳句

なども含めて調査することにした。
また最後には座談会で、データをもとにし

つつ、高校生とメディアの問題についてさらに考えていくことにした。

2 調査対象の属性

調査対象は、東京3校、秋田3校の公立高校の1、2年生である。1年は男子51.3%（355人）女子48.7%（337人）の692人、2年は男子48.6%（323人）女子51.4%（342人）の665人、合計1,357人である。学校別の内訳は表1-1に示される通りだが、性別、学年ともあまり偏りが無い、ということが

できる。

（今回は、全体の集計では無回答も重要な回答と考え、それを入れて100%になるように集計した。また、クロス集計では変数間の関係を調べるのが重要と考え、無回答を入れず100%になるように集計した。）

表1-1 調査対象の属性

()内は人数

		性 別		学 年	
		男 子	女 子	1 年	2 年
東 京	A 校	(105) 45.9%	(124) 54.1%	(119) 52.0%	(110) 48.0%
	B 校	(103) 45.8%	(122) 54.2%	(117) 52.0%	(108) 48.0%
	C 校	(106) 48.4%	(113) 51.6%	(111) 50.7%	(108) 49.3%
秋 田	A 校	(124) 55.6%	(99) 44.4%	(116) 52.0%	(107) 48.0%
	B 校	(126) 56.3%	(98) 43.8%	(110) 49.1%	(114) 50.9%
	C 校	(114) 48.1%	(123) 51.9%	(119) 50.2%	(118) 49.8%

第2章 ||||

携帯電話の利用と友人関係

- ケイタイ世代 のコミュニケーション -

1 はじめに

現在、携帯電話やインターネットの普及に代表されるように、我々を取り巻く情報環境は急激に変化しつつある。PHSと携帯電話の契約数は、1995年前後から急速に増加し、2001年8月末現在では7000万件を超えている。単純計算すれば、国民の2人に1人がPHSや携帯電話を利用する時代に突入している¹⁾(以下ではPHSと携帯電話を合わせて移動電話と表記する)。高校生においても、郵政研究所が関東1都6県で行った調査²⁾によれば、1997年1月に約8%であった移動電話の普及率は、2000年1月には約68%になっており、3年間で60ポイントも上昇したことになる。

周知のように、このような移動電話の急速な普及に伴って、その利用をめぐる様々な問題が指摘されている。特に最近では、移動電話やパソコンを使用したネット上での出会いを仲介する「出会い系サイト」が犯罪を助長しているのではないかと、事件や犯罪が起こるたびに批判が繰り返されている。そして、

批判はしばしば、そうしたサービスだけでなく、新しいメディアと若者を中心とした対人関係の変化との関連に向けられる。移動電話やインターネットの利用が、「現実の対人関係と仮想のそれとの区別を曖昧化させている」、あるいは「本音のつきあいを避けるような対人関係の希薄化を助長している」と。そのような指摘を全面的に否定するつもりはない。しかし、移動電話の利用と若者のコミュニケーションのあり方がいかなる関係にあるのか、もう少し冷静に検討する必要があるように思われる。

そこで今回、高校生を対象に移動電話の利用に関する意識調査を実施した。本稿では、この調査の結果から、まず高校生の移動電話の利用状況(2節)と、利用に関する意識や行動(3節)の基礎的なデータを提供する。次に、移動電話の利用が高校生の対人関係にいかなる影響を与えうのか、特に友人関係のあり方とどのような関連をもっているのかを検討する(4節)。ただし今回の調査は、

テレビや、音楽、言葉など、多岐にわたる項目を含んでいる。そのため、高校生の携帯電話の利用状況と対人関係のあり方との関係を

探る調査としては必ずしも十分とはいえない面もあるが、両者の関係を考えていく何らかの手がかりは与えてくれるであろう。

2 携帯電話の利用状況

1) 携帯電話の利用率・利用期間・費用

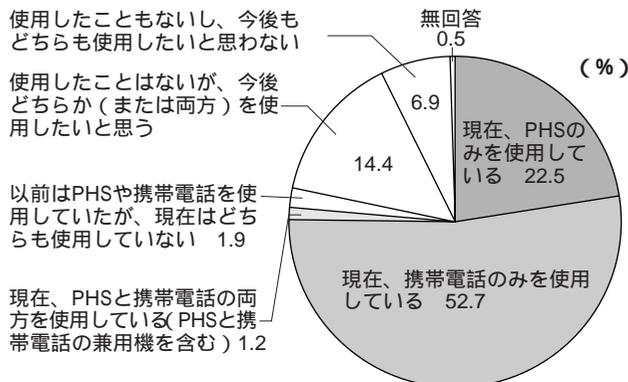
はじめに、高校生が携帯電話をどの程度利用しているのかをみてみることにしよう。図2-1のように、PHSを利用している高校生が22.5%、携帯電話が52.7%、両方とも利用(兼用機を含む)が1.2%となっている。合計すると76.4%で、全体の4分の3以上が携帯電話を利用していることになる。総務庁青少年対策本部が1999年11月から12月にかけて全国6都県の高校2年生を対象に実施した調査³⁾では、所持率が58.7%となっている。対象とした地域も異なるため、単純に比較することはできないが、約1年の間に全国の高校生への携帯電話の普及がさらに進展したことがうかがえる。

男女別、学年別、地域別に利用率をみると表2-1のようになる。男女別では、PHS、携帯電話ともに女子の利用率が高く、合計すると女子が83.4%、男子が70.0%で、10ポイン

ト以上の開きがみられる。学年別では顕著な差はないが、地域別では差がみられる。PHSと携帯電話の合計では、東京79.9%、秋田73.7%と、東京の方が若干利用率が高くなっている。また、東京では携帯電話の利用率が約7割となっているのに対し、秋田は4割弱であり、PHSの利用率が約3割と高くなっている。これは、後でみるように、秋田の高校生に比べ東京の高校生の方がお小遣いの額がかなり多いことと関連していると思われる。

次に携帯電話の利用期間をみてみることにしよう(表2-2上段)。利用者全体の平均が約1年3か月、中央値が1年となっている。大まかな分布をわかりやすくするためにカテゴリーに分けると、「半年以上1年未満」の者が利用者の約3割と最も多い(巻末基礎集計表[SQ1])。1月から3月という調査の時期と学年を考慮に入れると、高校生になってから、あるいは中学生の終わり頃から利用し始めた者が多いようである。男女別では女子

図2-1 携帯電話の利用率



の方が利用期間の長い者が多く、地域別では東京の方が利用期間の長い高校生が多くなっている。

携帯電話にかかる費用の利用者全体の平均は約6500円で、中央値が5000円となっている（表2 - 2 中段）。利用期間と同様にカテゴリーに分けると、「5000円以上7500円未満」が約4割で最も多い（巻末基礎集計表②SQ2）。また、7500円以上の者も4分の1以上おり、多くの高校生が携帯電話のためにかなりの額を使っていることがわかる。男女別、学年別、地域別では顕著な差はみられない。ただ地域別では、秋田の方が「5000円以上7500円未満」が多く、東京の方が7500円以上が若干多くなっている。これは、秋田ではPHSの利用率が高く、東京では携帯電話の利用率が高いことに関係していると思われる。

今回の調査では、携帯電話にかかる費用を誰が支払っているのかについては、質問数の関係から聞くことができなかった。前述の総務庁青少年対策本部[2000]の調査によれば、全額自分で支払っている高校生が約3割、自分と親で出し合っている高校生が約2割となっている。また、そうした高校生のお金の捻出方法としては、親からもらったお小遣いが約5割、アルバイトが約4割となっている。

今回の調査において携帯電話利用者のお小遣いの1か月平均は約11000円である（表2 - 2 下段）。したがって、高校生が自由に使えるお金の占める携帯電話にかかる費用の割合は、かなり大きくなっていると思われる。このことは、「PHSや携帯電話の料金の支払いのために自由に使えるお金が減った」としている高校生が約45%いることから確認される（巻末基礎集計表②SQ9）。

2) 通話の相手と登録友人数

高校生を対象とした総務庁青少年対策本部[2000]の調査や、大学生を対象とした調査（岡田・松田・羽淵[2000]など）では、携帯電話の通話相手として最も多いのは同性の友人である。今回の調査では、通話相手についての詳細な質問は行わず、友だちとそれ以外の人の割合をたずねた。これは質問数の制約がある中で、先行研究の結果をふまえ、友人との関係に焦点化することによって、携帯電話を利用したコミュニケーションの特質を明らかにしようとしたためである。また、通話の時間や回数などについても友人とのやりとり限定したが、これも同様の意図による。

表2 - 3 上段のように、今回の調査結果においても、通話相手に占める友だちの割合が

表2 - 1 携帯電話の利用率 × 性・学年・地域

	全 体	性 別 **		学 年		地 域 **	
		男 子	女 子	1 年	2 年	東 京	秋 田
		現在、PHSのみを使用している	22.5	18.9	26.2	23.4	21.7
現在、携帯電話のみを使用している	52.7	49.9	56.0	51.6	54.3	67.3	38.9
現在、PHSと携帯電話の両方を使用している（PHSと携帯電話の兼用機を含む）	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	0.6	1.8
以前はPHSや携帯電話を使用していたが、現在はどちらも使用していない	1.9	2.4	1.5	1.5	2.4	1.2	2.6
使用したことはないが、今後どちらか（または両方）を使用したいと思う	14.4	18.3	10.7	16.1	12.8	10.9	18.0
使用したこともないし、今後もどちらも使用したいと思わない	6.9	9.3	4.4	6.3	7.5	8.1	5.7

* と ** は統計的に有意な差（カイ2乗検定の結果 / * 危険率5%水準 / ** 危険率1%水準）

非常に高いことが確認できる。利用者の4割以上が「ほとんど友だちと」話し、友だち以外の人よりも「友だちの方が多い」が4分の1となっている。男女別では、男子に比べ女子で友だち以外と話す者の割合が多くなっている。これは主に、女子の方が家庭への連絡に利用することが多いためと考えられる。なお、学年別、地域別では顕著な差はみられない。

次に、携帯電話に登録している友だちの数である（表2 - 3中段）。利用者全体の平均は約90人、中央値は80人となっている。カテゴリーに分けてみると、「50人以上100人未満」

が約3分の1と最も多くなっている（巻末基礎集計表②SQ3）。性別、地域別では顕著な差はみられない。学年別では、1年生の方が登録友人数が多くなっている。これは、今回の調査結果にもみられたが、2年生に比べ1年生の方が友だちの数を多く回答する傾向と関係していると思われる（表2 - 3下段）。おそらく、中学校時代の友だちとの関係が維持されているところに、新たに高校になってからの友だちが加わることによるのではないだろうか。

表2 - 2 携帯電話の利用期間・費用・お小遣い × 性・学年・地域・電話種別

		利用者全体	性別			学年			地域			電話種別		
			男子	女子	検定	1年	2年	検定	東京	秋田	検定	PHS	携帯	検定
利用期間 (月)	平均値	14.5	13.9	15.1		11.4	17.8		15.9	13.1		13.9	14.8	
	中央値	12.0	12.0	12.0	*	11.0	18.0	**	12.0	12.0	**	12.0	12.0	
費用(月額) (円)	平均値	6467.2	6726.1	6248.5		6528.5	6404.7		6718.7	6200.7		5810.7	6722.1	**
	中央値	5000.0	5000.0	5000.0		5000.0	5000.0		5000.0	5000.0		5000.0	6000.0	
お小遣い (円)	平均値	11031.0	11560.2	10600.6		10661.6	11405.1		13835.1	8056.9		8723.1	11888.0	**
	中央値	6000.0	6000.0	6000.0		5000.0	7000.0	**	8000.0	5000.0	**	5000.0	7000.0	**

*と**は統計的に有意な差（Wilcoxonの順位和検定 / *危険率5%水準 / **危険率1%水準）

表2 - 3 通話相手・登録友人数・友人数 × 性・学年・地域・電話種別

		利用者全体	性別			学年			地域			電話種別		
			男子	女子	検定	1年	2年	検定	東京	秋田	検定	PHS	携帯	検定
通話相手(%)	ほとんど友だちと	41.9	48.8	36.9		40.9	43.8		42.6	42.1		47.4	39.9	
	友だちの方が多い	26.3	28.3	25.1		28.4	24.6		26.5	26.6		27.2	26.4	
	半々くらい	19.4	16.5	22.2	**	19.4	19.8		20.3	18.9		16.2	21.1	
	友だち以外の方が多い	8.1	4.7	11.1		8.8	7.5		7.4	9.1		7.3	8.6	
	ほとんど友だち以外の人と	3.3	1.7	4.7		2.5	4.2		3.2	3.4		2.0	4.0	
登録友人数 (人)	平均値	87.5	86.2	88.6		92.4	82.5	**	88.9	86.0		80.4	90.8	**
	中央値	80.0	80.0	82.0		85.0	80.0		81.0	80.0		70.0	90.0	
友人数 (人)	平均値	42.0	44.7	39.9		49.7	34.6	**	44.8	39.4		37.0	44.3	**
	中央値	20.0	30.0	20.0		30.0	20.0		30.0	20.0		20.0	30.0	

*と**は統計的に有意な差（通話相手はカイ2乗検定・登録友人数と友人数はWilcoxonの順位和検定 / *危険率5%水準 / **危険率1%水準）

今回の調査では、「あなたが『友だち』だ
と思う人は何人いますか」という質問で友だ
ちの数もたずねている。この質問への回答と
携帯電話に登録している友だちの数とを比較
すると、興味深い結果がえられる。それは、
携帯電話に登録している友だちの数の方が、
友だちの数よりも圧倒的に多いということだ
である。常識的に考えれば、「友だちの数」>
「携帯電話に登録している友だちの数」にな
るはずである。これはどのように解すべきな
のであろうか。まず、登録している友だちの
数ではなく、登録している人数を誤って記入
したものではないか、という可能性がある。
また今回の調査では、友だちの人数を実数で
記入してもらおうという方法を採用したため、
「たくさん」や「数えられない」などの回答
が集計から除外されている。そのため、友だ
ちの人数の平均が低くなっている可能性もあ
る。あるいは、このような点を考慮したとし
ても、この結果は、「携帯電話の利用が広く
浅い友人関係を助長する」ということを象徴
するものだ、とみることもできるだろう。

確かに、こうした見方を完全には否定する
ことはできないが、「友だち」という基準の非
一貫化という観点から、異なる解釈を与える

ことも可能なように思われる。我々おとなは
「友だち」の基準に関して、その一貫性を想定
しがちであるが、高校生にとっては必ずしも
そうではないのかもしれない。つまり、携帯
電話に登録する「友だち」と、その数をスト
レートに聞かれたときの「友だち」の基準が
異なるのではないかということである。残念
ながら今回の調査では、この仮説を検証する
ことはできない。したがってここでは、携帯
電話の利用をめくっては、「友だち」の範囲が
広く意識される傾向があるということの確認
にとどめておこう。

3) 友人との通話時間と回数

続いて、携帯電話の通話の時間と回数をみ
てみることにしよう。表2 - 4 上段のように、
「自分から友だちにかけたとき」の1回の通
話時間は、利用者全体の平均が10.5分、中央
値が5分となっている。同様に「友だちから
かかってきたとき」の通話時間は、平均17.8
分、中央値6分である。カテゴリーに分ける
と、「かけたとき」では「2分以上5分未満」
が、「かかってきたとき」では「10分以上30
分未満」が約4分の1で最も多くなっている
(巻末基礎集計表②SQ4)。通話料を節約し

表2 - 4 通話時間・通話回数 × 性・学年・地域・電話種別

			利用者 全体	性 別			学 年			地 域			電 話 種 別		
				男 子	女 子	検 定	1 年	2 年	検 定	東 京	秋 田	検 定	PHS	携 帯	検 定
通話時間 (分)	自分	平均値	10.5	8.5	12.2	**	10.1	10.9		7.9	13.3	**	14.4	8.4	**
	友人	中央値	5.0	3.0	5.0		5.0	5.0		3.0	5.0		5.0	3.0	
	友人	平均値	17.8	14.8	20.4	**	17.7	18.0		15.0	20.9	**	24.0	14.9	**
	自分	中央値	6.0	5.0	10.0		10.0	5.0		5.0	10.0		10.0	5.0	
通話回数 (回)	自分	平均値	4.1	5.2	3.2	**	4.1	4.2		4.3	4.0		4.2	4.1	
	友人	中央値	2.0	3.0	2.0		2.0	2.0		2.0	2.0		2.0	2.0	
	友人	平均値	5.5	6.9	4.3	**	5.4	5.6		6.1	4.8		5.2	5.5	
	自分	中央値	3.0	3.0	3.0		3.0	3.0		3.0	3.0		3.0	3.0	

*と**は統計的に有意な差 (Wilcoxonの順位和検定 / *危険率5%水準 / **危険率1%水準)

ようという意識の現れなのか、「かけたとき」よりも「かかってきたとき」の方が通話時間が長いことがわかる。

学年別では、「かけたとき」と「かかってきたとき」ともに差はみられない。男女別では、「かけたとき」と「かかってきたとき」ともに、女子の方が通話時間が長くなっている。同様に地域別では、東京よりも秋田の方が通話時間が長くなっている。また、電話の種類別では、携帯電話よりもPHSの利用者の方が、「かけたとき」と「かかってきたとき」ともに通話時間が長くなっている。これは、一般にPHSの方が通話料が安く設定されているためだと思われる。

また、通話回数は表2 - 4下段のようになっている。「自分から友だちにかける回数」は、利用者全体で、1週間平均4.1回、中央値2回である。同様に「友だちがかけてくる回数」は、平均5.5回、中央値3回となっている。通話時間と同様、「かける回数」よりも「かけてくる回数」の方が平均で1.4回多くなっている。

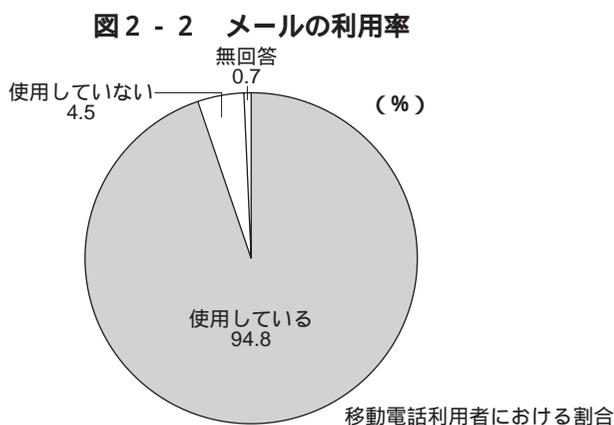
学年別、地域別、電話種別では、「かける回数」と「かけてくる回数」ともに差はみられない。男女別では、通話時間では女子の方

が長くなっていたのに対し、「かける回数」と「かけてくる回数」ともに、男子の方が回数が多くなっている。この結果からすると、女子は通話時間が長く、男子は通話回数が多いという傾向があるようである。

4) メールやウェブの利用

これまで、携帯電話による「通話」を中心にみてきた。しかし、PHSや携帯電話は、単なる「声」のメディアではない。メールやウェブの利用など「文字」のメディアでもある。近年では、「画像」や「動画」などの使用も可能になってきており、今後はマルチメディアとしての性質が強くなっていくことも予想される。

本調査では、巻末の調査票見本のように、ショートメッセージやEメールなど文字送受信機能によるやりとりをまとめてメールと表記している。図2 - 2のように、メールを利用しているのは、携帯電話を利用している高校生の約95%という結果であった。携帯電話を利用している高校生のほとんどが、メールを利用しているようである。男女別では、男子が93.8%、女子が96.8%と、女子の方がメールの利用率が若干高くなっている(表2 -



5 上段) 学年別、地域別では顕著な差はみられない。

また、友だちとの間でやりとりする1週間平均のメールの送受信数は、表2-5下段のようになっている。メールの利用者全体では、送信数が1週間平均48.0回、中央値20回である。同様に受信数は、平均52.1回、中央値21回となっている。カテゴリーに分けると、「10通以上50通未満」がいずれも約5割になっている(巻末基礎集計表②SQ12-1)。通話時間や通話回数と同様、自分から送信するよりも受信する方が多くなっている。また、情報量に差があるため、単純には比較できないが、通話回数よりもメールの送受信数の方が、圧倒的に多いことが注目される。通話料金の高さという条件つきではあるが、高校生にとって携帯電話は、「文字」のメディアとしての側面を強く持つものといえよう。

男女別では、送受信数ともに差がみられな

かった。通話時間や通話回数とは異なり、学年別で差がみられる。送受信数ともに1年生の方がかなり多くなっている。地域別では、さらに大きな差がみられる。秋田に比べ東京の方が2倍近い送受信数になっている。

次に、携帯電話によるウェブの利用についてみてみることにしよう(表2-6)。ウェブを利用しているのは、携帯電話の使用者全体で75.7%となっている。ただ、利用しているサービスは、「着メロや待受画像のダウンロード」に集中している。ウェブ上でのコミュニケーションの場を提供する「掲示板」や「チャット」などの利用はあまり活発ではないようである。

5) 平均的な利用状況と利用者のタイプ分け

これまでみてきた高校生の携帯電話の利用状況を簡単にまとめることにしよう。移動電

表2-5 メール利用率・送受信数 × 性・学年・地域・電話種別

			該当者 全体	性 別			学 年			地 域			電話種別		
				男 子	女 子	検 定	1 年	2 年	検 定	東 京	秋 田	検 定	PHS	携 帯	検 定
メールの利用率 (携帯電話利用者における割合%)			94.8	93.8	96.8	*	96.0	94.9		96.0	94.8		94.4	95.9	
メールの送受信数 (通)	自分	平均値	48.0	50.3	46.2		56.3	39.4	**	61.6	33.5	**	28.9	55.1	**
	友人	中央値	20.0	20.0	20.0		30.0	20.0		30.0	20.0		15.0	25.0	
	友人	平均値	52.1	54.6	50.0		60.6	43.2	**	66.2	36.9	**	31.5	60.7	**
	自分	中央値	21.0	20.0	25.0		30.0	20.0		30.0	20.0		20.0	30.0	

*と**は統計的に有意な差(*危険率5%水準/**危険率1%水準)
利用率はカイ2乗検定、送受信数はWilcoxonの順位和検定

話の利用率は約75%で、中学の終わり頃か、高校生になってから利用を始めたものが多く、月額で平均6500円程度の費用をかけている。通話の相手としては友だちが多く、番号を登録している友だちの数は平均で約90人である。1週間で平均4回程度友だちへ電話をかけ、6回程度電話をもらっている。友だちへの1回の通話時間の平均は、かけたときが約10分で、かかってきたときが約18分である。

また、携帯電話を利用している高校生の95%がメールを利用している。平均すると、友だちとの間で1週間に100通ものメールがやりとりされている。ウェブを利用しているのは携帯電話利用者の約75%であり、大部分が「着メロや待受画像のダウンロード」である。

男女別での顕著な違いは、男子は通話回数が多いのに対し、女子は通話時間が長いということである。その他、男子に比べ女子の方が、やや利用期間が長く、通話相手に友だち

以外の人が多く、メールの利用率が若干高くなっている。学年別では、1年生の方が登録友人数が多く、メールの送受信数も多くなっている。地域別では、使用している電話の種類の違いも関係していると思われるが、秋田の方が通話時間が長く、東京の方がメールの送受信数が多くなっている。

次に、次節以降の分析のために、利用者のタイプ分けを行うことにしよう。というのは、平均的な利用状況はあくまでも平均値であり、その利用の仕方にはかなりの差異がみられるからである。ここでは、自分から友だちにかける通話の回数と自分から友だちに送るメールの送信数の多寡を組み合わせる4つのタイプをつくった。つまり、通話回数が多し少ないという軸と、メールの送信数が多い少ないという軸をクロスしたことになる。

表2 - 6 ウェブの利用 × 性・学年・地域・電話種別

	利用者全体	性別		学年		地域		電話種別	
		男子	女子	1年	2年	東京	秋田	PHS	携帯
		ウェブ利用(全体)	75.7	77.9	75.2	76.9	75.9	77.8	74.9
着メロや待受画像のダウンロード	71.1	72.5	70.0	72.7	69.5	71.2	71.1	54.4	78.0
ホームページの閲覧	21.1	24.3	> 18.5	21.8	20.5	27.3	14.5	3.6	28.7
ニュースや情報などの検索・閲覧	15.0	18.0	> 12.4	13.4	16.6	16.9	12.9	13.8	15.5
掲示板	9.9	10.4	9.6	8.8	11.1	11.6	8.2	4.3	12.3
チャット	5.7	5.1	6.2	5.7	5.7	4.9	6.6	3.0	< 6.7
チケットの購入	2.0	3.2	> 1.1	1.1	< 2.9	2.8	1.2	0.3	< 2.8
その他	1.9	1.1	2.7	2.5	1.4	2.1	1.8	1.6	2.1

利用することがあるの割合。各サービスについては複数回答
 >、<、は、統計的に有意な差(カイ2乗検定 / >と<は危険率5%水準 / とは危険率1%水準)

表2 - 7は、この4つのタイプと携帯電話の非利用者⁴⁾を合わせた5つのタイプの特徴をまとめたものである。非利用者は、315名で全体の4分の1弱である。男子が約65%と多く、秋田の高校生が約6割で、友だちの数の平均が約30人と最も少なくなっている。利用者のうち低頻度ユーザーは269名で約20%とやや多くなっているが、その他の3つのタイプは200名前後で15%程度である⁵⁾。通話もメールも利用する頻度が低い低頻度ユーザーは、女子と2年生が約6割で、秋田の高校生が10ポイント程度多くなっている。通話の利用頻度は低いがメールの利用頻度は高いメール型ユーザーは、女

子と1年生が約6割で、東京の高校生が7割と圧倒的に多く、友だちの数の平均は約50人となっている。通話の利用頻度は高いがメールの利用頻度は低い通話型ユーザーは、男子と秋田の高校生が約6割で、友だちの数の平均は約40人である。通話とメールの利用頻度がいずれも高い高頻度ユーザーは、1年生が2年生よりも10ポイント程度多く、東京の高校生が約6割で、友だちの数の平均は50人以上と最も多くなっている。

次節以降では、これらの利用のタイプも使用して、携帯電話の利用をめぐる意識と行動や、友だちを中心とした対人関係についてみていくことにしよう。

表2 - 7 携帯電話利用者のタイプ分け

		非利用者	低頻度ユーザー	メール型ユーザー	通話型ユーザー	高頻度ユーザー	検定
全体	人数	315	269	197	212	218	
	全体に占める割合(%)	23.2	19.8	14.5	15.6	16.1	
性別	男子(%)	64.4	38.3	40.1	61.3	47.2	**
	女子(%)	35.6	61.7	59.9	38.7	52.8	
学年	1年(%)	52.1	41.6	59.4	50.5	54.6	**
	2年(%)	47.9	58.4	40.6	49.5	45.4	
地域	東京(%)	42.9	45.4	68.5	40.6	58.7	**
	秋田(%)	57.1	54.6	31.5	59.4	41.3	
利用期間	平均(月)	—	13.5	14.8	14.8	16.8	**
利用にかかる費用	月平均(円)	—	5224.2	6697.9	6249.5	8400.9	**
登録友人数	平均(人)	—	66.9	93.4	84.6	119.9	**
通話時間(自分 友だち)	1回平均(分)	—	9.3	10.4	9.2	14.2	**
通話回数(自分 友だち)	1週間平均(回)	—	1.3	1.3	6.1	8.8	**
ウェブ利用	利用する(%)	—	74.0	82.7	70.0	88.1	**
メール数(自分 友だち)	1週間平均(通)	—	9.6	85.8	12.0	93.5	**
友人数	平均(人)	29.5	31.2	47.0	41.0	56.8	**
お小遣い	月平均(円)	6090.2	8384.3	11124.7	11199.5	14341.9	**

検定は、すべてのカテゴリーで合わせて行った結果割合で示しているものはカイ2乗検定の結果平均で示しているものは、Kruskal wallis検定の結果

にとって携帯電話は「安心のためのメディア」であるという指摘(岡田・松田・羽淵 2000)])があり、そうしたことの現れであろう。

また、「常に所持していないと不安になる」という携帯電話へ依存する意識も約5割にみられる。携帯電話は、あれば便利というよりも、必要不可欠なものと感じられているようである。このような依存とも呼べる傾向は、学年別、地域別では大きな差はみられないが、男子よりも女子に多いことがわかる。これも同様に「安心のためのメディア」という点から解釈することもできるが、約15ポイントと差が大きく、他の要因の影響も考えられる。この点については、次節で検討することにしよう。また、利用タイプ別では、高頻度ユーザーが最も依存度が高くなっており、低頻度ユーザーと25ポイント以上の開きが見られる。

2) 携帯電話の利用スタイル

今回の調査では、表2-9のように、どのようなスタイルで携帯電話を利用しているのか、4つの点について質問している。

従来電話は、受ける側は着信を選択的に拒否することはできず、かける側に有利な側面をもっていた。このような受け手側に不利な側面を最も象徴するのが迷惑電話であろう。迷惑電話への対応などを理由として、固定電話では1998年から全国で発信電話番号表示サービスが有料で提供されるようになったが、携帯電話ではそれ以前からこのサービスが無料で行われていた⁶⁾。受ける側にも電話に出るかどうかの選択権が与えられているわけである。こうしたことの影響が、約4割もの高校生が「初めて会った人にも気軽にPHSや携帯電話の番号を教える」ことがあるとしている。特に、1年生と利用頻度の高い者でこ

の傾向が強い。

では、こうした相手からかかってくる電話を、高校生はどの程度選別しているのだろうか。まず、「発信者番号の表示されない電話に出ない」ことがあるのは47.5%となっている。つまり、誰からの通話かわからない場合には、電話に出ないという選別を行っている高校生が約半数ということになる。次に、「発信者番号が表示されても、相手によって電話に出ない」ことがあるのは30.3%となっている。これは、相手によって電話に出るかどうかという選別を行っている者が約3割いることを意味している。しかし、「電波状態の悪さを理由にして、通話中にわざと電話を切る」ことがあるのは13.7%と少数派である。一度電話に出てから通話の拒否をする者は、それ以前の段階で選別を行う者よりもかなり少なくなっている。

男女別では、女子の方が「発信者番号の表示されない電話に出ない」や「発信者番号が表示されても、相手によって電話に出ない」の割合が多くなっている。また、利用タイプ別では、高頻度ユーザーとメール型ユーザーで、「電波状態の悪さを理由にして、通話中にわざと電話を切る」が多くなっている。さらに、危険率5%水準では有意ではないが、「発信者番号が表示されても、相手によって電話に出ない」も10%水準では統計的に有意な差がみられ、通話相手を選択する傾向も強くなっている。これらの結果をみると、選択的な通話行動をとっている高校生は必ずしも多数派とはいえない。しかし、とりえず広く友人関係を取り結び、その後ふるいにかけたり、その都度対応を選択したり、というようなスタイルが少なからず存在していることがわかる。

表2 - 9 携帯電話の利用スタイル × 性・学年・地域・利用タイプ

(%)

	利用者 全体	性 別		学 年		地 域		利 用 タ イ プ				検 定
		男子	女子	1年	2年	東京	秋田	低頻度 ユーザー	メール型 ユーザー	通話型 ユーザー	高頻度 ユーザー	
初めて会った人にも 気軽にPHSや携帯電話の 番号を教える	39.0	39.8	38.8	45.2	33.3	37.1	41.7	30.5	41.3	41.9	52.5	**
発信者番号の表示され ない電話に出ない	47.5	42.8	51.9	43.4	< 52.2	47.9	47.6	53.7	43.9	45.8	48.6	
発信者番号が表示され ても、相手によつて電 話に出ない	30.3	24.2	35.5	28.3	32.5	30.5	30.2	26.0	33.0	28.4	36.7	
電波状態の悪さを理 由にして、通話中に わざと電話を切る	13.7	11.8	15.5	13.8	13.9	12.3	15.5	9.4	17.3	11.8	20.6	**

「よく」+「ときどき」ある割合
 >、<、 、 、*、**は、統計的に有意な差(カイ2乗検定)/>と<と*は危険率5%/とと**は危険率1%)

3) 通話とメールの使い分け

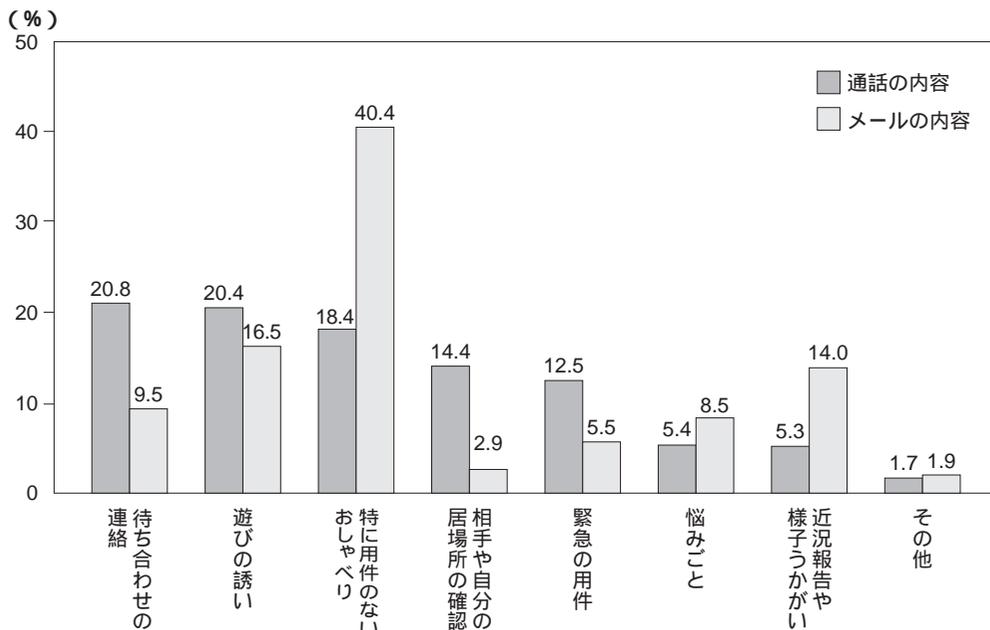
先に通話とメールの利用頻度についてはみたが、ここではその内容に目を向けてみることにしよう⁷⁾。図2-3のように、携帯電話で友だちと話す内容で多いのは、「待ち合わせの連絡」20.8%や「遊びの誘い」20.4%である。男女別では、男子に比べ女子で「遊びの誘い」が少なく、「相手や自分の居場所の確認」が多い(巻末基礎集計表②SQ6)。これも先に指摘した「安心のためのメディア」ということの現れと思われる。学年別では顕著な差はみられない。地域別では、東京に比べ秋田は、「待ち合わせの連絡」が少なく、「特に用件のないおしゃべり」が多くなっている。

メールの内容で最も多いのは「特に用件のないおしゃべり」で、メール利用者の約4割から選択されており、次に多い「遊びの誘い」16.5%を大きく引き離している。男女別では、男子の方が「遊びの誘い」が多く、「近況報

告や様子うかがい」や「悩みごと」が少なくなっている(巻末基礎集計表②SQ12-2)。学年別、地域別では顕著な差はみられない。

両者を比較すると、内容によって通話とメールの使い分けがなされていることがわかる。通話は「待ち合わせの連絡」や「遊びの誘い」など、どちらかといえば用件のためのインストゥルメンタル(道具的)な利用が多く、メールは「特に用件のないおしゃべり」という、それ自体が目的であるコンサマトリー(即時充足的)な利用が多いことがわかる。また、メールでは「近況報告や様子うかがい」も多く、広い友人関係を維持する上で重要な役割を果たしているのではないかと考えられる。しかし興味深いことに、割合は少ないものの、「悩みごと」もメールの方が多くなっている。メールは、単に「希薄な」コミュニケーションを維持するツールとしてだけでなく、対面的なコミュニケーションや通話とは異なる「親密な」コミュニケーションを成立させる側面があるのかもしれない⁸⁾。

図2-3 通話の内容とメールの内容の違い(一番目に多い内容)



通話の内容は携帯電話利用者における割合
メールの内容はメール利用者における割合

4 携帯電話の利用と対人関係

1) 対人関係への影響

本節ではまず、携帯電話を利用するようになって、対人関係を中心として、どのような変化があったと高校生は感じているのかをみてみることにしよう。本調査では、表2-10のような携帯電話の利用による対人関係の変化について8つの質問を行っている。肯定的回答(「とてもそう」+「どちらかといえばそう」)の率が高いのは、「PHSや携帯電話を持っている人と連絡をとりあうことが増えた」93.0%、「ちょっとした用件で連絡をとりあうことが増えた」80.6%である。逆に、肯定的回答の率が低いのは、「友だちと直接

会って話をするのが少なくなった」15.0%、「予定外の外出が増えた」35.4%、「PHSや携帯電話を持っていない人と連絡をとりあうことが減った」37.5%である。

男女別では、女子の方が影響があったとしている者の割合が高い項目が多くなっている。特に興味深いのは、女子の方が「PHSや携帯電話を持っている人と連絡をとりあうことが増えた」と「PHSや携帯電話を持っていない人と連絡をとりあうことが減った」を肯定する割合がともに高いことである。携帯電話の利用率自体の高さにも現れているように、男子よりも女子において、携帯電話が他者とのコミュニケーションにとって必要不

表2-10 携帯電話の利用が与える影響 × 性・学年・地域・利用タイプ

	利用者全体	性別		学年		地域		利用タイプ					検定
		男子	女子	1年	2年	東京	秋田	低頻度ユーザー	メール型ユーザー	通話型ユーザー	高頻度ユーザー		
												(%)	
PHSや携帯電話を持っている人と連絡をとりあうことが増えた	93.0	91.7	< 95.3	94.7	92.7	93.6	93.8	91.8	97.5	94.8	97.7	**	
ちょっとした用件で連絡をとりあうことが増えた	80.6	79.1	83.1	82.3	80.3	81.5	81.1	74.2	83.8	83.0	91.7	**	
家に連絡を入れたり、家族とコミュニケーションをとることが増えた	53.3	46.3	< 60.0	51.9	55.6	52.3	55.2	54.9	54.8	51.9	56.7		
学校外の友だちが増えた	52.1	48.9	< 55.6	54.7	50.3	49.9	55.3	39.8	55.3	50.7	74.8	**	
自分の人間関係について家族が知らないことが増えた	49.9	53.2	48.0	53.6	> 47.0	52.9	47.6	39.0	59.7	50.7	61.0	**	
PHSや携帯電話を持っていない人と連絡をとりあうことが減った	37.5	32.9	< 41.9	40.1	35.5	39.5	36.0	32.1	40.1	36.8	47.7	**	
予定外の外出が増えた	35.4	41.1	> 31.0	37.8	33.3	43.0	> 27.9	24.5	35.2	40.1	53.9	**	
友だちと直接会って話をするのが少なくなった	15.0	15.5	14.9	16.2	14.1	15.5	14.9	10.8	17.9	17.0	17.4		

「とても」+「どちらかといえば」その割合
 >、<、 、 、 *、**は、統計的に有意な差(カイ2乗検定/ >と<と*は危険率5%/ と **は危険率1%)

可欠なものになっているのかもしれない。前節の分析で男子よりも女子に携帯電話へ依存する傾向がみられたが、それは「安心としてのメディア」ということだけでなく、このような点が影響しているのではないだろうか。

また全体でみると、「友だちと直接会って話をすることが少なくなった」や「PHSや携帯電話を持っていない人と連絡をとりあうことが減った」を肯定する割合が低くなっている。全般的には携帯電話を利用するようになって、他者とのコミュニケーションが活発化したり、関係が広がったりしたと意識されているといえよう。そしてこの傾向は、特に女子や高頻度ユーザーにおいて顕著である。ただし、ここでのコミュニケーションの活発化とは、頻度の問題であり、回数が増えた分だけ関係は希薄化したのではないか、と思われるかもしれない。しかしながら、総務庁青少年対策本部〔2000〕の調査では、携帯電話を所有するようになって、「新しい友人が増えた」と回答している高校生が48.4%となっているだけでなく、「友人との仲が深まった」としている者も56.3%となっている。つまり、関係の「拡大」が「希薄化」を必然的に伴うとみるのは必ずしも適切ではないようである。

このような点をふまえると、高校生のコミュニケーションのスタイルには、いわば「広く深い」とでも呼ぶべき対人関係を維持するような特質が存在し、携帯電話の利用がそうした特質と何らかの関連を持っていることも想定される。そこで次に、友人関係に焦点を当て、高校生のコミュニケーションのスタイルの特質や、その特質と携帯電話の利用との関係をみていくことにしよう。

2) 携帯電話の利用と友人関係

本調査では2節でみた主観的な友だちの数の他に、友だちとのつきあい方に関する7つの質問(表2-11)と、友だちとの交際にかかわる意識と行動の5つの質問(表2-12)をしている⁹⁾。まず、友だちとのつきあい方に関する質問で、肯定的回答(「とてもそ

う」+「どちらかといえばそう」)の割合の高い項目は、「友だちの数は多い方がよい」69.6%や、「どこに何をしに行くかによって、一緒に行く友だちを選ぶ」63.1%となっており、5割を超えている。逆に、肯定的回答の少ない項目は、「フルネームで本名がわからない友だちが結構いる」19.3%や、「友だち同士はお互いに知り合いではない」19.6%となっている。この結果をみると、「広い」関係への志向が強く、「選択的な」関係を好む者が多いことがわかる。この2つの傾向は男女別では差がみられないが、学年別では広い関係の志向が1年生で多く、秋田よりも東京で選択的な関係が多くなっている。

また、友だちとの交際にかかわる意識と行動では、「友だちと話をしている、夢中になる」88.4%、「友だちなど親しい人が自分をどう思っているのが気になる」78.8%で、4分の3以上の高校生が肯定的回答(「よくある」+「ときどきある」)をしている。それに対して、「友だちと一緒にいても、自分のやりたいことを優先する」が38.8%、「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」が42.8%で、5割に満たない。男女別では、「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」や「友だちと話をしている、夢中になる」で女子の肯定的回答の割合が高くなっている。学年別、地域別には差がみられない。

ところで、ここで最も注目されるのは、利用タイプでより大きな差がみられることである。非利用者 に比べ 高頻度ユーザー は、広い関係の志向では約15ポイント多く、選択的な関係では約20ポイントも多くなっている。逆に、「友だち関係はあっさりしていて、お互いに深入りしない方だ」や、「悩みごとはあまり友だちに話さない方だ」、「友だちというよりも1人でのいる時間の方が大切だ」を肯定する割合は、非利用者 に比べ 高頻度ユーザー では、かなり低くなっている。また、高頻度ユーザー は 非利用者 に比べ、「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」だけでなく、「友だち

表2 - 11 友だちとのつきあい方 × 性・学年・地域・利用タイプ

(%)

	全体	性 別		学 年		地 域		利 用 タ イ プ					検 定
		男子	女子	1年	2年	東京	秋田	非利用者	低頻度 ユーザー	メール型 ユーザー	通話型 ユーザー	高頻度 ユーザー	
友だちの数は多い方がよい	69.6	74.1	70.0	76.9	67.0	71.2	72.9	68.2	70.7	71.9	72.7	83.5	**
どこに何をしに行くかによって、一緒に行く友だちを選ぶ	63.1	65.1	65.6	64.8	65.9	68.9	61.8	56.4	64.1	70.3	68.6	76.1	**
友だち関係はあっさりしていて、お互いに深入りしない方だ	43.3	48.3	> 41.7	44.4	45.6	42.3	47.7	53.8	42.2	38.5	45.6	36.9	**
悩みごとはあまり友だちに話さない方だ	39.2	49.7	31.4	40.2	40.9	41.0	40.2	54.9	40.5	29.5	41.3	28.2	**
友だちというよりも1人である時間の方が大切だ	29.2	35.4	25.5	28.3	32.5	30.3	30.5	41.0	31.1	22.4	36.8	17.6	**
友だち同士はお互いに知り合いではない	19.6	24.8	16.7	19.8	21.9	22.2	19.4	22.3	22.7	18.0	24.8	16.9	
フルネームで本名がわからない友だちが結構いる	19.3	22.4	> 17.6	21.0	19.0	23.1	17.0	17.3	22.9	19.9	15.3	22.0	

「とても」+「どちらかといえば」その割合。>、<、
、
、*、**は、統計的に有意な差(カイ2乗検定/>と<と*は危険率5%/とと**は危険率1%)

27

表2 - 12 友だちとの交際にかかわる意識と行動 × 性・学年・地域・利用タイプ

(%)

	全体	性 別		学 年		地 域		利 用 タ イ プ					検 定
		男子	女子	1年	2年	東京	秋田	非利用者	低頻度 ユーザー	メール型 ユーザー	通話型 ユーザー	高頻度 ユーザー	
友だちと話をしている、夢中になる	88.4	88.1	94.9	91.3	91.9	91.8	91.4	85.8	91.5	96.3	92.7	97.1	**
友だちなど親しい人が自分をどう思っているのか気になる	78.8	80.6	83.2	83.1	80.7	82.5	81.4	77.7	84.4	87.9	82.4	82.0	
親しくない人でも自分をどう思っているのか気になる	64.1	64.2	68.8	67.7	65.3	66.1	67.0	63.4	73.3	72.3	62.9	66.0	*
嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる	42.8	40.3	48.6	47.0	42.0	43.6	45.4	40.3	41.9	46.1	47.3	52.9	*
友だちと一緒にいても、自分のやりたいことを優先する	38.8	41.3	39.2	39.5	40.9	39.7	40.7	39.6	38.4	37.0	49.5	39.6	

「よく」+「ときどき」ある割合。>、<、
、
、*、**は、統計的に有意な差(カイ2乗検定/>と<と*は危険率5%/とと**は危険率1%)

と話をしている、夢中になる」を肯定する割合も高い。つまり、携帯電話の利用者、特に高頻度ユーザーは、広い関係を志向しているからといって、友人関係が「浅い」というわけではないようである。少なくともこの結果からは、携帯電話の利用と「対人関係の希薄化」を単純に結びつけるような見方が妥当とはいえないことがわかる。

3) メールによる対人関係の広がり

通話機能を中心とした初期の携帯電話の研究では、携帯電話はポケベルやインターネットとは異なり、特定少数の親しい人と24時間一緒にいるような心理をもたらし、フルタイム・インティメイト・コミュニティを形成するという指摘がなされていた(仲島・姫野・吉井[1999])。しかし、メールやウェブの利用が可能になった携帯電話は、「匿名性を前提としたメディア上での親密な見知らぬ人『インティメイト・ストレンジャー』」(富田[1997])を求め、外向きのメディアとしての特質も有するようになってきている可能性がある。そこで、高校生があまり身近でない他者や学校外の他者との関係の形成や維持にメールをどの程度利用しているのかをみてみることにしよう。

表2-13のように、メール利用者の43.5%の高校生が「ふだんあまり話さない学校の友だちとメールのやりとりをする」としており、メールが広い友人関係の維持に利用されていることがわかる。また、「直接会ったことのない学校外の人とメールのやりとりをする」が29.9%、「出会いのサイトなどで友だちやメル友を募集する」が8.7%となっている。メールは、学校外の人間関係を形成したり、広げたりすることに利用されているが、そのような利用の仕方をしている高校生は多数派というわけではないようである。また、メル友を自ら募集するなどしているのは少数のようである。残念ながら、「直接会ったことのない学校外の人」とメールのやりとりをするようになった経緯については、今回の調査が

らは明らかにすることができない。

性別、学年別、地域別にみてもことにしよう。「ふだんあまり話さない学校の友だちとメールのやりとりをする」では、1年生が50.0%、2年生が36.7%と差がみられる。「直接会ったことのない学校外の人とメールのやりとりをする」は、性別、学年別、地域別のすべてで差がみられる。男子23.8%、女子35.0%、1年生33.7%、2年生26.0%、東京24.8%、秋田35.5%となっている。また、利用タイプ別では、3項目すべてで差がみられる。3項目とも高頻度ユーザーとメール型ユーザーで選択率が高くなっている。

4) 携帯電話の利用と他者に対する配慮

最後に携帯電話の利用にかかわるマナーという点から、目の前にいる匿名的な他者との関係についてみてみることにしよう。具体的には、3つの場面で、携帯電話の電源を切ったり、マナーモードにしたりするかどうかをたずねてみた。表2-14のように、「学校の授業中」92.4%、「コンサートやライブの最中」84.8%、「混んだ電車やバスの中にいるとき」83.9%となっている(無回答やそうした状況がないを除いた割合)。授業中に電源を切ったり、マナーモードにしたりすることは、周りの人への配慮の現れとは必ずしもいえない面もある。しかし、他の2つの場面でも選択率は8割以上となっており、周りの人へ配慮する高校生が多いことがわかる。ただし、高頻度ユーザーで、マナーを守っている者が若干少なくなっている。前項の結果と合わせると、高頻度ユーザーは、メディア上のストレンジャーへの関心は高く、目の前のストレンジャーに対する関心は相対的に低いということになる。携帯電話を利用する高校生にとって、両者はどのような位置づけにあるのだろうか。また、仮想の関係の優位というような見方は妥当なのだろうか。この点については、次節のまとめで考えることにしよう。

表2 - 13 メールによる対人関係の広がり × 性・学年・地域・利用タイプ

(%)

	メール利用者全体	性 別		学 年		地 域		利 用 タ イ プ				検 定
		男子	女子	1年	2年	東京	秋田	低頻度ユーザー	メール型ユーザー	通話型ユーザー	高頻度ユーザー	
ふだんあまり話さない学校の友だちとメールのやりとりをする	43.5	43.0	43.9	50.0	36.7	44.6	42.3	35.7	47.7	44.3	50.5	**
直接会ったことのない学校外の人とメールのやりとりをする	29.9	23.8	35.0	33.7	26.0	24.8	35.5	24.5	38.1	19.3	39.4	**
出会いのサイトなどで友だちやメル友を募集する	8.7	7.2	9.8	8.2	9.2	8.6	8.7	4.8	15.7	2.8	12.8	**

>、<、 、 、 *、 **は、統計的に有意な差(カイ2乗検定 / >と<と*は危険率5% / と と**は危険率1%)

表2 - 14 電源を切ったり、マナーモードにしたりするか × 性・学年・地域・利用タイプ

(%)

	利用者全体	性 別		学 年		地 域		利 用 タ イ プ				検 定
		男子	女子	1年	2年	東京	秋田	低頻度ユーザー	メール型ユーザー	通話型ユーザー	高頻度ユーザー	
学校の授業中	92.4	90.9	93.7	93.6	91.3	93.2	91.6	94.2	95.9	90.2	91.0	
コンサートやライブの最中	84.8	81.8	87.1	86.6	82.9	89.1	78.7	91.4	90.7	80.3	79.8	**
混んだ電車やバスの中にいるとき	83.9	82.0	85.3	84.3	83.4	88.7	77.8	87.6	84.9	83.7	80.0	

「いつも」+「ときどき」する割合。ただし、無回答やそうした状況がないを除いた割合であり、巻末の基礎集計表とは一致しない
>、<、 、 、 *、 **は、統計的に有意な差(カイ2乗検定 / >と<と*は危険率5% / と と**は危険率1%)

5 ケイタイ世代のコミュニケーションのゆくえ

1) 分析の要約

「移動電話の利用状況」のまとめは、2節の最後に行ったので、ここでは3節と4節の結果を手短かに要約することにしたい。

まず、3節の「携帯電話の利用をめぐる意識と行動」に関してまとめることにしよう。

①移動電話の利用に関して、拘束感を感じている者は利用者の約1割と少なく、その利便性が強く意識されているが、常に持っていないと不安という依存の意識も半数の者にみられる。②初めて会った人にも気軽に移動電話の番号を教える者が利用者の約4割、発信電話番号表示を利用して通話相手の選択を行っている者は約3割である。特に、移動電話の利用頻度の高い高校生は、気軽に番号を教える者が半数を超える一方、通話中に電話をわざと切ったり、番号表示によって通話相手を選択したりする傾向が強い。③通話とメールは、内容によって使い分けがなされている。通話は、「待ち合わせの連絡」や「遊びの誘い」など用件を伝えるインストゥルメンタルな利用が多い。それに対しメールは、「特に用件のないおしゃべり」が約4割と、それ自体が目的であるコンサマトリーな利用のされ方が多くなっている。また、メールでは「近況報告や様子うかがい」も多く、広い友人関係を維持する上で重要な役割を果たしている。しかし、「悩みごと」も通話より多く、単に「希薄な」関係を維持するツールというわけではなく、対面的なコミュニケーションや通話とは異なる「親密さ」を成立させている可能性がある。

次に、4節「移動電話の利用と対人関係」では、次のようなことが明らかとなった。①移動電話の利用によってコミュニケーションが活発化したり、他者との関係が拡大したり

したとする者が多い。特にその傾向は、女子と移動電話の利用頻度の高い者で強い。②移動電話をめぐる友人関係を、「希薄」というステレオタイプで理解することはできない。利用頻度が高い高校生は、友だちと「広く」かつ「選択的な」つきあい方をしている割合が高い。しかし同時に、悩みを話すことも多いなど、あっさりとした関係ではなく「深い」関係を築いている。③メールは、身近ではない他者との関係を形成したり、広げたりすることにも利用されている。メール利用者の43.5%が「ふだんあまり話さない学校の友だち」と、29.9%が「直接会ったことのない学校外の人」とメールのやりとりをしている。しかし、「出会いのサイトなどで友だちやメル友を募集する」としているのは8.7%であり、多数派というわけではない。3項目ともメールの利用頻度の高い者で選択する率が高くなっている。④移動電話の電源を切ったり、マナーモードにしたりする高校生は、「学校の授業中」92.4%、「コンサートやライブの最中」84.8%、「混んだ電車やバスの中にいるとき」83.9%となっている（そのような状況がない者は除いた割合）。いずれも選択率は8割以上となっており、周りの人へ配慮する高校生が多いことがわかる。ただし、移動電話の利用頻度の高い者で、マナーを守る割合が若干低くなっている。

2) 対人関係希薄化論をこえて

最後に、今回の調査結果をふまえ、若者の友人を中心とした他者との関係性や、移動電話など電子メディアの利用、そしてその関連について考えてみることにしよう。

若者の対人関係あるいは友人関係について、しばしば批判的になされるのが「対人関係希薄化論」と呼ばれる指摘である。さらに、希

薄化論は、携帯電話など電子メディアの利用としばしば結びつけられる。つまり、①最近の若者の友人関係や対人関係は「広いが浅い」②友だちは多いのだけれど、深入りしないようにつきあっているため、「孤独感」が高まる。③その孤独感をいやすため、携帯電話などで「常に誰かとつながっていないと不安」になる。このような指摘は、若者の対人関係を一見的確に言い当てているように思われる。我々おとなからすれば、100人近くもの友人と親密な関係を維持することは、ほとんど不可能に思われるからである。しかし、こうした議論が若者の対人関係の一面しか捉えきれていないのではないかと、いうことを3つの点から考えてみたい。

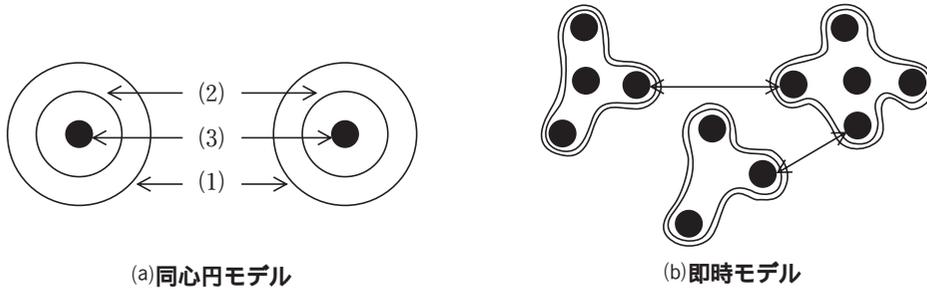
まず、若者の対人関係の特質は、「希薄」というよりも、「選択的」という観点から捉える方が適切ではないかという点がある。今回の調査結果においても、友人数や友人とのつきあい方の志向をみると、高校生の友人関係が「広い」ということは確かなようである。また、携帯電話の利用が、そのような「広い」関係を促進する傾向もみられた。しかしながら、高校生の友人関係は「浅い」関係とは必ずしもいえず、いわば「広く深い」関係とも呼ぶべきものであった。「広く」かつ「深い」関係などというものが、成り立つのであろうか。ここで注目すべきは、調査結果において、高校生の友人関係のもう一つの特徴が、「選択的」という点にあったことである。つまり、「選択的」という特質が、「広く深い」という一見すると矛盾するような関係を成立させているのではないかということである。『モノグラフ・高校生』vol.56「高校生の他者感覚 - ゆるやかな人間関係の持ち方 -」でも、状況に応じた柔軟な関係を志向する高校生が少なからずみられた(岩田[1999])。つまり、高校生は、相手や状況によって関係を使い分けることによって、「広く深い」他者との関係を維持しているといえるのではないだろうか¹⁰⁾。また、携帯電話の利用頻度の高い高校生に、このような選択的な関係を好む者が多

かった。携帯電話は、関係の希薄化を促進していくというよりもむしろ、選択的な関係と親和的であり、そうした関係を促進していくといえるのではないだろうか。

しかし、希薄化論を選択的関係論に置きかえれば、それですべての説明がつくわけではない。たとえば、「選択的」な友人関係をもつ高校生や大学生には、希薄化論で問題視されるような「孤独」を感じている者が、「狭く深い」関係をもつ者よりも多く見いだされるからである(岩田[1999][2001])。しかし、このことによっても希薄化論が単純に支持されるわけではない。『モノグラフ・高校生』vol.60「高校生の自我像 - 『自分探し』をする高校生 -」における分析(岩田[2000])や、浅野[2001b]の大学生を対象とした分析では興味深い結果が示されている。それは、選択的な関係性と関連した自己の使い分けに関する点である。選択的な関係は自己の複数性や多元性と結びつくのであるが、複数の自己に対する意識によって「孤独感」に差がみられるのである。複数の自己を本当と偽の使い分けとしている者に比べ、どれも本当の私としている者は、「孤独感」を感じている者の割合が少ないのである。つまり、自己の使い分け、そしてそれと関連する選択的な関係と、「孤独感」との関係は必然的なものとはいえないのである。このことは、選択的な関係のすべてが「深い」関係ではないということを示す一方で、希薄化論における友人関係と孤独感との関連づけの単純さも浮き彫りにしている。

また、非常に多くの他者との深い関係という点は、「親密さ」の見方についても再考を促している。ここでは、「即時的な親密さ」という、「新しい」親密さについて考えてみたい¹¹⁾。これまでの親密さの議論の多くは、「同心円モデル」と呼ぶことができる。つまり、図2-4(a)のように、親密さというものが、(1)相手の名前や属性を知り、(2)対面的なコミュニケーションを通じて相手のことをさらによく知り、(3)本音や本当の自分を見せる、とい

図 2 - 4 親密さの2つの模式図



うようないくつかの段階を通じて時間をかけて徐々に形成されるという考え方である。しかし、近年しばしば批判的に取り上げられる「ネット恋愛」にみられるような電子的メディアによって結ばれたネットワーク上での親密さは、このような親密さとは異なるように思われる。それは、同心円モデルの(1)や(2)の段階をとばして、いきなり(3)の段階に到達するような短期的に形成される「即時的な親密さ」である。このような親密さは、「現実」と「仮想現実」の混同という観点からしばしば批判されるが、むしろ同心円モデルとその前提自体を見直す必要があるのではないだろうか。同心円モデルの前提とは、「私」というもののあり方に対する遠近法的な見方である。つまり、「自己の核心部分に最も重要でそれゆえなかなか他人には明かせないような何かがおかれており、」表層に近づくにつれて誰にでも話せるような些細な要素になっている、というような見方である(浅野 2001a : 36)。非常に多くの他者との深い関係を可能にして

いるのは、選択的な関係性だけでなく、このような「親密さ」に象徴される親密さの変容にもあるのではないだろうか。選択的關係性と自己の複数性という点をふまえ、このような即時的な親密さをあえて図式化すれば、図 2 - 4 (b)のようになるだろう。もちろん、「同心円モデル」のような親密さがなくなってしまったということでもないし、「即時モデル」のような親密さがこれまでなかったわけでもない。しかしながら、携帯電話のみならず、電子メディアの進展が予想されるなかで、このような親密さは、ますます遍在化するようになるのではないだろうか。

このように、「対人関係希薄化論」を前提とした若者の対人関係や電子メディアの影響についての議論には、多くの検討の余地が残されている。今回の調査結果から確認できることは限られているが、高校生をはじめとした若者の他者とのコミュニケーションに対する我々おとなの視線を問い直す必要があることは、少なくとも示しているといえよう。

[注]

- 1) 携帯電話の契約数の推移については、電気通信事業者協会(TCA)のウェブページを参照。<http://www.tca.or.jp/>
- 2) この調査は、茨城、群馬、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川の関東地方の1都6県の世帯を対象としている。詳細については、大石[1997][1998]、実績・安藤[2000][2001]を参照。
- 3) この調査は、宮城、千葉、東京、石川、奈良、熊本の6都県の高中生2年生を対象として実施された。なお、報告書には地域別の分析結果は示されていない。詳細については、総務庁青少年対策本部[2000]を参照。
- 4) 非利用者における「以前は使用していたが、現在はどちらも使用していない」「使用したことはないが、今後どちらか(または両方)を使用したいと思う」「使用したこともないし、今後どちらも使用したいと思わない」は、本来であれば分ける必要があるが、人数が少なくなってしまうこともあり一括している。
- 5) 通話回数やメールの送信数を回答していない者がいるため合計で100%にはならない。

- 6) 発信電話番号表示サービスとは、発信者の電話番号を着信者に通知し、電話機に表示するサービスである。このサービスの詳細については、岡田 [1999] を参照。
- 7) 本調査では、巻末の調査票見本 (Q 2 SQ 6・SQ12-2) のように、友だちにどのような通話をするか、あるいはメールをするかについて、3番目に多い内容まで聞いている。しかし紙幅の関係から、分析では一番多い内容のみを対象としている。2番目に多い内容や3番目に多い内容については、基礎集計表を参照。
- 8) このような使い分けは、通話料金が現在高いということもあり、通話とメールのメディアとしての特性によるものであるかどうかは今後さらに検討する必要がある。また、携帯電話以外の手段も含めた使い分けについては、5章を参照。
- 9) 友人との交際にかかわる行動について、このほかに5つの質問をしている (調査票見本Q26を参照)。しかし、音楽やテレビにかかわる項目のため、3章と4章で分析を行っている。
- 10) 若者の対人関係の特質を「選択的」という観点からとらえようとする指摘は、浅野 [1995][1999]、辻 [1999]、松田 [2000] など、他にも見いだすことができる。
- 11) この議論は、浅野 [2001a][2001b] と、青少年研究会 (代表: 高橋勇悦・川崎賢一) が実施した「大学生のコミュニケーションと意識に関する調査」の質問紙を作成する際のワーキンググループでの討議に多くを負っている。また模式図は、2001年6月30日に大妻女子大学で行われた研究会において、浅野智彦と岩田が同調査に関する共同発表を行った際に、若者論の代表的論者の一人である小谷敏らの質疑に対して浅野が提示した図を参考に岩田が作成した。

[参考文献]

- 浅野智彦 1995 「友人関係における男性と女性」高橋勇悦監修『都市青年の意識と行動 - 若者たちの東京・神戸90's分析編 -』恒星社厚生閣
- 1999 「親密性の新しい形へ」富田英典・藤村正之編『みんなぼっちの世界 - 若者たちの東京・神戸90's - 展開編 -』恒星社厚生閣
- 2001a 「ネットカルチャーと若者のアイデンティティ」青少年研究会『今日の大学生のコミュニケーションと意識』
- 2001b 「多元化する自己の二つのベクトル」青少年研究会『今日の大学生のコミュニケーションと意識』
- 橋元良明 1998 「パーソナル・メディアとコミュニケーション行動 - 青少年にみる影響を中心に -」竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『メディア・コミュニケーション論』北樹出版
- 岩田 考 1999 「友人関係の現在 - 友人関係・自己意識・不安 -」深谷昌志監修『高校生の他者感覚 - ゆるやかな人間関係の持ち方 -』(モノグラフ・高校生'99 Vol.56) ベネッセ教育研究所
- 2000 「高校生の自分探し - 『自分探し』という神話 -」深谷昌志監修『高校生の自我像 - 「自分探し」をする高校生 -』(モノグラフ・高校生 Vol.60) ベネッセ教育研究所
- 2001 「大学生における自己意識の現在 - 自己の複数性と選択的関係性 -」青少年研究会『今日の大学生のコミュニケーションと意識』
- 実積寿也・安藤正信 1999 「移動体通信の普及動向」『郵政研究所月報』(No.130)
- 2000 「移動体通信の普及動向」『郵政研究所月報』(No.139)
- 松田美佐 2000 「若者の友人関係と携帯電話利用 - 関係希薄化論から選択的関係論へ -」日本社会情報学会『社会情報学研究』(No.4 第4号)
- 仲島一朗・姫野桂一・吉井博明 1999 「携帯電話の普及とその社会的意味」財団法人 情報通信学会『情報通信学会誌』(Vol.16 No.3)
- 大石明夫 1997 「移動体通信の普及動向と加入需要及び通話支出の分析」『郵政研究所月報』(No.110)
- 1998 「移動体通信の普及動向と通話支出」『郵政研究所月報』(No.116)
- 岡田朋之 1999 「発信電話番号通知にみるメディア・コミュニケーションの変容」関西大学経済・政治研究所『組織とネットワークの研究』(研究双書 第112冊)
- 岡田朋之・松田美佐・羽淵一代 2000 「携帯電話利用におけるメディア特性と対人関係 - 大学生を対象とした調査事例より -」財団法人 情報通信学会『平成11年度 情報通信学会年報』
- 総務庁青少年対策本部 2000 『青少年と携帯電話等に関する調査研究報告書』
- 富田英典 1997 「インティメイト・ストレンジャーの時代 - ポケベル・ケータイで結ばれた『近い他者たち』 -」富田英典・藤本憲一・岡田朋之・松田美佐・高広伯彦著『ポケベル・ケータイ主義!』ジャストシステム
- 辻 大介 1999 「若者のコミュニケーションの変容と新しいメディア」橋本良明・船津衛編『子ども・青少年とコミュニケーション』(シリーズ情報環境と社会心理 3) 北樹出版

第3章 IIIII

I HATE MUSIC. WE ARE THE MUSIC.

1 はじめに

私たちの日常生活をとりまく環境は、どこへ行っても音楽だらけである。自分から主体的に音楽を聴こうとしなくても、家の中にいてテレビをつければ、音楽番組ばかりでなく、ドラマはもちろん、ニュースからも主題歌やBGMが流れてくる。家の外に出れば、商店街や店の中で音楽が流されているし、電車や歩道では、ヘッドフォンで音楽を聴いている人や、着メロが鳴ってあわててケータイを取り出す人を見かける…。

消費社会をリードするユースカルチャーのまっただ中にある高校生は、一般に音楽との接触頻度が最も高い社会集団の1つと考えられている。しかし、そのような彼らも一様に音楽との高い接触をしているわけではないだろう。なにより音楽に対する意味づけ方に違いがあるのではないだろうか。つまり、消費社会の最前線にあって、彼らは一方的に提供される音楽を受動的に受けいれているだけではなく、能動的な選択をしたり、音楽接触にあたって音楽本位か否かという違いがあった

りするのではないだろうか。

このような問題関心から、本章では、高校生の音楽行動の多寡よりも音楽に対する意味づけ方の違いにどのような特徴があるのかを検討する。その際、なぜ音楽が好きかなどの、いわば音楽に対する正の感情を検討しても、ふだん音楽が身近にあることがあまりに当然なため、意味のある特徴を明らかにすることはおそらく難しい。そこで、音楽を聴きたくないときや嫌いになるときなどの音楽に対する負の感情を取り上げて検討を進めていく。

音楽行動や音楽の好みに関する社会学的な研究の多くは階層性に注目していたが、今日の高校生の場合、差異の要因はそれだけではないようだ。つまり、先取りするならば、音楽を“メディア”として使うかどうか - 「ツールの使用」という概念を用いる - が、彼らのふだんの音楽行動や音楽に対する意識、かまえて差異をもたらしているのである。

以下の各節では、まず、音楽学習経験、ふだんの音楽行動、様々な音楽ジャンルのイメ

ーじの実態を把握する。続いて、ふだんの音楽行動を差異化させる一要因としての「ツールの使用」に注目する。さらに、音楽に対する負の感情について「ツールの使用」をふまえて検討する。最後に、「ツールの使用」と音

楽学習経験の有無との比較を交えつつ、音楽に対するかまえの特徴を検討して、高校生の音楽に対する意味づけ方の特徴について考察をまとめていく。

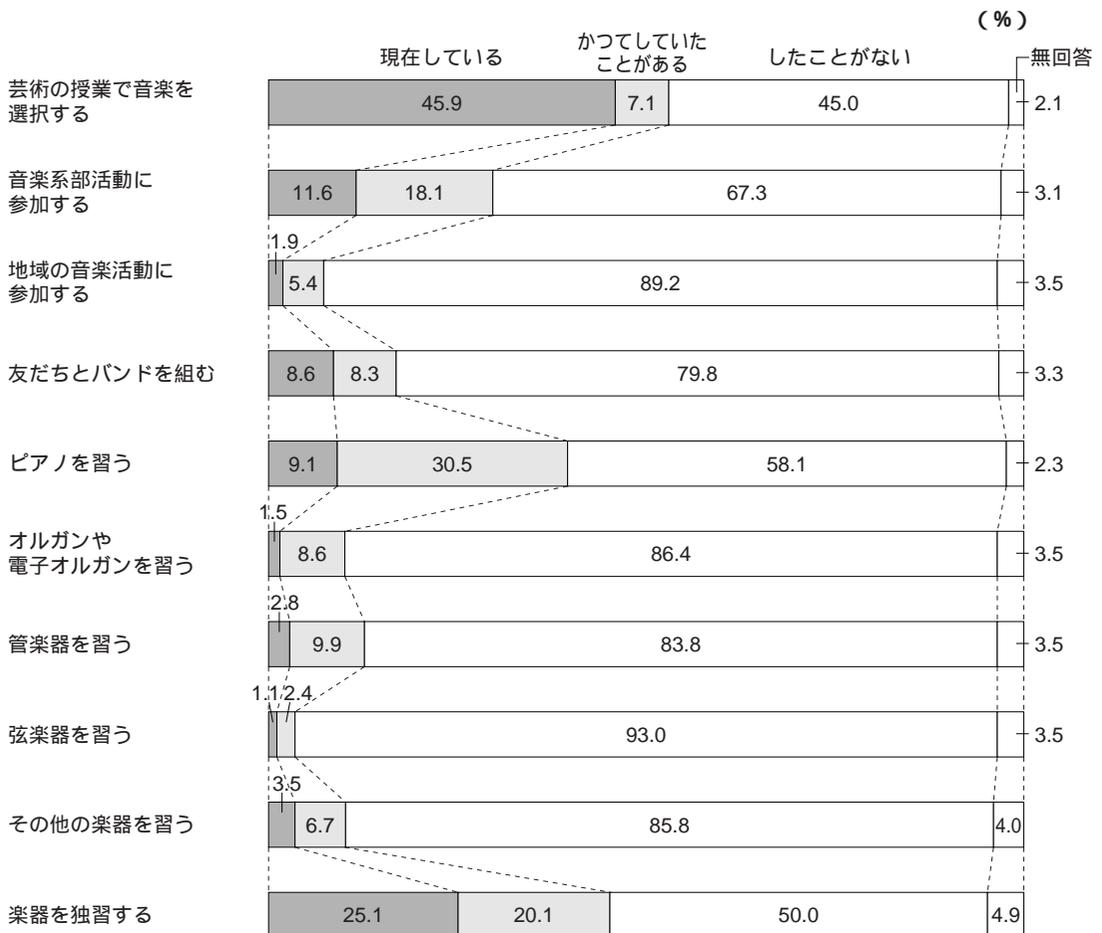
2 音楽学習経験とふだんの音楽行動の実態

まず図3 - 1から高校生の音楽学習経験について、学校、地域、家庭に分けてみていこう。

学校での音楽学習経験については、45.9%

が現在芸術科で音楽を選択し、7.1%がかつて選択した経験があるので、半数以上が高校に入ってから学校で音楽を学んでいることになる。

図3 - 1 音楽学習経験



男女別にまとめた表3 - 1によれば、男女差はほとんどない。地域別にまとめた表3 - 2によれば、東京より秋田の方が「現在」と「かつて」を合わせて10ポイント以上多く選択している。音楽系部活動は、11.6%が現在していて、18.1%がかつてしていた経験がある。表3 - 1によれば、男子は「現在」と「かつて」を合わせて18.9%にすぎないのに対して、女子は42.0%が音楽系部活動に参加した経験がある。これは、単に女子の方が音楽が好きということではなく、運動部と文化

部のバランス、文化部の種類の問題なども影響していると考えられる。

地域での音楽学習経験についてしてみると、地域の音楽活動にかかわったことがあるのは「現在」と「かつて」を合わせてもわずかに7.3%だが、16.9%が友だちとバンドを組んだ経験がある。バンド活動には男女差がみられ、表3 - 1のように、男子は27.3%で女子の7.6%より3倍以上多い。

家庭での音楽学習経験についてみてみよう。習った経験の最も多い楽器はピアノで、9.1%

表3 - 1 音楽学習経験とふだんの音楽行動(抜粋) × 性

		(%)	
		男子	女子
芸術の授業で音楽を選択する	現在している	45.0	48.7
	かつてしていたことがある	7.7	6.7
音楽系部活動に参加する	現在している	9.3	14.5
	かつてしていたことがある	9.6	27.5
ピアノを習う	現在している	3.0	15.5
	かつてしていたことがある	14.5	47.7
友だちとバンドを組む	現在している	15.1	2.7
	かつてしていたことがある	12.2	4.9
楽器を独習する	現在している	32.5	20.0
	かつてしていたことがある	20.9	21.4
家でCDなどを聴く	毎日のようにする	56.7	54.8
	よくする	22.1	28.5
	ときどきする	13.9	11.1
音楽番組を聴く	毎日のようにする	32.1	36.3
	よくする	31.4	39.6
	ときどきする	20.9	16.8
カラオケに行く	毎日のようにする	0.4	1.2
	よくする	15.9	30.0
	ときどきする	36.3	44.4
自由に楽器を演奏する	毎日のようにする	14.1	7.5
	よくする	11.5	10.1
	ときどきする	12.1	20.1

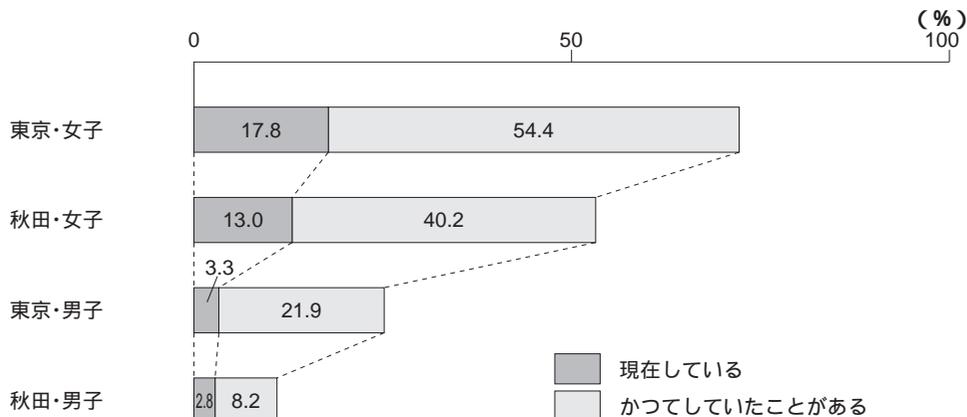
が現在も、また30.5%がかつて習っていて、合わせて5人に2人はピアノの学習経験がある。ただ、その内訳には大きな偏差があり、図3 - 2のように男女差と地域差がみられる。つまり、「現在」と「かつて」を合わせると、東京・女子 = 72.2%、秋田・女子 = 53.2%、東京・男子 = 25.2%、秋田・男子 = 11.0%というように、なによりも男子より女子の方が圧倒的に多くピアノを習った経験があり、さらに同性の間でも、秋田より東京の方が10数ポイント多く習っているのである。

その他の楽器の学習経験は、オルガンや電子オルガン、管楽器は1割程度、弦楽器にいたってはわずかに3%ほどにとどまっている。その一方で、楽器を独習した経験は、「現在」と「かつて」を合わせて45.2%と、半数近くになっている。ただし、図表にはまとめていないが、そのほとんどが他の楽器を習った経験がある。楽器の独習は、表3 - 1のように男子の方が10ポイント以上も多く現在やっている。

表3 - 2 音楽学習経験とふだんの音楽行動(抜粋) × 地域

		(%)	
		東京	秋田
芸術の授業で音楽を選択する	現在している	42.8	50.8
	かつてしていたことがある	4.9	9.5
家でCDなどを聴く	毎日のようにする	49.6	61.9
	よくする	26.9	23.7
	ときどきする	15.7	9.4
音楽番組を聴く	毎日のようにする	30.8	37.5
	よくする	37.0	34.0
	ときどきする	18.2	19.5
CDを買う	毎日のようにする	3.7	6.2
	よくする	26.1	32.0
	ときどきする	39.1	43.1

図3 - 2 ピアノ学習経験 × 地域・性



次に、図3 - 3から高校生のふだんの音楽行動についてみていこう。図3 - 3は、「毎日+よく」で頻度の高い順に並べてある。

最も頻度が高いのは「家でCDなどを聴く」で、「毎日+よく+ときどき」=「55.3%+25.1%+12.5%」=92.9%となっている。半数以上が毎日家で音楽鑑賞をしていて、高校生が家で音楽を聴く姿は、家庭の当たり前の光景になっている。表3 - 1によれば男女差はないが、表3 - 2のように、毎日音楽鑑賞をしている割合は東京より秋田の方が10ポイント以上高い。

次いで頻度が高いのが「音楽番組を聴く」で、「毎日+よく+ときどき」=「34.1%+35.4%+18.8%」=88.3%と、音楽番組を聴くのも日常生活の一場面になっている。表3 - 1から男子より女子の方が、表3 - 2から東京より秋田の方が、音楽番組をよく聴いている。

“ながら聴き”をするのは、「毎日+よく+ときどき」=「15.0%+29.5%+24.1%」=68.6%。図表には示していないが、成績下位者ほど“ながら聴き”をしているという成績差がみられ、どうやら家で音楽を聴きながら勉強をしている様子が浮かんでくる。

「CDを買う」は、「毎日+よく+ときどき」=「4.9%+29.0%+41.0%」=74.9%で、「レンタルCDを借りる」の「毎日+よく+ときどき」=「3.2%+26.2%+25.6%」=55.0%よりもずいぶん頻度が高い。「ときどき」の割合で差がみられるように、そうしょっちゅう買いに行っているわけではないが、以前よりCDの値段が相対的に安くなっていることで、借りるくらいなら買ってしまった方がいいと考えているのだろう。表3 - 2のように東京より秋田の方がCDをよく買っている。

「友だちとCDなどの貸し借りをする」と「友だちとJ-POPや洋楽の話をする」は、他の項目と回答の形式が違うが、前者が「よく+ときどき」=「32.5%+48.1%」=80.6

%で、後者が「よく+ときどき」=「31.4%+37.7%」=69.1%と、友だちと音楽を媒介にした接触を持つことはごくふつうに行われている。なお、この2項目は第4節で詳しくみていく。

「外出時ポータブルCDプレーヤーなどで音楽を聴く」のは、「毎日+よく+ときどき」=「15.1%+17.3%+22.5%」=54.9%で、半数強だった。筆者が高校生の時分には、もっと多かった気がするが、携帯電話に押されているのかもしれない。

「カラオケに行く」は、「毎日+よく+ときどき」=「0.8%+22.8%+40.2%」=63.8%で、しょっちゅう行くものでもないが、半数以上がしばしば歌いに行っているようだ。表3 - 1のように男女差がみられ、男子より女子の方がカラオケに行っている頻度がずいぶん高い。

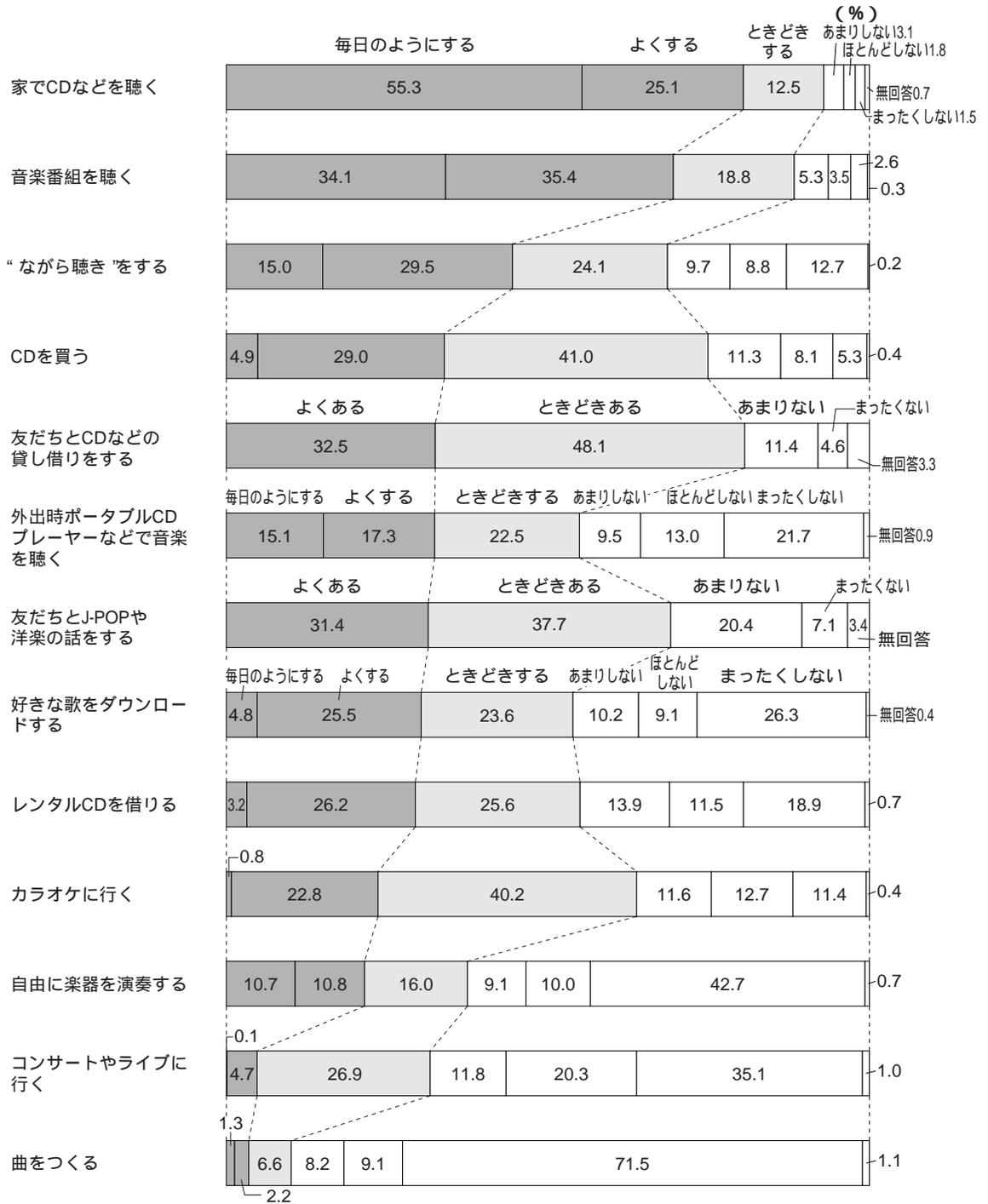
「自由に楽器を演奏する」は、そんなに頻度は高くないが、表3 - 1のように「毎日」やっているのは、女子より男子の方が多い。

音楽学習経験とふだんの音楽行動をまとめてみよう。

男女別にみると、男子が友だちとバンドを組んだり自分で好きな楽器を弾いたりする一方、女子は音楽系部活動に入ったりピアノを習ったりし、音楽番組を見てカラオケに通っている。男女では音楽の学び方も音楽行動の取り方も違っていて、男子は自分の世界で主体的に、女子は消費社会を謳歌するように音楽接触をしているようだ。

地域別にみると、音楽学習経験では、東京は家庭でピアノを学ぶのに対して、秋田は学校で学び、音楽行動では、東京より秋田の方が消費社会の提供する音楽により接している。地域差からは音楽の階層性と市場性が交錯しているようにみえる。本章ではあまり踏み込まないが、今後取り組むべき非常に興味深い課題である。

図3-3 ふだんの音楽行動



3 様々な音楽ジャンルのイメージ

音楽には様々なジャンルがあるが、高校生はそれらをどのようにイメージし、聴き分けしているのだろうか。図3 - 4 ~ 図3 - 7のように、ふだん高校生がよく接しているジャンルからそうでないジャンルまで10種類の音楽ジャンルを取り上げ、「親近感」「理解度」「気分のもちよう」「心地ぐあい」の4つの側面から、各ジャンルに対するイメージを検討し、聴き分けの様子を考察してみよう。

1) 親近感 (図3 - 4)

親しみやすいジャンルは、高い順に「女性ボーカル」(88.0%)、「癒し系バンド」(87.9%)、「男性ボーカル」(85.4%)、「アイドル」(71.8%)。近づきたいジャンルは、高い順に「唱歌」(77.8%)、「ジャズ」(70.2%)、「80年代」(67.9%)、「クラシック」(62.2%)となっている。親しみやすいジャンルは、テレビで聴いたりCDを買ってきて聴いたり、大量消費的に接する機会があるものだが、近づきたいジャンルは、学校で習うものや高校生くらいでは自分から進んで聴かないと耳にすることがあまりないもので、接する機会の量と場面の違いがそのまま各ジャンルに対する親近感になっているようだ。

2) 理解度 (図3 - 5)

わかりやすいジャンルは、高い順に「癒し系バンド」(88.4%)、「女性ボーカル」(87.4%)、「男性ボーカル」(85.2%)、「アイドル」(70.7%)。よくわからないジャンルは、高い順に「ジャズ」(77.6%)、「唱歌」(75.6%)、「クラシック」(67.3%)、「ヒップホップ」(64.6%)となっている。わかりやすいジャンルは、親しみやすいジャンルと同じで、ふだん接する機会の多さがそのままわかりやすさにつながっているのだろう。よくわからな

いジャンルには2種類あるようだ。「唱歌」や「クラシック」は、学校で接したことがあるはずで、「よくわからない」というよりは「難しい」ということなのだろう。一方「ジャズ」や「ヒップホップ」は、それに興味を持たないと接することがなくて体験をあまりしていないことから、本当に「わからない」ということなのだろう。

3) 気分のもちよう (図3 - 6)

気分が落ち着くジャンルは、高い順に「クラシック」(91.1%)、「唱歌」(90.9%)、「80年代」(89.3%)、「癒し系バンド」(89.1%)、「男性ボーカル」(84.5%)。気分が盛り上がるジャンルは、高い順に「アイドル」(94.5%)、「ヒップホップ」(85.8%)となっている。「クラシック」は必ずしも気分が落ち着くものばかりではないのだが、ほとんどの高校生にそうイメージされているというのはおもしろい。また同じJ-POPでも、気分が落ち着く「癒し系バンド」や「男性ボーカル」と、気分が盛り上がる「アイドル」や「ヒップホップ」というように、はっきりと聴き分けがなされている様子が見えてくる。

4) 心地ぐあい (図3 - 7)

心地よいジャンルは、高い順に「女性ボーカル」(90.8%)、「男性ボーカル」(89.5%)、「癒し系バンド」(89.3%)、「洋楽」(86.7%)、「クラシック」(72.2%)。心地悪いジャンルには顕著な傾向はみられず、「唱歌」と「80年代」でほぼ半々に分かれた程度である。癒し系の音楽が流行っている現在、そのような心情を的確に捉えた「女性ボーカル」「男性ボーカル」「癒し系バンド」の音楽や、気分が落ち着くと理解されている「クラシック」は、文字どおり心地よく癒してくれるものなのだ

図3 - 4 親近感

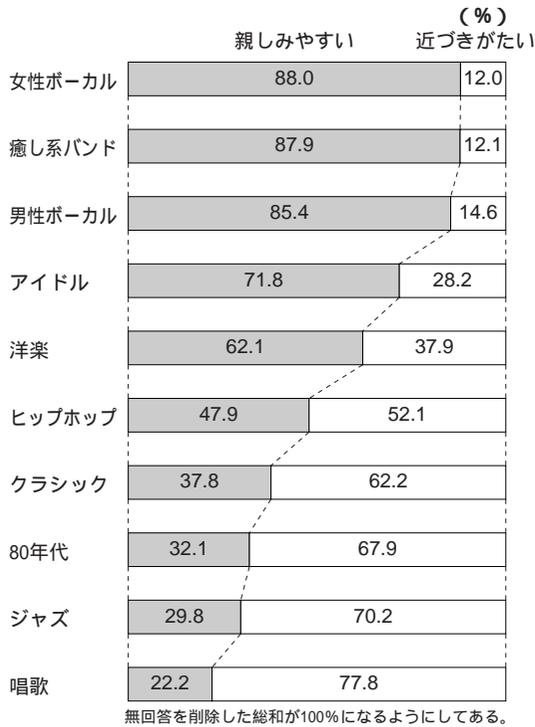


図3 - 5 理解度

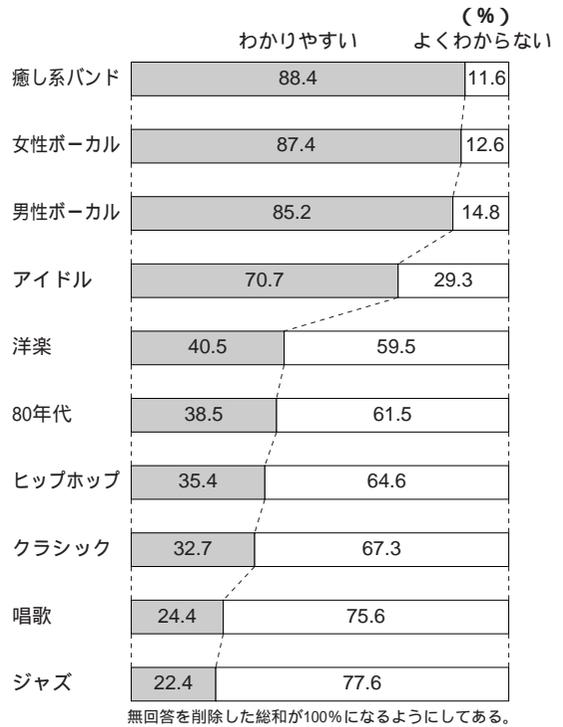


図3 - 6 気分のもちよう

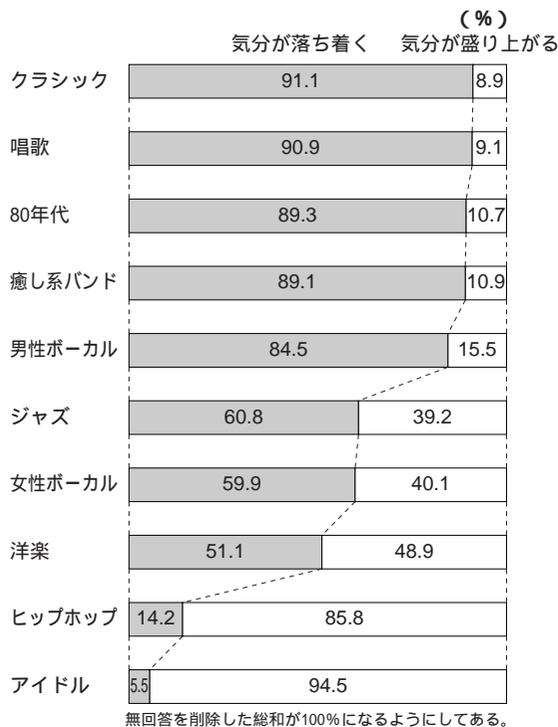
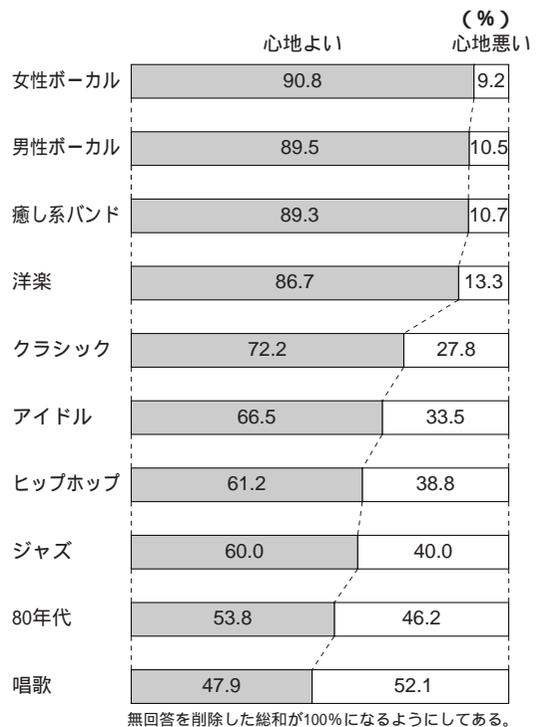


図3 - 7 心地ぐあい



ろう。半面、強いメッセージ性を持った言葉とそのノリが重要な「ヒップホップ」や、今の高校生の心情とはずれている可能性のある「唱歌」や「80年代」はイメージが分かれたとみることができよう。結果が不思議なのが「洋楽」だが、歌詞を聞かなくていいということと、最近オールディーズの「洋楽」がイージーリスニング的に流行っていることが影響しているのかもしれない。

以上の4つの側面から、やや強引だが各ジャンルに対するイメージを整理してみよう。

アイドル：親しみやすく、わかりやすく、気分が盛り上がる音楽。

癒し系バンド：親しみやすく、わかりやすく、気分が落ち着き、心地よい音楽。

ヒップホップ：よくわからないが、気分が盛り上がる音楽。

女性ボーカル：親しみやすく、わかりやすく、心地よい音楽。

男性ボーカル：親しみやすく、わかりやす

く、気分が落ち着き、心地よい音楽。

80年代：近づきがたいが、気分が落ち着く音楽。

ジャズ：近づきがたく、よくわからない音楽。

洋楽：心地よい音楽。

クラシック：近づきがたく、よくわからないが、気分が落ち着き、心地よい音楽。

唱歌：近づきがたく、よくわからないが、気分が落ち着く音楽。

多くの側面があげられているジャンルほど、音楽のイメージをはっきり持って聴き分けているということになるのだろうか。実際、「癒し系バンド」と「男性ボーカル」以外はすべて違う組み合わせになっており、高校生はそれぞれのイメージにしたがい、TPOに応じて様々な音楽ジャンルをしっかりと聴き分けているにちがいない。

4 音楽へのかかわり方を分けるものは何か？

ここまで検討してきたような高校生の音楽へのかかわり方に差異をもたらす要因はいったい何であろうか。その要因を様々な角度から探ってみよう。

まず、社会学では一般に、階層性が音楽行動や音楽の好みを規定する要因の1つと考えられてきた。具体的には、文化的経済的に恵まれた環境にいる人の方が音楽行動が盛んだったり、クラシックに親和的だったりするといわれてきた。今回の調査でもそのことがいえるかどうかを確認してみよう。

表3-3は、父親の学歴別にみた「習い事経験」と個人的な音楽行動の様子をまとめたものである。父親の学歴は、家庭環境における文化的経済的な階層性の指標の1つとしてよく用いられるものである。また「習い事経験」の有無は、ピアノやそれ以外の楽器を1つ

でも習ったことがあるかどうかで分類した。

「習い事経験」があるのは、父親の学歴が「中学・高校卒業、専門・専修学校卒業（以下、中高～専門卒）」だと46.8%なのに対して「短大・高専卒業、大学・大学院卒業（以下、短大～大学卒）」では63.7%と10数ポイントの差がみられ、たしかに階層性が反映されている。しかし、個人的な音楽行動の頻度にはいずれもほとんど差異がみられないのである。また、図表には示していないが、クラシック音楽に対するイメージも、「親近感」と「理解度」では「短大～大学卒」の方が親和的な傾向があるものの、「気分のもちよう」と「心地ぐあい」では差がなく、クラシックを聴くという点では、階層による親和性の差はみられない。さらに、「クラシックは勉強っぽい」と思うかどうか尋ねた質問でも父親

の学歴による差がまったくみられなかった。これらは音楽の階層性に関する従来の知見とは異なるものといえよう。

次に、音楽教育学の領域では、音楽学習経験がその後の音楽行動や音楽の好みに影響していると考えられている。今回の調査でもそのことがいえるだろうか。まず、図表はないが、クラシックへの親和性は、ピアノなどの

音楽学習経験のある方が当然のことながら高かった。しかし、表3 - 4から「習い事経験」の有無別に個人的な音楽行動の様子をみると、さすがに「自由に楽器を演奏する」では「習い事経験」のある方が頻度が高いものの、「外出時ポータブルCDプレーヤーなどで音楽を聴く」「家でCDなどを聴く」頻度にはまったく差がみられない。音楽鑑賞は、長

表3 - 3 音楽学習経験と個人的な音楽行動 × 父親学歴

(%)

		中学・高校卒、 専門・専修学校卒	短大・高専卒、 大学・大学院卒
習い事経験	習い事あり	46.8	63.7
	習い事なし	53.2	36.3
外出時ポータブルCD プレーヤーなどで 音楽を聴く	毎日のようにする	14.0	17.0
	よくする	17.3	17.4
	ときどきする	20.8	25.1
家でCDなどを聴く	毎日のようにする	57.6	55.0
	よくする	26.1	25.7
	ときどきする	12.3	12.0
自由に楽器を演奏する	毎日のようにする	10.5	10.2
	よくする	9.8	13.4
	ときどきする	16.3	17.3

表3 - 4 個人的な音楽行動 × 音楽学習経験

(%)

		習い事あり	習い事なし
外出時ポータブルCD プレーヤーなどで 音楽を聴く	毎日のようにする	14.9	15.3
	よくする	16.5	18.8
	ときどきする	23.2	22.4
家でCDなどを聴く	毎日のようにする	55.4	56.2
	よくする	25.5	25.1
	ときどきする	11.8	13.0
自由に楽器を演奏する	毎日のようにする	10.8	10.6
	よくする	14.1	7.2
	ときどきする	21.3	10.1

じてからの音楽行動で最も頻度の高いものであるが、それに音楽学習経験が影響を与えていないということなのである。

どうして階層や音楽学習経験による説明力が落ちたのだろうか。階層については、第2節で検討した地域差がこれまでの常識とは違う傾向だったこともふまえて考えると、情報へのアクセスが簡単になったことで音楽の市場化が進んだこと、CDなどの音楽情報の値段が相対的に安くなってきていることで市場性も経済的な壁が高くないことなどから、階層による障壁が低くなってきたとみることができそうだ。

音楽学習経験については、第3節で検討した様々な音楽ジャンルに対するイメージをふまえて考えると、音楽の市場化に伴って、学校や習い事で学ぶ音楽と消費社会で流通する音楽とが従来のような二項対立ではなくなり、音楽に対する意味づけが多様化してきたことなどから、特定の音楽学習経験が音楽行動全般を強く規定できなくなったとみることができそうだ。

では、かわりにどんな要因が考えられるのだろうか。

本論では、音楽を“メディア”として使うかどうかという点に注目してみたい。というのも、消費社会において音楽情報の市場化が進んだこと、つまり音楽情報へのアクセスが容易になり、音楽ジャンルが多様化したことで、階層との対応が弱まったり、TPOに感じ

たジャンルごとの聴き分けがなされるようになっていたりとしたら、高校生にとって音楽とは、文化的活動や単なる消費の対象というだけでなく、様々な場面からなる彼らの日常生活を生き抜く戦略、道具立ての1つになっているかもしれないからだ。

そうだとしたら、人間関係を成立させる媒介や道具として音楽をみている傾向が強いか弱いか、音楽へのかかわり方を左右する要因の1つだと考えられないだろうか。

そこで、この考え方にしたがって、友人関係について尋ねた質問のうち、音楽を媒介的・道具的に使っているかどうかを問うた「友だちとCDなどの貸し借りをする」「友だちとJ-POPや洋楽の話をする」の2項目を使って分析を進めてみよう¹⁾。

まず、表3 - 5から2項目とこれまでも検討してきた属性・特性との関係を確認しておこう。「よく+ときどき」の肯定的な回答の割合でみていくと、男女差と地域差では、男子より女子の方が、また東京より秋田の方が、「CDなどの貸し借り」「音楽に関する話」ともにやっている割合がやや高い。これらは第2節でみた音楽行動の男女差や地域差と対応している。

「父親学歴」と「習い事経験」では、「短大～大学卒」より「中高～専門卒」の方が、また「習い事経験」のない方よりある方が、「CDなどの貸し借り」「音楽に関する話」ともにやっている割合が数ポイント高い。先にみた

表3 - 5 友だちとのCDなどの貸し借り、音楽に関する話の様子×属性

(%)

		性別		地域		父親学歴		習い事経験		友人数	
		男子	女子	東京	秋田	中高～ 専門卒	短大～ 大学卒	あり	なし	友人 数少	友人 数多
友だちとCDなどの貸し借りを する	よくある	36.1	31.1	27.8	39.4	39.9	29.5	32.0	35.1	27.0	38.5
	ときどきある	43.8	55.7	52.9	46.7	46.7	51.8	53.5	45.5	52.9	47.8
友だちとJ-POP や洋楽の話をする	よくある	33.4	31.6	30.7	34.2	34.6	31.9	31.8	32.8	28.4	36.9
	ときどきある	35.9	42.0	39.9	38.0	38.9	39.2	41.1	36.6	35.7	39.7

では「毎日＋よく」で40%強なのに対して、「非ツールの使用」者では25%ほどにすぎない。「家でCDなどを聴く」を「毎日」のようにするのは、「ツールの使用」者では70.6%なのに対して、「非ツールの使用」者では44.2%と大きな差がある。「自由に楽器を演奏する」のは、「ツールの使用」者では「毎日＋よく」で30%前後なのに対して、「非ツールの使用」者では15%前後にすぎない。

さらに友人規模を合わせて考えると、「ツールの使用」者では、友人規模が小さい方より大きい方がより個人的な音楽行動をとる頻度が高くなっている点に注目できる。先に述べたように友人規模が直接個人的な音楽行動を左右しないことから、たくさんいる友だちとの関係を維持するために、音楽をツールの使用に使用すべく、個人的な音楽行動の頻度が高くなったと考えられるのである。

高校生は、家庭の階層や音楽学習経験にか

かわらず、一定の個人的な音楽行動をとっていたが、「ツールの使用」で分けてみると、個人的な音楽行動の頻度に違いがみられた。このことは、音楽をツールの使用に使用する者と使用しない者では、音楽に対する意味づけ方に違いがあるからと考えられないだろうか。次節では、いよいよ音楽に対する負の感情と「ツールの使用」との関係について検討していくことにしよう。

〔注〕

1) なお、これらの項目には、音楽行動をしないから、CDなどの貸し借りも音楽の話もしないという高校生が一定程度含まれているはずである。そのことには十分考慮すべきであるが、分析の主眼は、音楽行動の量的な特徴よりも、音楽に対する意識やかまえにあり、十分妥当性が維持されていると考える。

2) なお、サンプルの偏りを防ぎ、「ツールの使用」を厳しく定義するために、個々の項目への回答傾向とは異なり、やや「ツールの使用」の割合が少なくなっていることに留意する必要がある。

5 音楽に対する負の感情

高校生は音楽に対してどのような意味づけ方をしているのだろうか。また音楽をツールの使用に使用する者としていない者で、意味づけ方に違いがあるのだろうか。ここでは、音楽に対する負の感情のモチように注目して、「どんなときに音楽を聴きたくなくなったり聴きたくなくなったりするのか」「音楽がなくなったらどうなると思うか」「どんなときに音楽が嫌いになるのか」という3つの側面から音楽に対する意識を検討してみよう。

1) 音楽を聴きたくなくなったり聴きたくなくなったりするのはどんなときか？

どんなときに音楽を聴きたくなくなったり聴きたくなくなったりするのかをまとめたのが図3-8である。音楽を聴きたくなくなるときは、高い順に「ひまなとき」(84.9%)「気分がいいとき」(67.1%)「なにもやりたくないとき」

(60.7%)「落ち込んでいるとき」(58.7%)、音楽を聴きたくないときは、高い順に「集中しているとき」(45.6%)「疲れて休みたいとき」(32.6%)「悩んでいるとき」(26.2%)となっている。また、回答が分かれたのは、「勉強しているとき」(「聴きたくなる」：「どちらでもない」：「聴きたくない」= 44 : 35 : 21)「盛り上がっているとき」(34 : 47 : 19)「悩んでいるとき」(39 : 35 : 26)「疲れて休みたいとき」(36 : 31 : 33)だった。

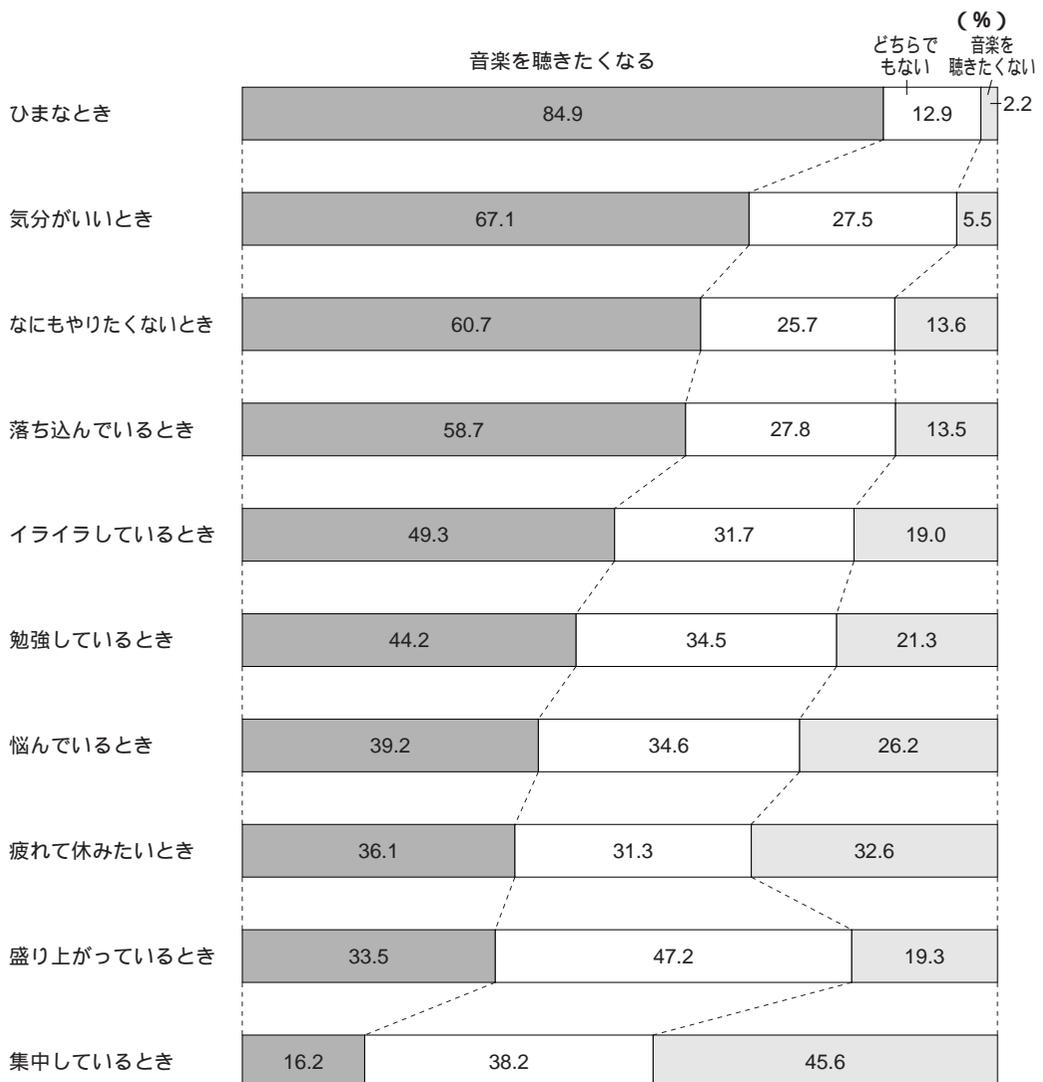
ほとんどが「ひまなとき」に音楽を聴きたくなくなっていて、それは“間”を埋めるためだろう。「気分がいいとき」にも聴きたくなるが、「なにもやりたくないとき」「落ち込んでいるとき」にも聴きたくなくなっており、ノリのいい音楽と癒し系の音楽を聴き分けているということだろう。その一方で、癒し系の音楽が流行っているはずなのに、「疲れて休みた

いとき」には音楽を聴きたくないという割合が目立っていたり、「盛り上がっているとき」に「どちらでもない」という回答が半数近かったりというのは、非常に興味深い結果である。

ところで、「集中しているとき」は半数近くが音楽を聴きたくないのに、「勉強しているとき」は逆に半数近くが音楽を聴きたくなっている。この2つは本来同居するものではないのだろうか。そこで、「集中しているとき」と「勉強しているとき」をかけあわせてみると、「集中しているとき」に音楽を聴きたくなる

人のうち84.5%が、「勉強しているとき」にも音楽を聴きたくなくなっていた。一方で「集中しているとき」に音楽を聴きたくない人が「勉強しているとき」には、28.1%が音楽を聴きたくなくなっており、音楽を聴きたくない人は41.2%にとどまっていたのである。第2節で「ながら聴き」と成績との関係に言及したが、単にながら聴きがいけないのではなく、どうやら勉強しているときに集中していない高校生がいることが原因のようだ。

図3 - 8 音楽を聴きたいときと聴きたくないとき



無回答を削除した総和が100%になるようにしてある。

さて、表3 - 8から「ツールの使用」別に特徴をみてみよう。「ツールの使用」者と「非ツールの使用」者では、すべての項目で差がみられた。つまり、ツールの的に使用する方が、どんな場合でもより音楽を聴きたくなる傾向がある。特に「気分がいいとき」「盛り上がっているとき」「落ち込んでいるとき」「イラ

イラしているとき」といった感情の変化があったときにその傾向が強くなっている。一方、ツールの的に使用しない方が音楽を聴きたくない傾向がみられるのは、「集中しているとき」「盛り上がっているとき」「疲れて休みたいとき」だった。いずれも「聴きたくない」割合が高かったり、「どちらでもない」割合が高か

表3 - 8 音楽を聴きたいときと聴きたくないとき × 「ツールの使用」

		(%)	
		ツールの的に使う	ツールの的に使わない
勉強しているとき	音楽を聴きたくなる	49.3	40.3
	どちらでもない	31.4	36.6
	音楽を聴きたくない	19.3	23.1
集中しているとき	音楽を聴きたくなる	20.0	13.5
	どちらでもない	38.1	39.0
	音楽を聴きたくない	41.8	47.5
ひまなとき	音楽を聴きたくなる	93.1	80.4
	どちらでもない	5.3	17.0
	音楽を聴きたくない	1.6	2.6
盛り上がっているとき	音楽を聴きたくなる	43.9	26.8
	どちらでもない	40.4	51.9
	音楽を聴きたくない	15.7	21.4
気分がいいとき	音楽を聴きたくなる	79.6	59.2
	どちらでもない	17.7	33.5
	音楽を聴きたくない	2.8	7.2
なにもやりたくないとき	音楽を聴きたくなる	70.9	54.4
	どちらでもない	17.5	30.7
	音楽を聴きたくない	11.6	15.0
イライラしているとき	音楽を聴きたくなる	59.9	42.7
	どちらでもない	22.8	37.5
	音楽を聴きたくない	17.3	19.8
悩んでいるとき	音楽を聴きたくなる	47.3	34.1
	どちらでもない	27.7	38.6
	音楽を聴きたくない	25.0	27.3
落ち込んでいるとき	音楽を聴きたくなる	69.9	51.5
	どちらでもない	17.7	33.8
	音楽を聴きたくない	12.4	14.7
疲れて休みたいとき	音楽を聴きたくなる	44.9	30.5
	どちらでもない	26.4	34.4
	音楽を聴きたくない	28.7	35.0

ったりする項目である。「ツールの使用」者にとって音楽は、その時々状況を演出する道具の意味があるが、「非ツールの使用」者は、他に興味が向いているときに音楽を副次的に使おうとはしていないことがわかる。

2) 音楽がなくなったらどうなると思うか？

音楽がまったくなくなってしまうたら、自分はどんなふうになると思うかをまとめたのが図3-9である。「とても+やや」で高い順にみていくと、「感性がなくなる(65.3%)」「やる気がなくなる(63.2%)」「ストレスがたまる(61.9%)」「時間をもてあます(59.6%)」「イライラしたり怒ったりしやすくなる(57.0%)」となっていて、高い支持を得た項目はなかった。一方で、「あまり変わらない」に否定的に

回答した割合は「あまり+まったく」で70.7%にも上っている。多くの高校生が主に精神面で音楽になんらかの役割は期待しているのだが、音楽がなくなることで、みんなに共通した変化が起きるわけではなく、音楽の意味づけ方や使い方の違いに応じて異なる変化が起きると考えているということになる。

ところで、「集中しているとき」に聴きたくなるか聴きたくないかを尋ねた項目と、音楽がなくなったら「集中力がなくなる」と思うかを尋ねた項目の関係をみてみたところ、「聴きたくなる」人のうち27.8%が集中力がなくなると答え、「聴きたくない」人のうち37.1%が集中力がなくなると答えていた。両質問間の回答の一致度は必ずしも高いわけではなく、音楽はないよりはあった方がいいだろう、という感じで捉えているようだ。

図3-9 音楽がなくなってしまうたらどうなると思うか

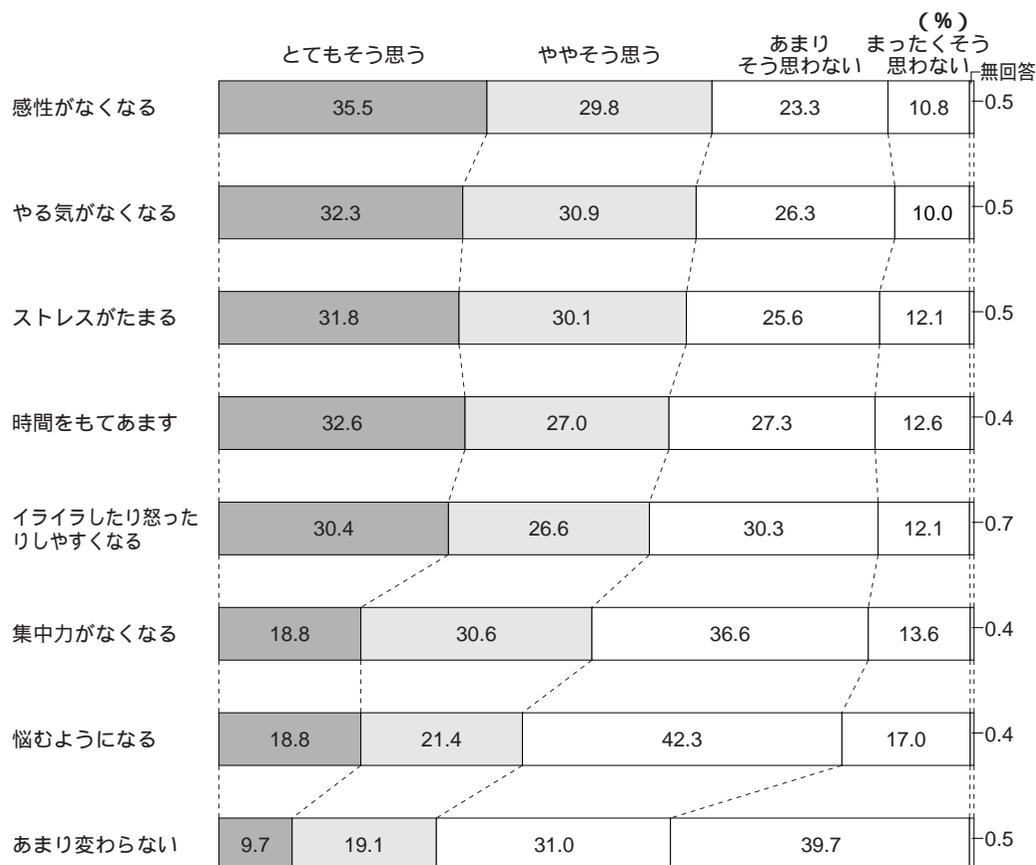


表3 - 9 音楽がなくなってしまうらどうなると思うか
×「ツールの使用」

		(%)	
		ツールの使う	ツールの使わない
集中力がなくなる	そう思う	61.7	42.3
やる気がなくなる	そう思う	74.7	56.6
イライラしたり怒ったり しやすくなる	そう思う	65.8	52.3
時間をもてあます	そう思う	69.4	53.6
悩むようになる	そう思う	50.3	34.3
ストレスがたまる	そう思う	70.7	56.8
感性がなくなる	そう思う	73.1	60.8
あまり変わらない	そう思わない	78.0	66.4

さて、表3 - 9から「ツールの使用」別に特徴をみてみよう。「ツールの使用」者と「非ツールの使用」者では、すべての項目で10ポイント以上の差がみられた。つまり、ツールの使用の方が、「あまり変わらない」に78.0%が否定的に回答しているなど、どんな変化についてもそうなると思う傾向がある。特に、感情の変化よりも「やる気がなくなる」「集中力がなくなる」という項目で「非ツールの使用」者との差が大きい。また「非ツールの使用」者のうち60.8%が「感性がなくなる」と答えている。これらから、「ツールの使用」者はなにかをするときの補助として、「非ツールの使用」者は感情を表すものとして、音楽を捉えていることがわかる。

3) 音楽が嫌いになるのはどんなときか？

どんなときに音楽が嫌いになるのかについて、全体と「ツールの使用別」をまとめたのが表3 - 10である。「とても+やや」で全体値を高い順にみていくと、「嫌いな音楽を聴いたとき」(37.5%)「音楽の授業で評価される時」(36.0%)「うまく歌ったり演奏できなかったとき」(34.1%)となっていて、全般に

嫌いにならない傾向が強かった。「嫌いな音楽を聴いたとき」に音楽を嫌いになるのは当然として、「雑音のような音楽」(27.2%)や「わからない音楽」(27.1%)を聴いたときには相対的に抵抗感が低かったのは興味深い。

「ツールの使用」別に特徴をみてみると、「ツールの使用」をするかどうかで差がみられたのは、「雑音のような音楽を聴いたとき」と「わからない音楽を聴いたとき」だけで、ツールの使用の方が嫌いにならない傾向が強かった。2項目とも「とても」と「やや」を合わせた「嫌いになる」という回答には差がみられず、「まったく嫌いにならない」という回答で10ポイント近い差がみられたのである。

第3節でみたクラシックや唱歌のように、よくわからない音楽でも気分が落ち着いたり心地よかったりする音楽もあることや、学校で音楽の勉強中にも音楽が嫌いにならない傾向が強いこともふまえると、今日の高校生、特に「ツールの使用」者は、特定の音楽性に基づいて特定の音楽に深くコミットするのではなく、どんなジャンルの音楽に対しても抵抗感なく接するということなのだろう。

表3 - 10 どんなときに音楽が嫌いになるか × 「ツールの使用」

(%)

		ツールの使う	ツールの使わない	全 体
うまく歌ったり演奏できなかったとき	とても嫌いになる	7.1	9.8	8.8
	やや嫌いになる	26.7	25.3	25.3
	あまり嫌いにならない	33.8	37.8	36.4
	まったく嫌いにならない	32.4	27.3	28.9
雑音のような音楽を聞いたとき	とても嫌いになる	5.3	8.9	7.7
	やや嫌いになる	20.5	19.2	19.5
	あまり嫌いにならない	35.9	41.7	39.6
	まったく嫌いにならない	38.3	30.2	32.8
嫌いな音楽を聞いたとき	とても嫌いになる	13.6	11.6	12.4
	やや嫌いになる	25.2	25.5	25.1
	あまり嫌いにならない	33.5	38.8	37.0
	まったく嫌いにならない	27.6	24.1	25.1
わからない音楽を聞いたとき	とても嫌いになる	5.9	6.4	6.5
	やや嫌いになる	22.1	20.1	20.6
	あまり嫌いにならない	36.1	47.3	42.9
	まったく嫌いにならない	35.9	26.3	29.6
学校で音楽の勉強をしているとき	とても嫌いになる	6.4	7.9	7.0
	やや嫌いになる	17.9	15.5	16.1
	あまり嫌いにならない	40.4	44.2	42.0
	まったく嫌いにならない	35.3	32.4	33.0
音楽の授業で評価される時	とても嫌いになる	13.3	11.8	12.3
	やや嫌いになる	26.0	23.5	23.7
	あまり嫌いにならない	31.5	39.1	35.7
	まったく嫌いにならない	29.2	25.7	26.9

全体の数値は、無回答を含めて100%になるため、表中の総和では100%にならない。「ツール別使用」別の数値は無回答を削除しているため、表中の総和は100%になる。

6 高校生にとって音楽とは何か？ まとめに代えて

前節まで、高校生の音楽行動や意識について、実態とその特徴を「ツールの使用」という概念を軸に検討してきた。最後に、高校生にとって音楽とは何かということを考えてまとめに代えることにしたい。具体的には、接触する音楽を選ぶときの選択基準と、生活や人生の中での音楽の位置といった、彼らの音楽に対するかまえを検討する。

まず、音楽の選び方を図3 - 10からみてい

こう。聴く歌は「アーティストより曲で選ぶ」のは「とても + やや」= 78.1%で、個々の楽曲志向が強い。歌は「メロディより歌詞の方が大切だと思う」のは、「とても + やや」= 46.2%で、ややメロディ派の方が多い。「試聴やジャケットだけでCDを買うことがある」のは、「とても + やや」= 16.9%にすぎない。

では、表3 - 11から「ツールの使用」別に

みてみよう。「ツールの使用」では、ツールの的に使用する方が、「アーティストより曲」志向がやや強く、「メロディより歌詞」志向がみられ、「試聴やジャケット」だけでCDを買うことがある。楽曲志向は、いい音楽ならなんでもいいとか、売れている曲を選ぶということだろう。歌詞志向は、その歌のメッセージで自分の気持ちを代弁させたいということだろう。試聴やジャケットだけでCDを買うのは、とにかくいろいろな音楽を試してみろということだろう。このように、「ツールの使用」別にみると、音楽の選び方にも音楽本位か否かという違いがみられるのである。

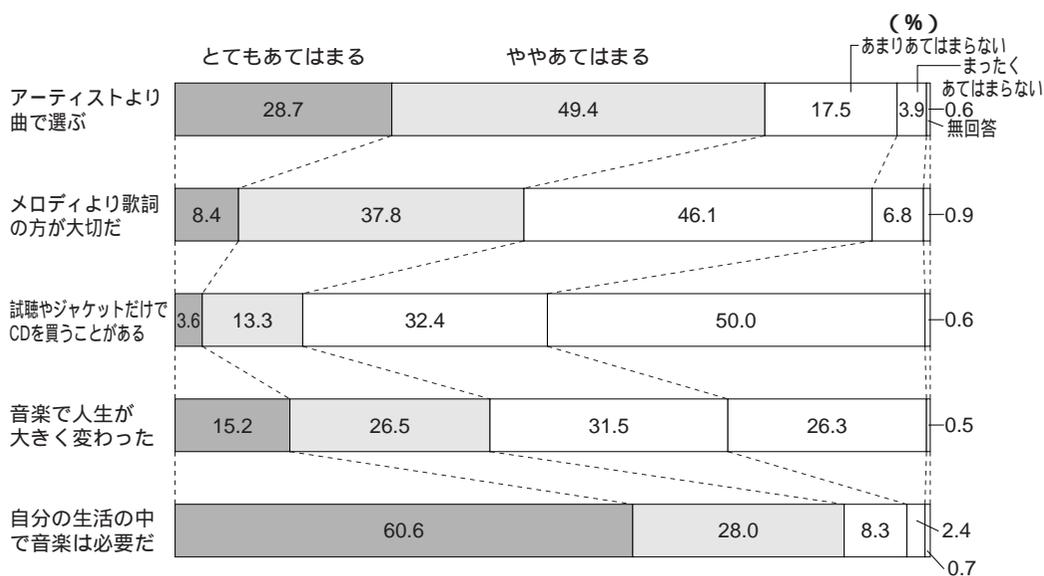
一方、同じく表3-11から「音楽学習経験」別にみると、3項目ともほとんど差がなく、楽器を習ったことがあるかどうかは、音楽の選び方に影響しないということになる。

次に、生活や人生の中での音楽の位置について図3-10と表3-11からみていこう。「音楽で人生が大きく変わった」という人は、「とても + やや」=「15.2% + 26.5%」=41.7%だった。「音楽学習経験」別にも「習い事経

験」がある方がやや肯定的だが、「ツールの使用」別にみると、「とても + やや」=「22.0% + 30.7%」=52.7%で、半数強が音楽で人生が大きく変わった経験を持っていることがわかる。

「自分の生活の中で音楽は必要だ」という人は、「とても + やや」=「60.6% + 28.0%」=88.6%と、多くの高校生が自分の生活の中で音楽が必要だと思っている。これを音楽学習経験別にみると、経験がある場合が「とても + やや」=「65.5% + 25.3%」=90.8%で、ない場合が「とても + やや」=「56.1% + 31.3%」=87.4%と、やや経験者の方が肯定的なもの、どちらにとっても音楽は必要なのである。ところが、「ツールの使用」別にみると、「非ツールの使用」者が「とても + やや」=「49.6% + 34.6%」=84.2%とやや低めなのに対して、「ツールの使用」者では「とても + やや」=「78.7% + 18.1%」=96.8%と、「とても」の値が非常に大きいばかりでなく、ほとんど全員が自分の生活の中で音楽が必要だと思っているのである。

図3-10 音楽に対するかまえ



本章の分析を通じて明らかになったことは、第一に、高校生の音楽行動や音楽に対する意識、かまえの特徴を「ツールの使用」という概念を通してしてみると、「ツールの使用」者のように、人間関係やなんらかの対象物とのかかわりを成立させる媒介や道具として捉えるかかわり方と、「非ツールの使用」者のように、音そのものにかかわろうとするかかわり方とがあるときみることができるのではないかということである。

第二に、高校生全体の音楽とのかかわり方は、所属する階層や音楽学習経験によって特定の音楽性と価値観を身につけ、特定の音楽

に深くコミットするという従来型のものでなくなり、TPOに応じて多様な音楽に抵抗なく接するようになってきたということだろう。

そのようにみていくと、高校生の音楽へのかかわり方は、一見道具的にみえるが、彼らにとって音楽は、文化的活動の対象でも、単なる消費の対象でもない。音楽は、多様な人間関係や感情の起伏が生じたときなど、自分の生活の様々な場面に“ツール”として介在する生活の一部だったり、常に自分とその出来事や状況との間にいる“メディア”として自分自身の人生を変えたりするもの - そう、高校生の生き方、高校生自身が音楽なのだ。

表3 - 11 音楽に対するかまえ × 「ツールの使用」・音楽学習経験

		(%)			
		ツールの使う	ツールの使わない	習い事あり	習い事なし
アーティストより 曲で選ぶ	とてもあてはまる	31.7	26.5	28.9	29.0
	ややあてはまる	48.8	50.8	50.1	48.7
	あまりあてはまらない	16.7	18.0	18.0	17.2
	まったくあてはまらない	2.8	4.7	3.0	5.1
メロディより 歌詞の方が大切だ	とてもあてはまる	9.1	8.3	9.5	7.7
	ややあてはまる	42.9	35.0	38.0	38.4
	あまりあてはまらない	42.1	49.2	48.1	44.7
	まったくあてはまらない	5.9	7.5	4.4	9.2
試聴やジャケット だけでCDを買う ことがある	とてもあてはまる	5.3	2.5	3.4	4.1
	ややあてはまる	19.5	9.7	13.0	13.6
	あまりあてはまらない	32.5	32.2	32.4	33.4
	まったくあてはまらない	42.6	55.6	51.3	48.9
音楽で人生が 大きく変わった	とてもあてはまる	22.0	11.0	17.6	12.8
	ややあてはまる	30.7	23.8	28.0	24.9
	あまりあてはまらない	29.7	32.7	31.9	31.8
	まったくあてはまらない	17.5	32.5	22.5	30.5
自分の生活の 中で音楽は必要だ	とてもあてはまる	78.7	49.6	65.5	56.1
	ややあてはまる	18.1	34.6	25.3	31.3
	あまりあてはまらない	2.8	12.0	7.5	9.4
	まったくあてはまらない	0.4	3.8	1.7	3.3

第4章 ||||

高校生のテレビ視聴

- ニュース番組の見方・感じ方 -

1 はじめに

マスメディア（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌など）から流れてくる情報は年々増大している。ここではマスメディアの代表としてテレビに関して調査した結果をみていきたい。本章の目的は、高校生のテレビ情報の受けとめ方について探ることにある。

これまでのマスメディアに関する研究では、視聴者はテレビから流れる情報に対して受動的という見方が強かった。高校生は氾濫する情報に対して、なすがままという認識がなされていた。しかし近年、能動的なテレビ視聴者（文字や画像を1つのテキスト<=素材>として読み込み、テキスト内容を独自の視点で読み替え、作り変えていく人々）を研究するカルチュラル・スタディーズという手法が浮上してきた。この考え方と手法を参考にして、高校生のテレビ視聴行動をみる。

まずは、日常的な視聴態度などテレビへの接触傾向をみる。次いで、ニュース番組（情

報）への感じ方・受けとめ方を素材として、高校生がニュースやメディアからの情報について、どのくらい能動的に行動しているのかについて探る。

今回のサンプルは首都居住の高校生（東京）と非都市部に居住する高校生（秋田）である。果たして、マスメディアからもたらされる意識は全国一様なのであろうか。もしくは、住む地域によって情報行動に大きな影響があらわれるのであろうか。それとも、地域以外の要素（性別・親の学歴・家の本の数・衛星放送など有料放送への加入の有無・成績・友だちの特性など）によって、大きく異なるのであろうか。いくつかの質問項目について属性別や作成したタイプ別に分析した結果、高校生がテレビからの情報をどのように受けとめ、日常生活を送っているのか、くわしくみていきたい。

2 テレビ視聴時間とよく見る時間帯

1) 視聴時間

まずは、高校生が一日にどのくらいテレビを見ているのか、その程度をみよう。すると図4-1にあるように、「90～120分」が18.6%、「60～90分」が16.5%、「120～150分」15.8%と1時間から2時間30分見ている者が

半数近くいることになる。この視聴時間を数値化して出した平均時間は、全体で144.8分となった(表4-1)

視聴時間について属性別にみていこう。表4-2のように、性別では、女子に「30～60分」「120～150分」が多く、男子に「60～90分」「90～120分」が多い。しかし、全体と大きく

図4-1 一日のテレビ視聴時間

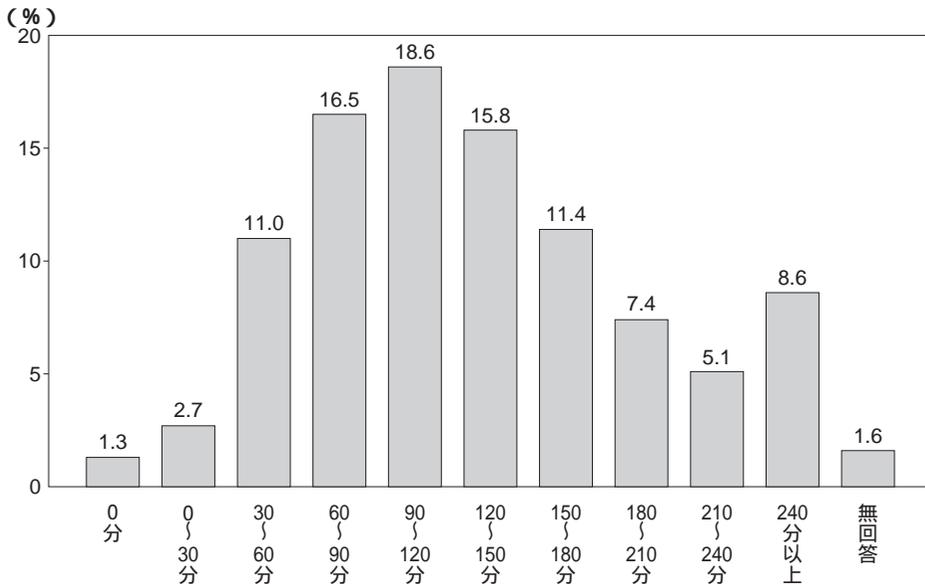


表4-1 一日のテレビ視聴平均時間

度数	1335
平均値	144.8
標準偏差	71.4

注 表4-1の平均時間の算出方法は、それぞれの回答を以下の数値に置き換えた。「0分」を0、「0～30分」を30、「30～60分」を60、「60～90分」を90、「90～120分」を120、「120～150分」を150、「150～180分」を180、「180～210分」を210、「210～240分」を240、「240分以上」を300として、平均時間を算出した。

(平均値単位は分)

異なるような視聴傾向はみられない。一方、地域別では、東京に「60～90分」が多く、秋田に「90～120分」が多い。秋田の高校生が、ややテレビを長く見ている傾向がある。

それぞれ属性ごとの平均視聴時間をみたものが、表4-3である。全体の平均時間を上回るグループは、秋田(秋田・男子は145.4分、秋田・女子は156.1分)「成績上位者(150.0分)」「家の本の数が60冊未満(149.1分)」「地上波以外のテレビ加入者(149.4分)」「父母両方の学歴が専門学校卒業まで(fm)の生徒(150.4分)」である。秋田の高校生は東京の高

校生よりも長くテレビを見るその背景について、地上波(新聞のテレビ欄で大きく取り上げられている放送局)以外のテレビ加入(衛星放送=BS、多目的有料チャンネル=CS、ケーブルテレビ=CATVなど)の有無から考えてみよう。テレビチャンネルの選択肢が多いことが、テレビと接触する機会も増えると予想でき、視聴時間も長くなるはずである。

表4-4をみると、全体では地上波以外のテレビに加入している割合(54.0%)が、加入していない割合(42.1%)を上回った。今回、調査地域の地上波のチャンネル数は、東

表4-2 一日のテレビ視聴時間 × 性・地域

	全 体	性 別		地 域	
		男 子	女 子	東 京	秋 田
		0分	1.3	1.6	0.9
0～30分	2.7	3.0	2.5	3.9	1.6
30～60分	11.0	9.6	12.7	12.0	10.4
60～90分	16.5	18.1	15.4	19.2	14.4
90～120分	18.6	21.0	16.8	17.4	20.3
120～150分	15.8	15.0	17.2	16.2	16.0
150～180分	11.4	10.5	12.7	10.4	12.8
180～210分	7.4	9.0	6.0	6.7	8.3
210～240分	5.1	4.0	6.3	4.4	5.9
240分以上	8.6	8.1	9.4	8.3	9.2

表4-3 一日のテレビ平均視聴時間 × 属性

全 体	性 別		地 域		地 域 × 性 別			
	男 子	女 子	東 京	秋 田	東京・男子	秋田・男子	東京・女子	秋田・女子
144.8	142.4	147.1	139.1	150.4	138.9	145.4	139.2	156.1

全 体	成績別(全教科成績3分割)			本の数2グループ		BS・CS・CATV加入		父母学歴	
	上の方	中	下の方	60冊未満	60冊以上	している	していない	fm	FM
144.8	150.0	142.9	143.4	149.1	141.7	149.4	139.6	150.4	131.4

父母学歴については章末(P.71)；付表参照のこと

京の方が秋田よりも若干多い。しかし、地上波以外のテレビ加入の割合を地域別にみると、秋田が東京よりも圧倒的に多い。秋田の高校生にテレビ視聴が長いのは、チャンネル選択肢が多いことが、その一因ではないかと考えられる。

2) よく見る時間帯

それでは、一日のうちでテレビをよく見る時間帯はいつ頃なのであろうか。図4-2をみると、「午後9～11時」が42.4%で、「7～9時」39.8%である。7時から11時の間に8

割強がよく見る時間として集中している。高校生がテレビをよく見る時間帯というのは、かなり似ている。

表4-5は、このよく見る時間帯について、性別・地域別・地上波以外のテレビ加入の有無別にみたものである。男女による差はみられないが、地域別では、東京の高校生が「午後7～9時」が多く、秋田の高校生が「9～11時」が多い。秋田の高校生にやや遅い時間帯の視聴が好まれている。地上波以外のテレビ加入者にも「9～11時」が多い。

表4-4 地上波以外(BS・CS・CATV)のテレビ加入割合
× 性・地域

全 体	性 別		地 域	
	男 子	女 子	東 京	秋 田
54.0	56.6	55.8	48.5	63.9

「している」割合

図4-2 テレビをよく見る時間帯

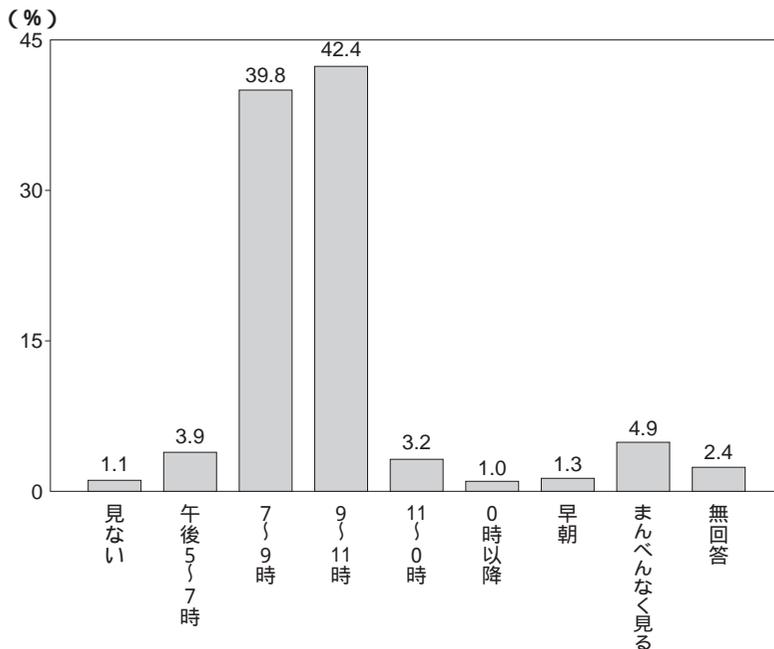


表4 - 5 テレビをよく見る時間帯 × 属性

	(%)						
	全 体	性 別		地 域		BS・CS・CATV加入	
		男 子	女 子	東 京	秋 田	している	していない
見ない	1.1	1.5	0.8	1.5	0.7	0.4	1.8
午後5～7時	3.9	3.3	4.7	5.2	2.8	2.9	5.5
7～9時	39.8	41.2	40.4	43.3	38.3	39.5	43.7
9～11時	42.4	41.5	45.3	39.0	47.8	46.8	38.7
11～0時	3.2	4.8	1.7	3.0	3.4	3.2	2.8
0時以降	1.0	1.5	0.6	1.1	1.0	1.4	0.7
早朝	1.3	1.1	1.7	1.5	1.2	1.4	1.4
まんべんなく見る	4.9	5.0	5.0	5.3	4.6	4.5	5.3

○は各属性の中での最大値

3 テレビ番組

1) よく見る番組

高校生はニュースをどのくらい見ているのであろうか。ここでいくつかのテレビ番組のジャンルを用意した。この結果から、ニュースが見られている位置について確認しておきたい。図4 - 3にあるように、全体の集計結果から、「よく見る」と「まあ見る」を合わせた回答の割合が多かった順番をあげると、①「映画・ドラマ・アニメ番組」(83.5%)、②「音楽番組」(77.4%)、③「クイズ・バラエティー番組」(68.8%)、④「お天気を含むニュース番組」(67.6%)で、これらの番組は6割以上が見る方である。一方、「ほとんど見ない」番組は、①「スポーツ中継やスポーツニュース」(26.8%)、②「ドキュメンタリー」(26.3%)、③「教養・生活・情報番組や番組途中のコマーシャル」(22.7%)の順で20%を超えている。

見る番組のジャンルから解釈してみると、高校生は娯楽を目的としてテレビを見ているようである。反して、教養を育むことを目的としたジャンルはあまり好まれていない。ニュース番組はこれらのジャンルの中で4番目

であった。

表4 - 6は、属性別によく見るジャンルの結果である。性別で見ると、「音楽番組」で女子の見る割合が多い。その他の娯楽を目的とするジャンルについては、それほど大きく異なるものはない。だが、男子では「スポーツ中継やスポーツニュース」を見る割合が多いのに対し、女子では「教養・生活・情報番組や番組途中のコマーシャル」「ドキュメンタリー」を見る割合が多い。地域・性別では、東京の男子に「お天気を含むニュース番組」「ドキュメンタリー」を見る割合が多く、秋田の女子に「音楽番組」「クイズ・バラエティー番組」「スポーツ中継やスポーツニュース」「教養・生活・情報番組や番組途中のコマーシャル」を見る割合が多い。

家にある本の数別では、60冊以上の高校生が、60冊未満の高校生よりも、「お天気を含むニュース番組」や「ドキュメンタリー」をよく見ている。地上波以外のテレビ加入別では、加入者の方が、加入していない者よりも、どのジャンルもよく見る傾向があり、「クイズ・バラエティー番組」に開きがみられる。

図4-3 よく見る番組

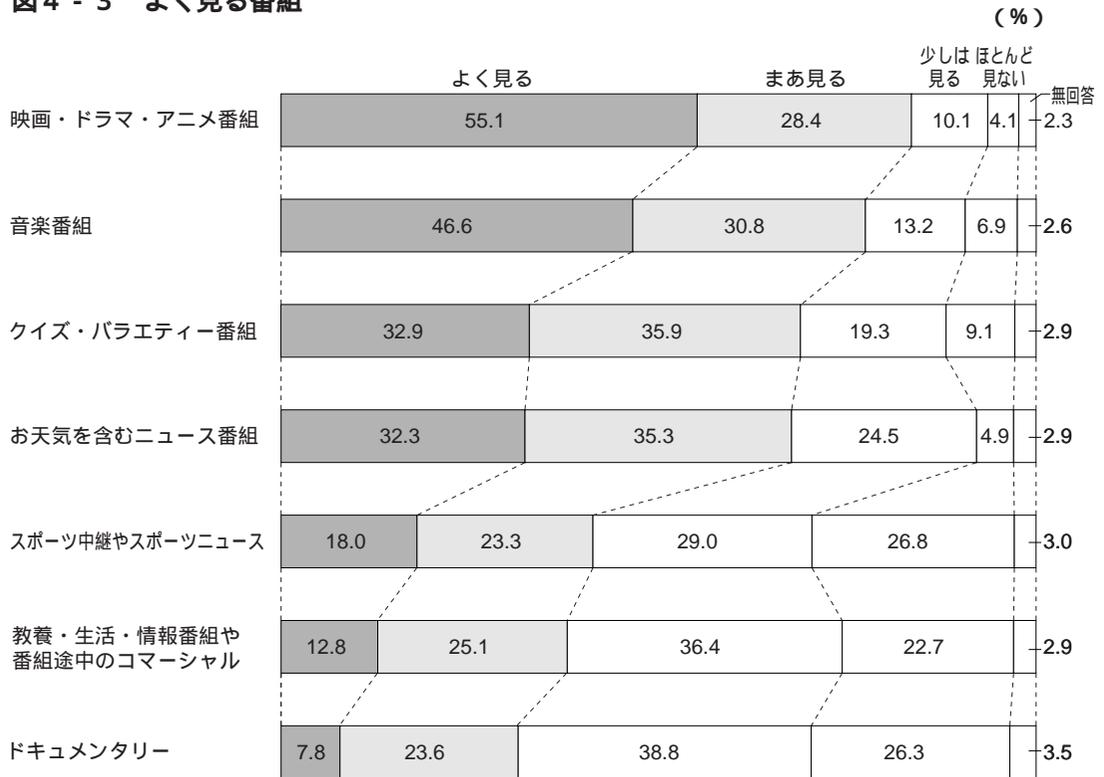


表4-6 よく見る番組 × 属性

(%)

番組種別	全体	地域 × 性別				本の数2グループ		BS・CS・CATV加入	
		東京・男子	秋田・男子	東京・女子	秋田・女子	60冊未満	60冊以上	している	していない
映画・ドラマ・アニメ番組	83.5	79.7	85.3	86.1	90.7	86.7	84.4	87.8	82.2
音楽番組	77.4	70.1	76.5	80.7	< 90.7	80.9	78.5	82.0	76.4
クイズ・バラエティー番組	68.8	68.0	74.7	64.4	< 76.8	73.0	69.3	74.9	66.2
お天気を含むニュース番組	67.6	73.1	64.2	78.2	> 62.8	65.1	74.4	68.3	71.4
スポーツ中継やスポーツニュース	41.3	57.6	60.4	24.6	28.2	42.4	43.3	45.5	38.3
教養・生活・情報番組や番組途中のコマーシャル	37.9	32.5	38.4	39.4	46.6	37.3	41.9	40.1	37.9
ドキュメンタリー	31.4	35.8	> 24.2	36.6	34.7	28.9	36.0	32.6	32.0

「よく」+「まあ」見る割合
不等号は10ポイント以上の開きを表す

2) 友だちとのやりとりの中で

テレビ番組は友だちとの会話の材料となっているのであろうか。テレビ番組以外の話題とも比較してみたものが図4-4である。テレビ番組の内容について、友だちとよく会話をするのは、クイズ番組やバラエティー番組である。それに比べて、ニュース番組や海外情報の会話というのは、あまりなされていない。CDなどの貸し借りや音楽の話と比べても、ニュースの話題というのは少ない。

表4-7では、地域・性別と全教科での成績別に友だちとの話題についてみた。

地域・性別にみていくと、秋田の女子に「CDなどの貸し借り」「クイズ番組やバラエティー番組の話」のやりとりが頻繁である。一方で、彼女たちは「海外の情報について話をする」ことは少ない。また、「ニュース番組の話」は東京の女子でよくなされている。成績別にみていくと、「CDなどの貸し借り」「J-POPや洋楽の話」は、「下の方」がよく行う。それにひきかえ「上の方」はあまり行っていない。しかし、「クイズ番組やバラエティー番組」「ニュース番組」「海外の情報」といったテレビの話題は、彼らの成績と関係ない。

図4-4 友だちとのやりとり

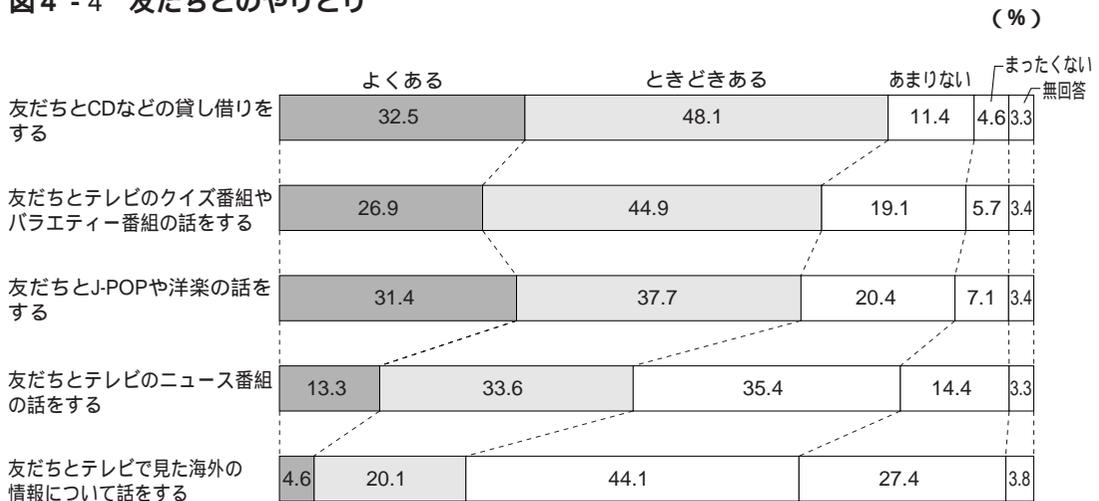


表4-7 友だちとのやりとり × 属性

	全 体	地 域 × 性 別				成 績 別 (全教科成績3分割)		
		東京・男子	秋田・男子	東京・女子	秋田・女子	上の方	中	下の方
		友だちとCDなどの貸し借りを する	80.6	78.0	81.6	83.0	91.2	75.4
友だちとテレビのクイズ番組やバラエティー 番組の話をする	71.8	67.3	75.6	71.9	< 82.4	73.7	76.0	73.0
友だちとJ-POPや洋楽の話をする	69.1	67.9	70.5	73.0	74.3	67.3	71.4	74.5
友だちとテレビのニュース番組の話をする	46.9	44.3	48.4	52.3	48.2	48.3	49.1	46.9
友だちとテレビで見た海外の情報について 話をする	24.7	28.0	28.4	26.1	19.7	25.2	26.0	24.3

「よく」+「ときどき」ある割合
不等号は10ポイント以上の開きを表す

4 ニュース番組の見方・感じ方

1) よく見るニュース番組・スポーツ中継

ニュース番組と一口にいってもいくつかのジャンルに分かれている。たとえば、一般的なニュース番組とスポーツ中継やその結果を伝える番組は違う。また、日本全国についての話題を扱った番組もあれば、自分が住んでいる地域（首都圏・県を単位とする）での話題を扱った番組もある。他にも日本のみならず、全世界の話題を扱った番組もある。高校生は、どのような話題を扱ったニュース番組をよく見ているのであろうか。

図4-5のように、高校生たちは、「地元」のニュース」「国内のニュース」「国内のスポーツ」「世界のスポーツ」「世界のニュース」の順番に、ニュース番組・スポーツ番組を見ている。自分の生活圏を中心に、情報を収集している。生活に必要な情報ほど、価値のあるものとしている。ただし、国内ではスポーツよりもニュースをよく見ているのに対し、世界ではニュースよりもスポーツをよく見ている。最近の世界を舞台に大活躍する日本人スポーツ選手について、高校生は興味関心を寄せているのであろう。

図4-5 よく見るニュース番組・スポーツ中継

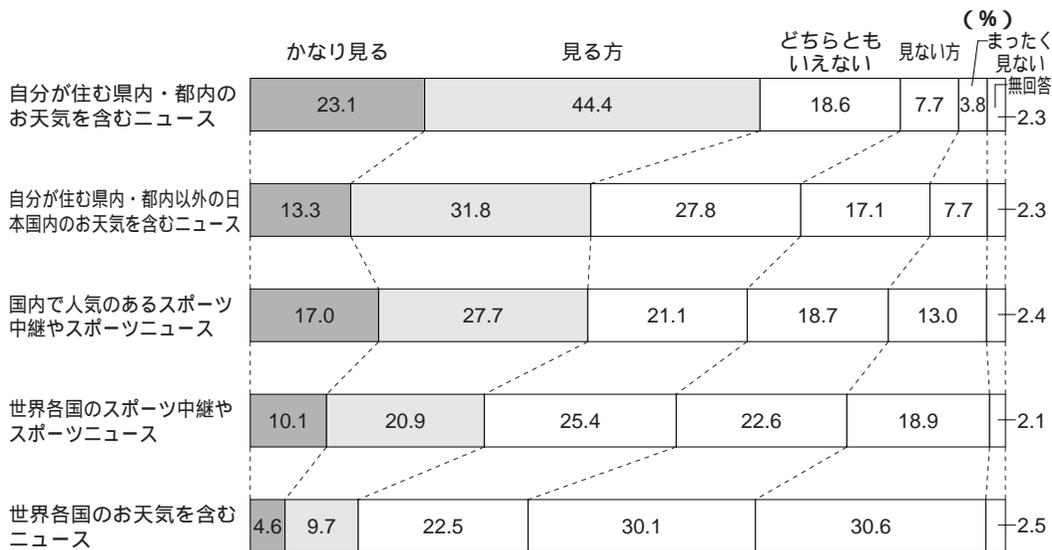


表4 - 8より、秋田の高校生は東京の高校生よりも世界のニュースやスポーツを見ている。地上波以外のテレビに加入しているという要因もあるだろうが、地方の高校生の方が首都の高校生よりも世界の情報をよく見る結果となった。

2) ニュースを見るように働きかける人

全体の7割近くの高校生はニュース番組に触れている。高校生を取り巻く周囲の人々がニュース番組について、「見るように」と働きかけた結果なのであろうか。

図4 - 6のように、全体として、周囲の人々は高校生に向かって「ニュース番組を見るように」と、働きかけていないようである。

その中で、最も「言われる(よく言われる+ときどき言われる)」ことがある人は「社会科の先生」(32.9%)であった。以下、「お母さん」(30.7%)、「お父さん」(29.6%)、「担任の先生」(26.7%)と続く。両親よりも社会科の先生が、「ニュース番組を見るように」と言う。「学校の友だち」に至っては、ほとんど言われることはない(5.7%)

表4 - 8 よく見るニュース番組・スポーツ中継 × 属性

	全 体	性 別		地 域		BS・CS・CATV加入	
		男 子	女 子	東 京	秋 田	している	していない
自分が住む県内・都内のお天気を含むニュース	67.5	68.4	70.0	75.0	> 63.4	70.6	67.8
自分が住む県内・都内以外の日本国内のお天気を含むニュース	45.1	48.6	43.8	48.3	44.1	47.9	44.2
国内で人気のあるスポーツ中継やスポーツニュース	44.7	61.6	> 30.1	42.6	49.0	49.5	40.9
世界各国のスポーツ中継やスポーツニュース	31.0	46.5	> 16.8	30.0	33.3	35.3	27.1
世界各国のお天気を含むニュース	14.3	16.8	12.6	11.9	17.4	15.7	12.7

「かなり見る」+「見る方」の割合
不等号は10ポイント以上の開きを表す

図4 - 6 ニュースを見るように言う人

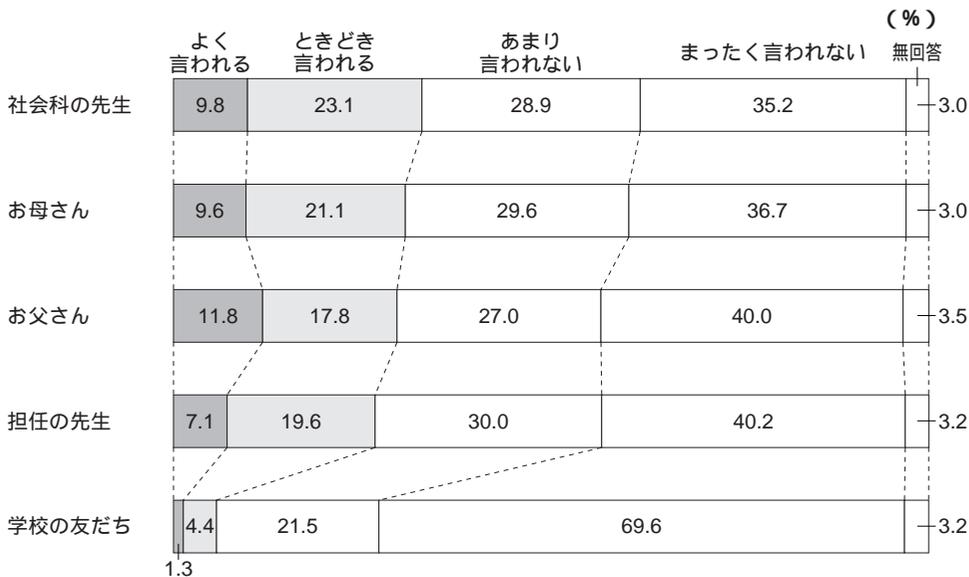


表4 - 9から、性別では、男子よりも女子の方が、両親から「ニュース番組を見るように」言われている。地域では、秋田の高校生の方が東京の高校生よりも、両親と担任の先生から「ニュース番組を見るように」と言われている。東京の高校生は、両親とニュース関連の話をおもしろくないようである。

3) テレビからの情報の受けとめ方

ニュース番組に限らず、メディアの情報を通じて、私たちは隠れたメッセージを受け取る。「文化」という価値は、メディアを通して社会に伝達されている。メディア情報から、どのような隠れたメッセージを高校生たちは受けとっているのだろうか。

図4 - 7から、オリンピックなどの日本選手の結果を気にするという「自分たち=日本人」と意識させる、いわばナショナリズムを喚起させる効果が目立つ。しかし、「海外の事故や災害の報道を見ると、日本人が巻き込まれていないか気になる」とについては、それほど気に止められていない。日本人を最も意識させるにはオリンピックなどのスポーツを通じた報道が効果的である。次いで、事件を自分の問題とかかわらせる機能も強くある。「事件や事故の番組を見ると、被害にあった

人が心配になる」「現在、青少年の凶悪な犯罪や事件を大げさに扱った番組が多すぎる」が多い。スポーツ番組については、中継を見ることで臨場感を得ることができると思い、かつアナウンサーの実況という現場では実際にいることのない人工物の必要性を肯定的に捉えている。これはメディアが作り出した架空の世界を、現実のものと考えさせる効果が浸透している事例であろう。このように、メディアの目論見を高校生は受動的に解釈している側面が強い。しかし、「暴力的な映像はどのような番組であれ、放送しない方がよい」では、文脈を重視しようとする彼らの主体的な意見もある。

表4 - 10では、性別・地域別・父母の学歴別で、この価値伝達の特徴をみた。女子は事故の被害や暴力の扱い方などに高い回答を示す。これらの報道に対して感情的である。地域別では、東京と秋田とも大きな差異はない。父母の学歴別については、fm型の高校生にメディアに対して、従来言われているような価値観を素直に受けとめる傾向がある。一方、FM型の高校生はメディアからの情報伝達について、やや距離を置いた意識がみられる。

表4 - 9 ニュースを見るように言う人 × 性・地域

	(%)				
	全 体	性 別		地 域	
		男 子	女 子	東 京	秋 田
社会科の先生	32.9	31.9	35.9	36.5	31.3
お母さん	30.7	28.5	34.8	28.8	34.3
お父さん	29.6	28.9	32.3	25.9	35.2
担任の先生	26.7	25.9	29.1	16.8	< 38.1
学校の友だち	5.7	6.9	4.9	5.6	6.2

「よく」+「ときどき」言われる割合
不等号は10ポイント以上の開きを表す

図4-7 テレビを見ていて感じること

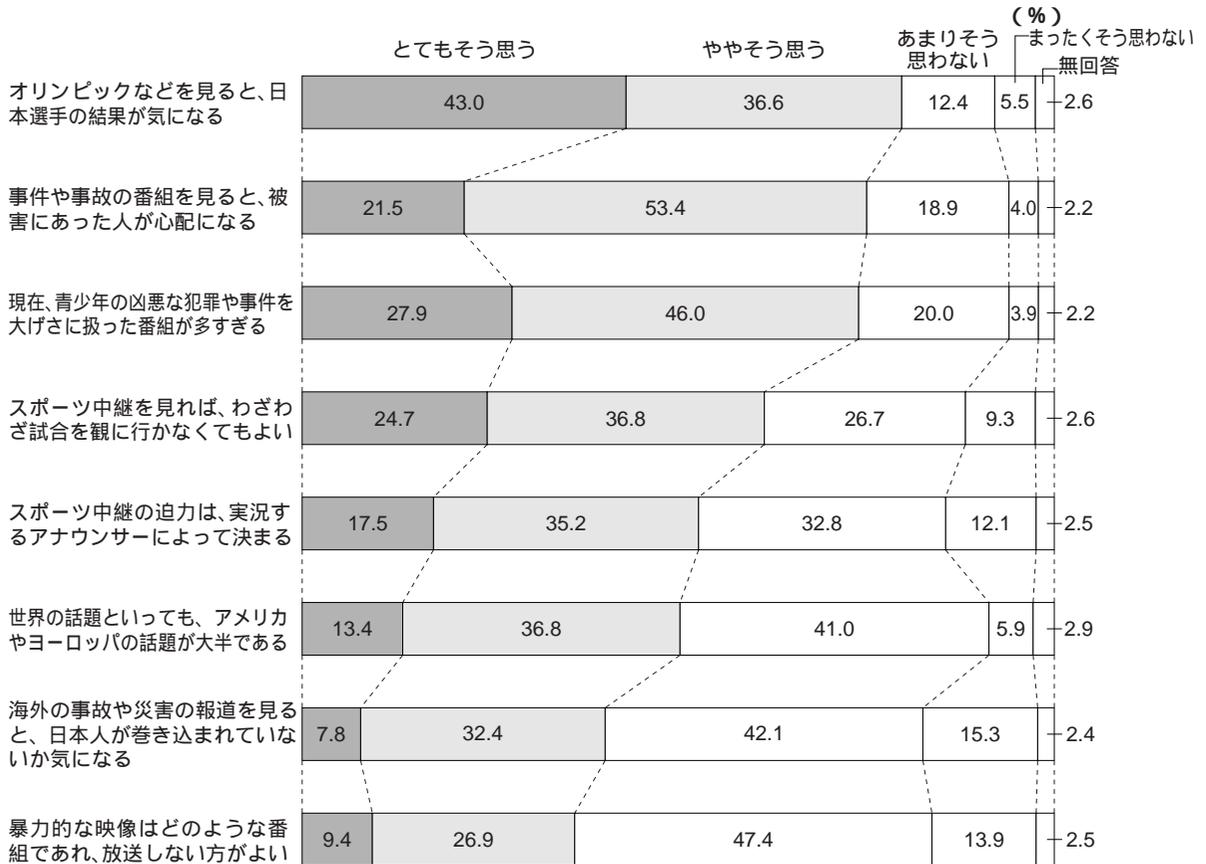


表4-10 テレビを見ていて感じること × 属性

	全体	性別		地域		父母学歴	
		男子	女子	東京	秋田	fm	FM
オリンピックなどを見ると、日本選手の結果が気になる	79.6	81.3	82.1	80.6	82.7	85.5	80.4
事件や事故の番組を見ると、被害にあった人が心配になる	74.9	70.8	< 82.5	78.1	75.2	78.4	77.1
現在、青少年の凶悪な犯罪や事件を大げさに扱った番組が多すぎる	73.9	74.6	76.6	78.1	73.2	73.6	77.0
スポーツ中継を見れば、わざわざ試合を観に行かなくてもよい	61.5	62.1	64.1	61.6	64.4	65.0	62.5
スポーツ中継の迫力は、実況するアナウンサーによって決まる	52.7	53.1	54.9	51.2	56.7	59.2	51.3
世界の話題といっても、アメリカやヨーロッパの話題が大半である	50.2	54.0	49.5	50.4	53.1	54.1	47.8
海外の事故や災害の報道を見ると、日本人が巻き込まれていないか気になる	40.2	35.5	< 46.9	38.4	43.9	42.5	44.1
暴力的な映像はどのような番組であれ、放送しない方がよい	36.3	33.9	40.5	35.8	38.6	37.8	34.3

「とても」+「やや」そう思う割合
不等号は10ポイント以上の開きを表す

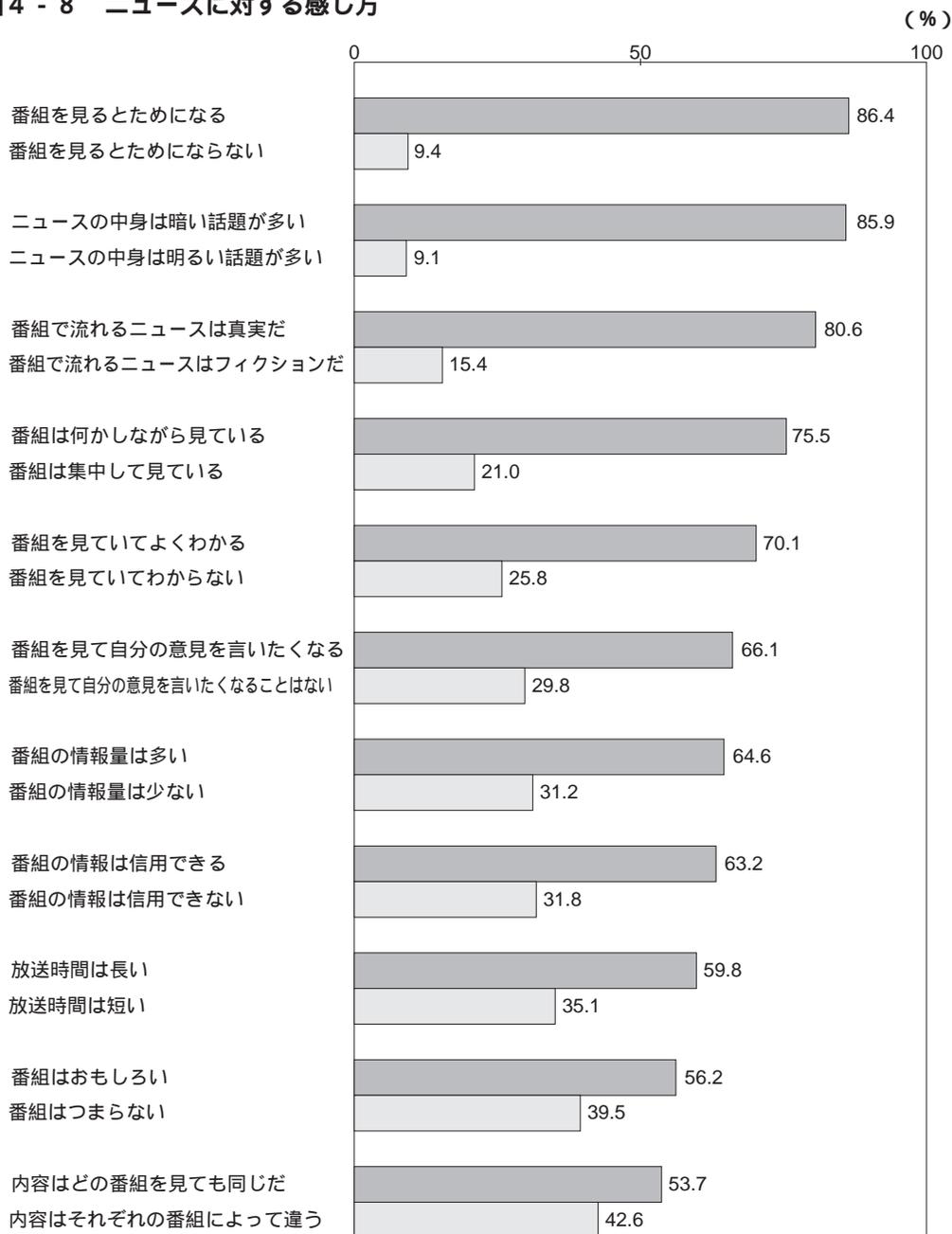
4) ニュース番組・内容・情報の感じ方

ニュース番組について、いくつかの2者択一の質問に回答してもらった。回答割合の多い順番に並べてみると(図4-8)、ニュース番組とは、ためになって(86.4%)、暗い話題が多くて(85.9%)、真実に基づいてい

て(80.6%)、何かしながら見る(75.5%)、見ていてよくわかる(70.1%)ものと捉えられているようだ。

一方で、意見が分かれる質問項目もある。ニュース内容は<どの番組でも同じ-番組によって違う>の質問では、やや「どの番組でも同じ」という意見があるが、その差は大き

図4-8 ニュースに対する感じ方



くない。また、ニュース番組は<つまらない-おもしろい>では、やや「おもしろい」が多い。ニュース番組の放送時間は<長い-短い>では、やや「長い」と思われている。

表4-11は属性別でみたものである。性別で見ると、男子に「よくわかる」が多く、女子に「暗い」「ためになる」「真実」「意見を言いたい」「どの番組でも同じ」が多い。ニュースをまじめに見ている女子と、やや斜に構えて見ようとする男子がいる。性別によって、ニュースの受けとめ方が異なっている。

地域別にみえていくと、東京の高校生では「よくわかる」「おもしろい」が比較的多く、秋田の高校生では「情報量が多い」「放送時

間が長い」が比較的多い。ニュースへの理解が深い東京の高校生と、ニュースを退屈・窮屈にみる秋田の高校生である。ニュースから情報を獲得し、その獲得した情報をいくつか掛け合わせたり、自分のこれまでの知識と合わせていったりすることによって、情報に対する能動的な行動が可能になる。ニュースを楽しんだり、理解したりする傾向のある東京の高校生に、情報を自分とあった世界に読み変えていく能力が高いように思われる。

父母の学歴別にみると、FM型の高校生に、ニュース内容の理解に対して肯定的な回答割合が高い。

表4-11 ニュースに対する感じ方 × 属性

	全 体	性 別		地 域		父母学歴	
		男 子	女 子	東 京	秋 田	fm	FM
番組を見るとためになる	86.4	86.1	94.3	91.6	88.8	90.9	89.5
ニュースの中身は暗い話題が多い	85.9	87.5	93.3	90.7	90.1	91.0	90.6
番組で流れるニュースは真実だ	80.6	80.1	87.8	81.9	85.9	86.6	81.0
番組は何かしながら見ている	75.5	76.3	80.2	76.8	79.7	78.2	75.1
番組を見ていてよくわかる	70.1	75.7	70.4	77.0	69.3	69.8	75.8
番組を見て自分の意見を言いたくなる	66.1	66.6	71.2	70.5	67.3	68.4	73.9
番組の情報量は多い	64.6	68.0	66.9	64.6	70.2	67.0	65.7
番組の情報は信用できる	63.2	65.7	67.3	67.2	65.9	69.2	64.4
放送時間は長い	59.8	61.3	64.9	59.8	66.2	65.4	57.9
番組はおもしろい	56.2	59.6	57.8	63.5	54.0	55.4	64.4
内容はどの番組を見ても同じだ	53.7	50.5	61.2	56.1	55.5	60.0	52.1

不等号は10ポイント以上の開きを表す

5) ニュースキャスターについて

ニュースキャスターは、そのニュース番組の顔である。ニュース番組は言ってみれば1つのエンターテインメント・ショー番組である。報道の中身の他に、司会役であるキャスターの役割が注目される。キャスターによって、視聴率だけでなく、そのニュース番組のカラーや評価が決まるといっても言いすぎではなからう。

図4-9より、最もニュースキャスターに

ついて関心が高い項目(「とても関心がある」+「やや関心がある」)は、「キャスターの話方や言葉づかい」で53.3%である。次いで「キャスターの見た目やファッション」(46.0%)、「キャスターの人気や知名度」(45.0%)、「キャスターのコメント」(44.6%)と続く。ただし、全体としてニュースキャスターについての関心は半々くらいという結果であった。

表4-12では、属性別に関心をみてみた。すると、ニュースキャスターに対して関心が高いのは、男子よりも女子である。女子は

図4-9 ニュースキャスターについて

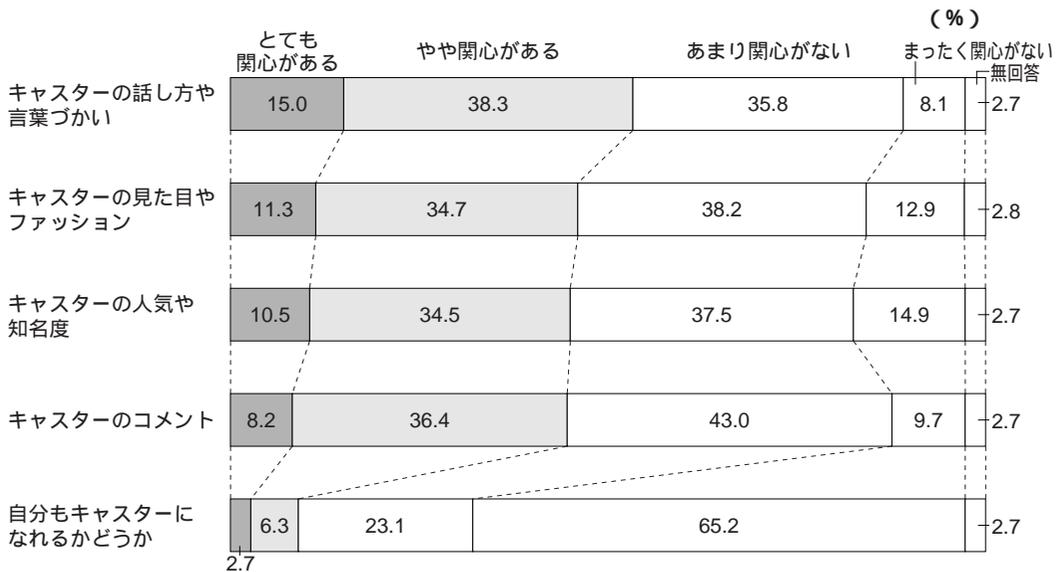


表4-12 ニュースキャスターについて × 属性

項目	全体	地域 × 性別				本の数2グループ	
		東京		秋田		60冊未満	60冊以上
		男子	女子	男子	女子		
キャスターの話方や言葉づかい	53.3	53.5	47.4	63.2	55.4	52.1	57.2
キャスターの見た目やファッション	46.0	36.6	42.6	53.0	57.2	47.2	46.9
キャスターの人気や知名度	45.0	40.1	48.2	43.0	53.4	48.7	43.7
キャスターのコメント	44.6	49.7	46.0	43.7	44.3	40.8	50.1
自分もキャスターになれるかどうか	9.0	9.2	9.5	8.8	9.8	9.7	8.9

「とても」+「やや」関心がある割合
不等号は10ポイント以上の開きを表す

「キャスターの話し方や言葉づかい」「キャスターの見た目やファッション」に関心を持っている。

地域・性別でみると、東京の女子は「キャスターの話し方や言葉づかい」に関心を持ち、秋田の女子は「キャスターの見た目やファッション」「キャスターの人気や知名度」に関心がある。地域によって、キャスターについて、関心を持つ部分が異なる結果となった。

家にある本の数別にみると、60冊以上が「キャスターの話し方や言葉づかい」「キャスターのコメント」について関心を持っている。60冊未満では、「キャスターの人気や知名度」への関心が高い。

6) ニュースを集中して見ること・見ないこと

これまで、ニュース番組の受けとめ方について、いくつかの属性別に差異があるかみてきた。しかし、情報の捉え方は属性によって決まるとは言いすぎである。むしろ、高校生自身が情報に対してどれだけ考えようとしているのか、その姿勢の有無によって、差異があらわれるのではないか。

そこでニュースに対する視聴者のタイプを表4-13のように、4つに分類してみた。このタイプを作成した意図としては、次のような理由がある。まず、ニュースへ接触する量

の問題（番組を見ている方か/見ていない方か）を重要とした。情報収集量が少なければ、その時点で彼らが獲得する情報が限られ、視野の広さに差が生じると考えられるからだ。その次に、ニュースへ接触する質の問題（番組を集中して見ている方か/何かしながら見ている方か）を重要とした。よくニュース番組を見ているからといって、情報に対して積極的であるとはいえない。むしろ、多くの情報に対して、考えていける姿勢（ここでは集中する態度）の有無が、積極性や情報の読み替え能力を大きく左右させるものと考えられるからである。

ニュース視聴者タイプの4類型は、表4-13にあるように、「ながら視聴派」が約半数を占める(50.2%)。要するに、ニュース番組は見るが、情報は受け流しているということである。次いで、「たまに見てもながら視聴派」(24.4%)である。彼らは、ニュースへの接触も少なく、番組を見たとしても情報を受け流す程度である。筆者が、新たな視聴者像として関心を寄せている「考え視聴派」は16.3%である。この数字の判断は難しいが、多く触れる情報に対して、積極的な態度を見せている人々である。また、ふだんのニュース接触は少ないものの、獲得する情報については積極的になる「見るときは集中派」(4.4%)も存在することもわかった。

表4-13 ニュース視聴者タイプ (欠損値を含めての100.0%)

		ニュース番組についての意見 (Q19-11)	
		番組は集中して見ている	番組は何かしながら見ている
お天気を含む ニュース番組 (Q17-1)	見る方 (よく+まあ見る)	考え視聴派 (16.3%)	ながら視聴派 (50.2%)
	見ない方 (少しは見る +ほとんど見ない)	見るときは集中派 (4.4%)	たまに見てもながら視聴派 (24.4%)

無回答4.7%

表4 - 14は、ニュース視聴者タイプの属性別の割合をみたものである。「考え視聴派」が多いのは父母の学歴がFM型の19.8%である。「考え視聴派」が突出して高い属性というのではない。しかし、「ながら視聴派」と「たまに見てもながら視聴派」は属性によって、その構成割合が異なる。「ながら視聴派」が多いのは、女子、東京の高校生、家の本の

数が60冊以上の高校生である。「たまに見てもながら視聴派」が多いのは、秋田の高校生、家の本の数が60冊未満の高校生である。この差は、ニュースへの接触量の差である。

ニュース視聴者タイプ別にニュース番組や内容についての意見をみたものが表4 - 15である。同じニュースへの接触量の多い「考え

表4 - 14 ニュース視聴者タイプ × 属性

	(%)										
	全 体	性 別		地 域		BS・CS・CATV加入		本の数2グループ		父母学歴	
		男 子	女 子	東 京	秋 田	して いる	して いない	60冊 未満	60冊 以上	f m	FM
考え視聴派	16.3	18.6	15.6	19.3	14.9	16.7	18.0	16.7	18.4	17.3	19.8
ながら視聴派	50.2	50.1	55.2	56.3	49.1	51.5	53.7	48.5	56.1	51.6	54.9
見るときは集中派	4.4	5.0	4.3	3.9	5.4	3.9	5.3	4.7	4.0	4.3	5.5
たまに見てもながら視聴派	24.4	26.4	24.8	20.4	30.7	27.8	23.0	30.0	21.5	26.8	19.8

表4 - 15 ニュースに対する感じ方 × ニュース視聴者タイプ

	全 体	ニュース視聴者タイプ			
		考え視聴派	ながら視聴派	見るときは 集中派	たまに見ても ながら視聴派
番組を見るとためになる	86.4	94.1	92.3	85.0	84.8
ニュースの中身は暗い話題が多い	85.9	85.3	91.3	87.9	92.2
番組で流れるニュースは真実だ	80.6	83.0	84.2	81.7	86.3
番組を見ていてよくわかる	70.1	82.3	77.1	76.7	57.9
番組を見て自分の意見を言いたくなる	66.1	82.7	69.7	66.7	58.2
番組の情報量は多い	64.6	68.6	66.6	60.0	70.5
番組の情報は信用できる	63.2	69.4	67.6	60.0	64.6
放送時間は長い	59.8	47.0	63.6	50.8	74.5
番組はおもしろい	56.2	82.2	62.1	57.6	35.8
内容はどの番組を見ても同じだ	53.7	44.1	55.2	58.3	63.5

○ は最大値 — は最小値

表4 - 16 ニュースキャスターについて × ニュース視聴者タイプ

(%)

	全 体	ニュース視聴者タイプ			
		考え視聴派	ながら視聴派	見るときは集中派	たまに見てもながら視聴派
キャスターの話し方や言葉づかい	53.3	66.7	58.4	46.7	42.9
キャスターの見た目やファッション	46.0	50.9	49.0	45.0	42.9
キャスターの人気や知名度	45.0	50.9	47.9	40.0	42.9
キャスターのコメント	44.6	61.2	49.1	35.0	32.2
自分もキャスターになれるかどうか	9.0	13.2	9.5	10.0	6.4

○ は最大値 — は最小値

視聴派」と「ながら視聴派」でも、このようにニュースの受けとめ方にズレがある。「考え視聴派」の回答が高い項目としては、「番組を見るとためになる」「番組を見ていてよくわかる」「番組を見て自分の意見を言いたくなる」「番組の情報は信用できる」「番組はおもしろい」である。一方、「たまに見てもながら視聴派」の回答が高い項目としては、「ニュースの中身は暗い話題が多い」「番組で流れるニュースは真実だ」「番組の情報量は多い」「放送時間は長い」「内容はどの番組を見ても同じだ」である。

「考え視聴派」にニュース番組に対して積

極的にかかわろうとする意識がみられ、「たまに見てもながら視聴派」にニュース番組に対して消極的・受動的・否定的にかかわろうとする意識がみられる。同じ高校生でも、ニュースの関与の仕方に大きな開きがある。

同様に、ニュースキャスターに対する関心についてみたものが表4 - 16である。どの項目も高い関心を寄せているのは「考え視聴派」である。反して、キャスターへの関心が低い傾向にあるのは、「たまに見てもながら視聴派」である。特に「キャスターの話し方や言葉づかい」「キャスターのコメント」への関心の低さが目立つ。

5 まとめ

高校生のテレビの視聴行動に注目してみた。テレビからの情報（とりわけニュース番組について）に、彼らなりに能動的に接しようとしている姿は捉えられたのであろうか。

結果からいうと、現在の高校生は情報に対して能動的な意識を持つまでには至っていない。これは筆者の思惑とややズレている。というのも、高校生はニュース・教養・ドキュ

メンタリーといった番組をドラマ・音楽・クイズやバラエティー番組と比べると見ていない。オン・タイムで今の社会が伝えているニュース番組をあまり見ないというのは、情報行動として能動的であるとはいえないだろう。

また、たとえニュース番組を見ているとしても、その情報の受けとめ方が能動的・積極

的であるとはいいがたい。ニュースから得られる情報も、断片的な情報でしかない。ニュース番組のニュースとは、テレビ局のニュース作成者が、ある情報を加工して伝えている。つまり、ニュースは完全に真実というわけではなく、ドラマほどではないにしろ、フィクション性がある。しかしながら、本結果をみると、「ニュース番組の内容は真実だ」と感じられている。情報への解釈がとても素直すぎる。他の質問などをみても、情報の送り手の意識をそのまま受けとる傾向が強い。マスメディアの情報は必ずといってよいほど、送り手の意志が強く反映されているわけで、今後はその背後を見抜く力が問われていくはずである。

以上、テレビからの情報の受けとめ方について全体像を概観すると、どうやら高校生は従来言われているような情報の氾濫に流されるままに、日々ブラウン管を見つめているようである。

だが、ある特性を持つ高校生には能動的な側面があることも発見できた。性別では、男子よりも女子が、教養・生活・テレビコマercialをよく見る。地域別では、東京の高校生の方が秋田の高校生よりもニュース番組を

よく見る傾向がある。チャンネル数の差では地上波以外のテレビに加入している高校生は視聴時間も長く、国内外のスポーツ中継やスポーツニュースをよく見る。文化資本といわれる家庭の本の数や父母学歴の差異別には、本が多く、父母とも高学歴の高校生ほど、テレビからの情報やニュースの内容に対して積極的で、理解を示す回答が多い。ニュース視聴態度の類型を作成して、ニュースを集中して見ている生徒と、そうでない生徒を比べたところ、その態度や意識はとても異なっていた。高校生内部でも差がある。

今後、インターネットを筆頭にして、情報化社会は急速に進展していこう。情報はより豊富になり、世に氾濫していこう。高校生がこの社会で生活していくためには、自らの力で主体性を持って、どの情報を必要とし、自分の知識として獲得するのかが問われよう。これは同時に、多くの不要な情報を捨てていく能力も問われていく。

筆者は、情報化社会に生き残っていけるための高度な技能を高校生に培ってほしいと願う。テレビ番組を単なる暇つぶしや気晴らしで見ただけではなく、いろいろ社会を考える教材として視聴してほしい。

〔注〕

・父母の学歴類型表とその構成割合について

(欠損値を含んだ100.0%)		母親の学歴	
		専門学校卒まで	短大・高専・大卒
父親の学歴	専門学校卒まで	fM (37.8%)	fM (4.9%)
	短大・高専・大卒	Fm (12.7%)	FM (26.6%)

その他・わからない・NA/DK 18.0%

*父母学歴については、最終学歴をそれぞれ、「中学・高校卒業/専修・専門学校卒業」グループと、「短大・高専卒業/大学・大学院卒業」グループとに分けた。父親を例にとると、「中学・高校卒業/専修・専門学校卒業」の場合は小文字のfとし、「短大・高専卒業/大学・大学院卒業」の場合は大文字のFとした。母親の場合もm、Mという記号で同じくグループ分けを行った。本章の分析表の父母学歴類型は、fm型とFM型のみを提示する。

第5章 IIIII

高校生の言葉・つかい

この章ではメディアの基本となる「言葉」について、高校生の印象に残った言葉、話す・読む・かくの基本的関係、若者言葉の場面による使い分け、メディアによる使い分けな

どを考えていくことにしたい。また、特に日本の長い歴史がある文学である短歌・俳句を取り上げ、言葉の様々な問題について考えることにしたい。

1 印象に残っている言葉

1) どこからの言葉か？

まず具体的な言葉について調べてみよう。高校に入ってから聞いたり読んだりした言葉の中で最も印象に残った言葉を聞くと、それは表5-1のようになる。表にみられるように、「友だち・恋人から」(16.6%)の言葉が最も多く、特に男子より女子に多い。そして次に、「歌詞から」(9.1%)、「本や雑誌から」(8.9%)が多かった。ただし無回答も37.9%あり、高校に入ってから印象的な言葉がない、という者も4割近くに達していた。

これを「親、先生、友だち・恋人、その他の人」という直接人から言われた言葉(合計30.5%)と、「本や雑誌、マンガ、テレビ・映画、歌詞」というメディアからきた言葉(合

計28.4%)に分けて比べてみると、やや直接人から聞いた言葉の方が多くなっていた。これは高校生において、現実空間と情報空間の重要性があまり変わらないことを示しているのではないかと思う。

また直接人から聞いた言葉の中では、「先生から」(6.3%)、「親から」(4.4%)などの上下関係からの言葉よりも、「友だち・恋人から」(16.6%)の対等な関係からの言葉の方が印象に残っているようであった。

2) どのような言葉か？

次に自由回答より、具体的な言葉の内容を分析してみよう。

まず言葉を、はげまし系と癒し系に分類してみた。この場合はげまし系とは「現在から

未来（次の段階）を志向するもの、癒し系とは「現在を受け入れる（肯定する）もの」と考えてみた。このように定義して、直接人から言われた言葉を分類してみると、「友だち・恋人から」言われた言葉は、はげまし系が約1割に対して癒し系は約2.5割であり、癒し系の方が倍以上多かった。その例としては、友だちからの「しばらく会えないけど、うちらは永遠にずっと親友だよ。離れててもずっと友だちだからね」、恋人からの「大好き」などをあげることができる。それに対して、先生、親からは、癒し系はどれも数パーセントだったのに対し、はげまし系が先生で約2割、親で約4割あった。これらのはげまし系の例としては、端的に「がんばれ」（親から）「継続は力なり」（親から）など、また「（吹奏楽コンクール前に）おそれるものは何もない。どんなに広いステージでも、そこには必ず50人の仲間がいる」（先生から）などがあつた。このように、先生、親ははげ

まし、友だち・恋人は癒すという古典的な役割分担は、現在の高校生でもみられるようであつた。なお「うるせー」「あんた死んだ方がいい」などの傷つけられたと考えられる言葉も、先生、親から数パーセントずつみられた。

次に「歌詞から」は、はげまし系、癒し系ともに、約1.5割ずつみられた。はげまし系の例としては、モーニング娘。の歌など、癒し系の例としては、浜崎あゆみの歌などがあげられていた。

「本や雑誌から」は、はげまし系が約1割あるが、8割以上は「好きこそ物の上手なれ」などの格言などであつた。また「テレビ・映画などから」も「進もうと思うやつだけが前へ進める」（つくく）などのはげまし系が2割弱あつたが、8割弱は「おっはー」「明日がある」「ファイナル・アンサー」などの流行語などであつた。

表5-1 印象に残っている言葉 × 性・学年

		(%)				
		全 体	男 子	女 子	1 年	2 年
聞いたり読んだりしたところ	1. 親から	4.4	6.5	7.8	7.4	6.8
	2. 先生から	6.3	12.5	> 7.5	10.2	10.0
	3. 友だち・恋人から	16.6	21.1	< 32.5	28.1	25.2
	4. その他の人から	3.2	6.3	3.9	4.2	6.1
	5. 本や雑誌から	8.9	14.2	14.6	11.4	17.5
	6. マンガから	4.1	7.9	5.1	7.2	5.8
	7. テレビ・映画などから	6.3	11.6	8.7	9.7	10.7
	8. 歌詞から	9.1	12.8	16.5	15.8	13.3
	9. その他から	3.3	7.2	3.4	6.0	4.6

2 話す、読む、かく

1) 話す、読む、かくの基本的関係

次に言葉の基本的な使い方である、話す、読む、かくの基本的関係について調べてみよう。

表5-2にみられるように、「とてもそう」でみると、好きな順が、「マンガを読むのが好き」(62.0%)、「(マンガを除く)本や雑誌を読むのが好き」(52.8%)、「人と話すのが好き」(34.8%)、「ものを書くのが好き」(19.3%)、「マンガを描くのが好き」(5.2%)という、読む>話す>か(書、描)くの順になっていた。そして女子の方が、「(マンガを除く)本や雑誌を読む」「人と話す」「ものを書く」のが好きのパーセントが高くなっていた。

次にこれらの関係をみると、変数間の関係の強さをみる相関係数において、「(マンガを除く)本や雑誌を読むのが好き」と「マンガを読むのが好き」(0.43)、「ものを書くのが好き」と「マンガを描くのが好き」(0.40)の間の数値が大きかった。このように高校生の間では、「読む」「かく」の中での相関がみられ、マンガばかり読んでいるからといって本を読まなくなるわけではなく、むしろマンガを読む者は本も読む、という興味深い関係がみられた。

なお、日常での「書くこと」については、「今年の正月は年賀状をたくさん書いた」(14.0%)、「日記をつけている」(8.3%)、「ものを書くときにはワープロ、パソコンを使うことが多い」(4.6%)の順であった。またこれらの「書くこと」の、読む、話す、かくへの影響は特にみられなかった。また、「日本語はすてきな言葉だと思う」者も、約3割(28.2%)いた。

2) 話す、読む、かくと他のメディアとの関係

現在はマルチメディアの時代といわれており、高校生も様々なメディアでコミュニケーションを行っている。ところでそれぞれのメディアは、相互に活性化する関係にあるのだろうか、それとも対立する関係にあるのだろうか？ 言葉を話す、読む、かく、ということと、携帯電話、音楽、テレビというメディアの関係についてみることにしたい。

① 携帯電話との関係

まず携帯電話(PHSを含む)の使用と、話す、読む、かくこととの関係をみると、携帯電話を1週間に友だちにかける回数が多いほど、話すことが好き、という傾向がみられた。またさらにメール機能についてみると、1週間に友だちに送るメールが多いほど、話すこと、そしてマンガを描くことが好き、という傾向がみられた。

このように携帯電話は、高校生の話すことと相互に活性化する関係にあるようであった。またメールも、書くこと、読むことよりも、話すことやマンガを描くことと相互に活性化するようであった。これは、現在メールがおしゃべりに使われたり、絵文字(笑いを(^_^))で表すことなど)を使ったりすることと関係していると思うが、将来さらに長い文章が送れるようになれば、その影響も変わっていくと思う。また写真や動画の送信機能が普及していけば、さらに別の関係も現れるのではないかと思う。

表5-2 話す、読む、かく × 性・学年

(%)

		全 体	男 子	女 子	1 年	2 年
1. 人と話すのが好き	とてもそう	34.8	28.9 <	41.0	36.4	33.4
	ややそう	44.1	46.1 >	42.6	43.6	45.1
	あまりそうでない	18.5	22.1 >	15.1	18.2	19.0
	ぜんぜんそうでない	2.1	3.0	1.3	1.7	2.6
2. ものを書くのが好き	とてもそう	19.3	15.3 <	23.5	20.2	18.5
	ややそう	32.0	25.8 <	38.5	34.7	29.4
	あまりそうでない	38.6	45.2 >	32.4	35.4	42.3
	ぜんぜんそうでない	9.7	13.8 >	5.6	9.7	9.7
3. ものを書くときにはワープロ、パソコンを使うことが多い	とてもそう	4.6	6.1	3.1	4.5	4.7
	ややそう	9.0	9.3	8.7	8.5	9.6
	あまりそうでない	30.0	29.3	31.0	30.7	29.6
	ぜんぜんそうでない	55.9	55.3	57.2	56.3	56.1
4. 日記をつけている	とてもそう	8.3	3.9 <	12.9	7.7	9.1
	ややそう	12.7	3.4 <	22.2	12.4	13.2
	あまりそうでない	11.1	7.0 <	15.4	11.0	11.4
	ぜんぜんそうでない	67.4	85.8 >	49.6	68.9	66.3
5. 今年の正月は年賀状をたくさん書いた	とてもそう	14.0	7.9 <	20.3	15.9	12.2
	ややそう	21.7	14.9 <	28.7	20.1	23.7
	あまりそうでない	31.8	30.5	33.5	32.2	31.8
	ぜんぜんそうでない	25.4	39.3 >	12.0	25.0	26.3
	喪中だった	6.4	7.4	5.5	6.8	6.1
6. マンガを描くのが好き	とてもそう	5.2	4.3	6.3	5.2	5.4
	ややそう	11.3	10.0	12.9	11.1	11.8
	あまりそうでない	18.9	19.8	18.3	20.0	18.1
	ぜんぜんそうでない	63.5	65.9	62.5	63.7	64.7
7. 本や雑誌(マンガを除く)を読むのが好き	とてもそう	52.8	46.0 <	60.8	54.4	52.4
	ややそう	33.2	37.5 >	29.6	31.8	35.3
	あまりそうでない	9.1	11.5	7.0	9.7	8.8
	ぜんぜんそうでない	3.8	4.9	2.7	4.1	3.5
8. マンガを読むのが好き	とてもそう	62.0	61.5	63.6	64.3	60.6
	ややそう	27.4	29.5	25.9	26.8	28.5
	あまりそうでない	6.5	6.0	7.1	6.1	7.0
	ぜんぜんそうでない	3.2	3.1	3.4	2.8	3.8
9. 日本語はすてきな言葉だと思う	とてもそう	28.2	28.7	28.2	27.9	29.1
	ややそう	43.4	41.4 <	46.2	44.4	43.2
	あまりそうでない	22.6	23.4	22.3	23.3	22.4
	ぜんぜんそうでない	4.9	6.5	3.3	4.5	5.4

② 音楽との関係

1 話す 音楽と活性化

次に音楽との関係をみてみよう。話すことについては、「授業で音楽を選択」している者、「音楽系の部活動に参加」「曲をつくる」「楽器を演奏する」という音楽活動に参加している者、そして「コンサートやライブに行く」「カラオケに行く」「外出するときに音楽を聴く」「家でCDなどを聴く」「音楽番組を聴く」「ながら聴きをする」「お店でCDを買う」「レンタルCDを借りる」「好きな歌をダウンロードする」という音楽が生活に溶け込んでいる者、そして「メロディより歌詞が大切だと思う」者ほど、人と話すのが好き、という傾向がみられた。

このように音楽と話すこととは相互に活性化する傾向があるが、これは高校生と音楽との関係が、静かに音楽を聴くというよりも、この調査でみたように、音楽活動に参加したり、「カラオケに行く」「外出するときに音楽を聴く」などの幅広い関係を含んでいるため、と考えられる。

2 読む 本・雑誌は活性化、マンガは対立

読むことについては、「楽器を演奏する」者、そして「コンサートやライブに行く」「カラオケに行く」「外出するときに音楽を聴く」「家でCDなどを聴く」「音楽番組を聴く」「ながら聴きをする」「CDを買う」、そして「メロディより歌詞が大切だと思う」者ほど、(マンガを除く)本や雑誌を読むのが好きであった。このように音楽と本・雑誌を読むことは、相互に活性化する傾向があった。

それに対してマンガは、「音楽系の部活動に参加」「バンドを組む」「曲をつくる」「楽器を演奏する」という音楽活動に参加している者、「コンサートやライブに行く」「メロディより歌詞が大切だと思う」者ほど、マンガを読むのが好きでない傾向があった。このように同じサブカルチャーでも、特に音楽の実際の活動に参加することなどと、マンガを読

むことは、対立する関係にあるようであった。ただし「授業で音楽を選択する」「好きな歌をダウンロードする」者は、マンガを読むのが好きであった。

3 かく ものを書く、マンガを描く、ともに活性化

次に音楽とかくこととの関係をみると、「音楽系の部活動に参加」「バンドを組む」「曲をつくる」「楽器を演奏する」という音楽活動に参加している者、そして「コンサートやライブに行く」「カラオケに行く」「外出するときに音楽を聴く」「家でCDなどを聴く」「音楽番組を聴く」「ながら聴きをする」「お店でCDを買う」「レンタルCDを借りる」「好きな歌をダウンロードする」という音楽が生活に溶け込んでいる者、そして「メロディより歌詞が大切だと思う」者ほど、ものを書くのが好きな傾向がみられた。

また「音楽系の部活動に参加」「地域の音楽活動に参加」「曲をつくる」「楽器を演奏する」という音楽活動に参加している者、そして「音楽番組を聴く」「ながら聴きをする」という音楽が生活に溶け込んでいる者は、マンガを描くことが好きな傾向があった。

このように音楽と、ものを書く、マンガを描くことは、相互に活性化する傾向があった。

③ テレビとの関係

1 話す テレビと活性化

次にテレビとの関係をみると、テレビを見る者ほど話すことが好き、という傾向がみられた。またテレビの内容をみても、映画・ドラマ・アニメ、そして教養・生活・情報番組・コマーシャルを見る者ほど話すことが好き、という傾向がみられた。これは高校生がテレビの内容を日頃の話題にしているため、話すこととテレビを見るのが相互に活性化しているのではないかと思う。

2 読む 本・雑誌は活性化、マンガは見る内容による

テレビを見る者ほど、本や雑誌（マンガを除く）を読む傾向があった。

またテレビを見る者ほど、マンガは読まない傾向があった。ただし映画・ドラマ・アニメを見る者は、マンガを読む傾向があった。

3 かく 顕著な関係はみられない

テレビを見ることと、ものを書く、マンガを描くこととの顕著な傾向はみられなかった。

3) 話す、読む、かくと友人との関係

次に、言葉と友人との関係について考えていくことにしたい。言葉の、話す、読む、かくという機能は、高校生同士を結びつけるのだろうか、それとも切り離すのだろうか？

① 話す 広く、深い関係

人と話すのが好きな者は「友だちの数は多い方がよい」「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」「親しくない人でも自分をどう思っているのか気になる」として実際に友だちが多い。また「友だち関係は深入りはしない」とは思わない、「1人でのいる時間の方が大切だ」とは思わない、「悩みごととはあまり友だちに話さない」わけではない、「友だちと話をしている、夢中になる」「友だちと一緒にいても、自分のやりたいことを優先する」わけではない、「友だちなどが自分をどう思っているのか気になる」という深い関係がある。

② 読む 本を読むは深い関係、マンガを読むは広く、深い関係

（マンガを除く）本や雑誌を読む者は、「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」「親しくない人でも自分をどう思っているのか気になる」として実際に友だちが多いわけではない。また「友だち関係は深入りはしない」とは思わない、「1人でのいる時間の方が大切だ」とは思わない、「悩みごととは

あまり友だちに話さない」わけではない、「フルネームがわからない友だちが結構いる」わけではない、さらに「友だちと話をしている、夢中になる」「友だちなどが自分をどう思っているのか気になる」という深い関係がある。

マンガを読むことが好きな者は、「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」「親しくない人でも自分をどう思っているのか気になる」として実際に友だちが多い。また「1人でのいる時間の方が大切だ」とは思わない、「フルネームがわからない友だちが結構いる」わけではない、さらに「友だちと話をしている、夢中になる」「友だちなどが自分をどう思っているのか気になる」という深い関係があった。

ところでW・J・オングによれば、書かれた文字の文化に対して声の文化は人間的な生活世界に密着し、集合的な性格があるという。そしてこの調査で明らかになった、話すことが好きな者は広く、深い友人関係、読むことが好きな者は深い関係、というのもそのような言葉の性格に関係している、と考えられる。またマンガを読むことは、友人関係の点では、文字の文化より声の文化に近かったが、これはマンガの方が友だちと一緒に読んだり、貸し借りをしたりするため、と考えられる。

③ かく 書くのが好きは、せまいが、深い関係を志向する。マンガを描くのが好きは、自分の世界を大切に作る

書くことが好きな者は、「友だちは多い方がよい」とは思わず、「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」わけではなく、「親しくない人でも自分をどう思っているのか気になる」わけではない。しかし「友だち関係は深入りはしない」とも思わず、「1人でのいる時間の方が大切だ」とは思わない、「悩みごととはあまり友だちに話さない」わけではない、「フルネームがわからない友だちが結構いる」が、「友だちと話をしている、夢中になる」「友だちなどが自分をどう思っ

ているのか気になる」という深い関係がある。

マンガを描くことが好きな者は、「友だちは多い方がよい」とは思わないが、「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」ただし友だちが多いわけではない。また「1人でいる時間の方が大切だ」「悩みごとはあまり友だちに話さない」「友だちとしても、自分のやりたいことを優先する」という自分の世界を大切にしている傾向がある。

このように「かく」という行為はかなり孤独な行為であるため、友人関係の広さ・深さを限定してしまう場合があるようだ。そしてそれは、特にマンガを描くことに顕著にみられた。

4) その他の要因との関係

その他の要因と読む、話す、かくとの関係を見ると、家に本がたくさんあるほど、もの

を書く、マンガを描くことが好きな傾向があった。

親の学歴とは、両親の学歴が長いほど話すのが好きで、母親の学歴が短いほどマンガを読むのが好きな傾向があった。

部活動は文芸系、マンガ系、その他の文化部に入っている者は書くことが好きな傾向があり、マンガ系に入っている者はマンガを描くことが好きな傾向があった。

またアルバイトをするほど話すのが好きで、しないほどマンガを読むのが好きな傾向があった。

学校の成績は、現代国語の成績がよい者は本や雑誌を読むことが好きな傾向があり、全教科の成績がよい者はマンガを読むことが好きな傾向があった。また国語、古典の成績がよい者は、マンガを描くことが好きな傾向があった。

3 若者言葉とその使い分け

1) 若者言葉の使い分け

次に高校生が使っている、様々な若者言葉についてみることにしたい。「日本語が乱れている」といわれているが、高校生は相手によって若者言葉を使い分けているのだろうか？

高校生の若者言葉の使い方は、表5-3のようになる。表にみられるように、「『入っている』『へこむ』などの若者言葉」(86.2%)、「『見える』『食べれる』などのら抜き言葉」(85.6%)、「(イントネーションが上がる)『すごくない?』などの半疑問の言葉」(80.7%)、「『～とか』『～のほう』などのぼかし言葉」(85.8%)、「『ムカつく』『キレル』などの人を攻撃する言葉」(82.7%)とともに、「友だちに」に対して使っていることが最も多い。またこれらを「ぜんぜん使っていない」者は、約1割前後であった。文化

庁²⁾の調査によれば、ぼかし言葉の「鈴木さんと話とかしてました」を使う者は全体で16%であった。また「お荷物のほう、お預かりします」は、全体で30%、20代で男子50%、女子49%使っていた。これらと比較すると、やはり高校生は若者言葉をかなり使っていることがわかる。なお、これら全てについて男子より女子の方がパーセントが高く、学年による差はほとんどみられなかった。

また、これらの言葉を使う相手としては、2番目には親に対して使う場合が、「『入っている』『へこむ』など」(41.6%)、「ら抜き言葉」(72.1%)、「半疑問」(49.4%)、「ぼかし言葉」(63.0%)、「『ムカつく』『キレル』など」(48.4%)とも多かった。またそれは男子より女子に多く、母親に対して友だち感覚で使っていることが考えられる。なお、どの言葉も、3番目は「先輩」、4番目は「先生」に使っていた。そして「バイトの客」

表5-3 若者言葉とその使い分け × 性・学年

(%)

		全体	男子	女子	1年	2年
1. 「入っている」「へこむ」などの若者言葉	友だちに	(86.2)	82.6 <	89.8	86.0	86.5
	先輩に	31.6	35.7 >	27.5	31.9	31.3
	親に	41.6	32.9 <	50.2	40.6	42.6
	先生に	9.9	10.9	8.8	10.0	9.8
	バイトの客に	0.7	1.2	0.3	0.3 <	1.2
	初対面のおとなに	1.2	1.6	0.7	1.0	1.4
	ぜんぜん使わない	11.6	14.3 >	9.0	12.1	11.1
2. 「見れる」「食べれる」などのら抜き言葉	友だちに	(85.6)	81.9 <	89.4	87.0	84.2
	先輩に	43.9	43.5	44.3	45.8	42.0
	親に	72.1	65.0 <	79.1	72.5	71.6
	先生に	35.7	33.6	37.8	36.8	34.6
	バイトの客に	5.1	5.6	4.6	4.8	5.4
	初対面のおとなに	9.1	10.6	7.7	9.5	8.7
	ぜんぜん使わない	10.2	13.4 >	7.1	9.4	11.1
3. (イントネーションが上がる)「すごいくない?」などの半疑問の言葉	友だちに	(80.7)	70.8 <	90.6	81.4	80.0
	先輩に	23.4	25.5	21.2	25.7 >	20.9
	親に	49.4	35.5 <	63.3	50.1	48.7
	先生に	10.5	10.6	10.5	10.3	10.8
	バイトの客に	0.9	1.8 >	0.0	0.9	0.9
	初対面のおとなに	1.4	2.1 >	0.7	1.4	1.4
	ぜんぜん使わない	16.9	26.0 >	8.0	15.9	18.0
4. 「〜とか」「〜のほう」などのぼかし言葉	友だちに	(85.8)	80.4 <	91.2	86.0	85.6
	先輩に	42.8	42.6	43.0	43.5	42.1
	親に	63.0	54.0 <	72.0	62.4	63.6
	先生に	33.2	30.1 <	36.4	32.2	34.3
	バイトの客に	4.1	3.4	4.9	4.3	3.9
	初対面のおとなに	8.0	6.8	9.1	9.7 >	6.2
	ぜんぜん使わない	9.1	13.4 >	4.7	8.7	9.5
5. 「ムカつく」「キれる」などの人を攻撃する言葉	友だちに	(82.7)	79.6 <	85.7	82.1	83.3
	先輩に	20.5	22.7 >	18.3	21.2	19.7
	親に	48.4	40.7 <	56.1	48.4	48.4
	先生に	10.5	11.7	9.4	9.7	11.4
	バイトの客に	1.0	1.9 >	0.0	0.9	1.1
	初対面のおとなに	2.2	3.2 >	1.2	2.0	2.4
	ぜんぜん使わない	12.4	15.8 >	9.0	12.7	12.0
6. 「お待ちする」「〜いたします」などの敬語	友だちに	6.2	8.0 >	4.4	6.6	5.7
	先輩に	31.8	31.6	32.1	33.2	30.4
	親に	7.7	10.5 >	5.0	9.2 >	6.2
	先生に	52.5	52.4	52.6	54.2	50.7
	バイトの客に	31.5	25.2 <	37.8	30.3	32.8
	初対面のおとなに	(66.2)	60.2 <	72.3	67.3	65.1
	ぜんぜん使わない	13.9	17.7 >	10.0	13.0	14.7

(複数回答)

「初対面のおとな」に使っている者は、どれも数パーセントであった。

最後に敬語については、「初対面のおとなに」(66.2%)最も多く使っていた。その次は「先生に」(52.5%)使っていることが多かった。

このように現在の高校生も、それなりに相手によって若者言葉を使い分けしている傾向がみられた。

2) 若者言葉と友人関係

次に、これらの若者言葉と友人関係についてみることにしたい。辻大介によれば、特に「とか」「っていうか」などの若者言葉の語用論的方略として、発話内容の不特定化、発話主体のメタ化(第三者化)、聞き手の共犯化が行われる。そしてこれらが若者を、対人関係の「重力場」から身を引き離す機能がある、としている。本稿ではこのような機能を対人関係のチャンネル能力と捉え、友人関係の広さ、深さなどとともに若者言葉との関係についてみることにしたい。

まず上記の語用論的方略については、本稿の調査では「ぼかし言葉」そして「半疑問」も聞き手の共犯化などの点ではまる、と考えられる。そこでこれらの言葉についてみると、「半疑問」を友だちに使う若者は、「友だちは多い方がよい」が友だちの数が多いわけではない。また「1人でいる時間の方が大切だ」とは思わない、「悩みごとはあまり友

だちに話さない」わけではない、「フルネームがわからない友だちが結構いる」わけではない、「友だちと話をしている、夢中になる」「友だちなどが自分をどう思っているのか気になる」という深い関係がある。そして「どこに行くかによって、友だちを選ぶ」というチャンネル能力があった。

また「ぼかし言葉」を友だちに使う若者は、「友だちは多い方がよい」「嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちになる」わけではないが、「親しくない人でも自分をどう思っているのか気になる」。そして友だちの数は多い。また「1人でいる時間の方が大切だ」とは思わない、「悩みごとはあまり友だちに話さない」わけではない、「フルネームがわからない友だちが結構いる」わけではない、「友だちと話をしている、夢中になる」「友だちなどが自分をどう思っているのか気になる」という深い関係がある。そして「どこに行くかによって、友だちを選ぶ」というチャンネル能力があった。

このように「半疑問」「ぼかし言葉」を友だちに使っている者は、友だちのチャンネル能力があった。また「半疑問」を使っている者は友人関係の深さ、「ぼかし言葉」を使っている者は広さ、深さもあった。これはやはりこのような若者言葉を使うことが、友人関係の広さ、深さを作りだしていく力も持っていることを示唆している、といえるだろう。

4 メディアの使い分け

次に高校生のメディア自体の使い分けについてみることにしたい。高校生はメッセージの内容(遊びの誘い、告白、仲直りなど)によって、コミュニケーションのツール(道具)を使い分けしているのだろうか。

様々なメッセージの内容とコミュニケーションのツール(道具)の関係は、「好きな人

に告白をする」(70.6%)「ケンカした友だちと仲直りする」(53.1%)「親戚のおじさんに進路について相談する」(41.6%)「親しい友だちを遊びに誘う」(34.8%)で、「直接会って話す」が最も多くなっていた。このように携帯などのメディアを使っている現在の高校生も、告白、仲直りなどの深刻な問題では、

face to faceの対面的関係を重視しているようであった。

また、「あまり親しくない友だちを遊びに誘う」とときには、「PHSや携帯電話でメールを送る」(36.8%)という、携帯というメディアを使い声も直接聞かない、というツ

ルが最も多くなっていた。そして「親戚のおじさんへの相談」では、音などが安定する「家の電話で話す」(34.0%)が、「PHSや携帯電話で話す」(1.6%)より、ずっと多くなっていた。

5 短歌・俳句の詠みと読み

1) 短歌・俳句に影響を与える要因

それでは最後に、高校生と短歌・俳句を詠むこと、読むことの関係について考えていくことにしたい。ここでなぜ短歌・俳句をとりあげたかという、日本の伝統的な詩型であり、それを分析することは、高校生の「言葉・つかい」にとって基本的に重要と考えられるからである。

① 周りの人間

高校生に短歌・俳句について聞くと、それ

は表5-4のようになる。表にみられるように、まず周りの人間については、「先生に短歌や俳句に熱心な人がいた」が約4分の1(24.9%)、「親や親戚で短歌や俳句をつくっている人がいる」が1割弱(7.7%)であった。短歌や俳句に熱心な先生が約4分の1いたのは、予想よりもかなり多かった。また、それは東京に多かった。

② 日常の知識と行動

短歌・俳句に関する知識については、「短歌は5・7・5・7・7、俳句は5・7・5であると

表5-4 読みと詠みの構造 × 性・学年

	(%)				
	全 体	男 子	女 子	1 年	2 年
1. 短歌は5・7・5・7・7、俳句は5・7・5であると思う	80.8	82.3	79.2	84.4 >	77.0
2. 若山牧水という歌人を聞いたことがある	55.3	51.0 <	59.5	45.8 <	65.1
3. 短歌、俳句は古い、というイメージがある	61.3	61.8	60.8	63.2	59.4
4. 短歌、俳句は難しい、というイメージがある	65.9	63.6	68.2	69.7 >	62.0
5. 今年の正月に百人一首をした	17.2	15.2	19.1	23.8 >	10.2
6. 親や親戚で短歌や俳句をつくっている人がいる	7.7	6.8	8.5	7.8	7.5
7. 先生に短歌や俳句に熱心な人がいた	24.9	24.2	25.6	23.1	26.8
8. この1年間、授業以外で短歌、俳句を読んだことがある	27.2	26.0	28.4	26.4	28.0
9. 短歌、俳句をつくったことがある	41.9	35.8 <	48.0	40.0	43.9

(複数回答)

思う」が約8割(80.8%)、「若山牧水という歌人を聞いたことがある」が5割強(55.3%)であった。ただし、百人一首という伝統文化については、「今年の正月に百人一首をした」は2割弱(17.2%)であった。

③ 短歌・俳句へのイメージ

短歌・俳句へのイメージについては、「短歌、俳句は難しい、というイメージがある」(65.9%)、「短歌、俳句は古い、というイメージがある」(61.3%)がともに約6割で、どちらかというマイナスイメージがあるようであった。

④ 短歌・俳句の読みと詠み

実際の短歌・俳句への接触については、「この1年間、授業以外で短歌、俳句を読んだことがある」が約3割(27.2%)、今までに「短歌、俳句をつくったことがある」が約4割(41.9%)であった。このように、とにかく短歌・俳句を詠んだことがある者が約4割おり、男子(35.8%)よりも女子(48.0%)に多かった。

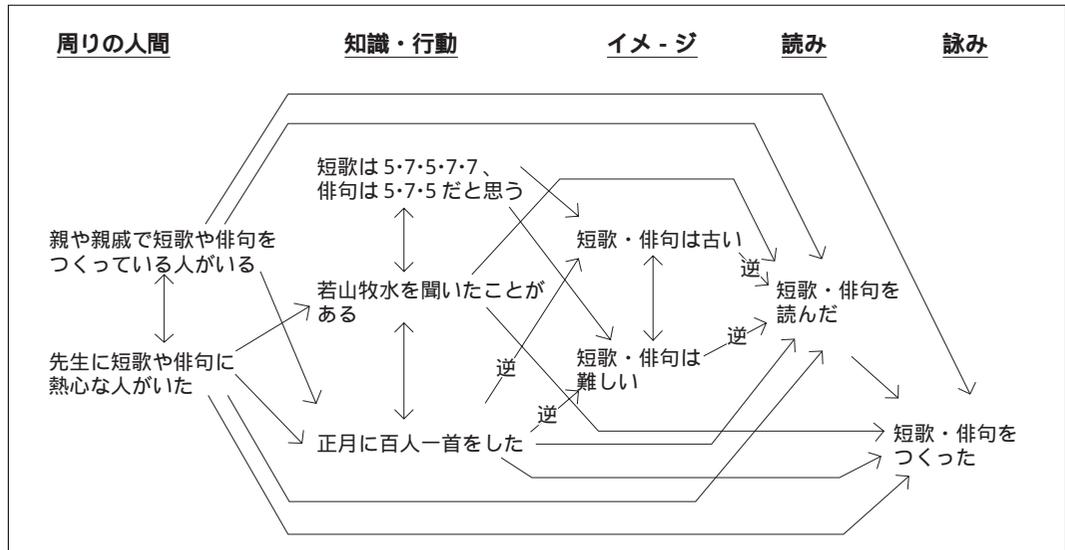
作品としては、

奥入瀬の若葉を磨く滝の音(2年女子)
 雪うさぎ何を思うか雪原に(2年女子)
 ふらここの私を空に放り出し(1年女子、
 「ふらここ」とはブランコのこと)
 のような文学的な俳句、
 UFOがきてもバレちゃう五月晴れ(2年男子)
 夏休みせみに対抗母の声(1年女子)
 今はかずルーズソックスいつはくか(1年女子)
 かき氷シロップけちるなオバタリアン(1年女子)
 などの川柳的な俳句があった。また、
 目があった!!それが今日の生きる糧(2年女子)
 のような相聞(恋)の句は意外に少なかった。
 また短歌を詠んだ例は少なかったが、
 通学路会う猫皆逃げてゆく畜生!顔を覚えられたか?!(2年女子)
 などのおもしろい歌などがあった。

⑤ 諸要因の関係

次にこれらの関係をみると、それは図5-1のようになる。図に示されるように、周りの

図5-1 読みと詠みの構造



—— 因果(相関)関係あり(「逆」とは、百人一首をするほど、古い、難しいと思わない、などの逆の関係を示す)

人間については、親や親戚で短歌や俳句をつくっている人がいたことと、先生に短歌や俳句に熱心な人がいたことは相関している。これは、たとえば親や親戚が短歌や俳句をつくっていてそれに興味を持った場合、先生に短歌や俳句について聞きに行ったり、短歌や俳句に熱心な先生を記憶していたりするため、と考えられる。そして親や親戚が短歌や俳句をつくっていたことは、百人一首をしたこと、そして短歌・俳句を読むこと、詠むことに直接の影響を与えていた。また先生が熱心だったことも、若山牧水を聞いたことがあること、百人一首をしたこと、そして短歌・俳句を読むこと、詠むことに直接の影響を与えていた。

次に日常の知識・行動では、「短歌は5・7・5・7・7、俳句は5・7・5であると思う」ことと「若山牧水を聞いたことがある」こと、そして「若山牧水を聞いたことがある」ことと「正月に百人一首をした」ことは相関していた。このように短歌・俳句に関する知識と行動は、関係があるようであった。ただし短歌は5・7・5・7・7、俳句は5・7・5であるという教科書的な知識は、短歌・俳句は古い、短歌・俳句は難しい、というマイナスイメー

ジをむしろ増加させていた。それに対して若山牧水を知っていることは、短歌・俳句を読むこと、詠むことに直接の影響を与えていた。そして百人一首をしたことは、短歌・俳句は古い、短歌・俳句は難しい、というマイナスイメージを減少させ、短歌・俳句を読むこと、詠むことに直接影響を与えていた。

短歌・俳句のイメージでは、短歌・俳句は古い、短歌・俳句は難しいは互いに関係があり、またそう思う者は、それを読まない、という傾向があった。

最後に短歌・俳句を読む者は、やはりそれらを詠む、という傾向があった。

2) 作品鑑賞

それでは次に、具体的な作品を鑑賞してもらい、さらに高校生と言葉の問題について考えていくことにしたい。

作者名は伏せて、高校生にA、Bのどちらの文(歌)が好きかを選ばせてみると、それは表5-5のようになる。

1は、A やは肌のあつき血潮にふれも見でさびしからずや道を説く君 が与謝野晶子『みだれ髪』の当時(明治34年)としては女

表5-5 作品鑑賞(A、Bのどちらの歌や文が好きか)×性・学年

		(%)				
		全体	男子	女子	1年	2年
1	A. やは肌のあつき血潮にふれも見でさびしからずや道を説く君	55.0 v	56.0	59.4	54.9	< 60.6
	B. 生き物をかなしと書いてこのわれに寄りかかるなよ 君は男だ	40.3	44.0	40.6	45.1	> 39.4
2	A. 昼食に誘いしただけであるものを友達つれて女現わる	26.3 ^	32.5	> 22.6	27.0	28.2
	B. 終バスにふたりは眠る紫の 降りますランプに取り囲まれて	68.9	67.5	< 77.4	73.0	71.8
3	A. せまい日本そんなに急いでどこへ行く	81.7 v	82.1	< 88.8	86.5	84.4
	B. せまい日本そんなに急いでどこへ行くのだ	13.9	17.9	> 11.2	13.5	15.6
4	A. 麦わら帽子のへこみ思い出の一つのようであのままにしておく	37.1 ^	44.1	> 33.6	37.5	40.2
	B. 思い出の一つのようであのままにしておく 麦わら帽子のへこみ	58.4	55.9	< 66.4	62.5	59.8

性の主張がみられる歌、B 生き物をかなし
 と言ってこのわれに寄りかかるなよ 君は男
 だ が梅内美華子『横断歩道』の現代の、よ
 り女性のリーダーシップがみられる歌であ
 る。これを選ばせると、与謝野が約6割
 (55.0%)、梅内が約4割(40.3%)と、意
 外と明治の歌の方が人気があった。そして学
 年とともにこの傾向が増加した。これは与謝
 野が教科書などにも載っている有名な歌人だ
 ること、また言葉遣いは古いが、内容とし
 ては現在の高校生にも共感するところがある
 ためではないかと思う。

2はともに現代の歌だが、A 昼食に誘い
 しただけであるものを友達つれて女現わる が
 寒川猫持『猫とみれんと』のユーモアの歌、
 B 終バスにふたりは眠る紫の<降りますラ
 ンプ>に取り囲まれて が穂村弘『シンジケ
 ート』の切なさの歌である。これを選ばせ
 ると、寒川が約3割(26.3%)、穂村が約7割
 (68.9%)と、鑑賞が難しいと思われる切なさ
 の歌への共感が広くみられ、特に女子にその
 傾向がみられた。これは寒川の歌が、ユーモア
 の歌ではあるがその 女 の表現の仕方に女子
 がひいてしまった、ということが考えられる。

3のA せまい日本そんなに急いでどこへ
 行く は交通標語だが5(6)・7(8)・5の韻
 文になっている。簡単に覚えてもらうため交
 通標語は、5・7・5の韻文になっているもの
 が多い。そしてB せまい日本そんなに急い
 でどこへ行くのだ は、それをふつうの文章
 になおしたものである。これについてどちら
 が好きか選ばせると、Aが8割以上(81.7%)
 になっており、5・7・5の韻文への支持が圧
 倒的に多い。特に女子にその傾向がみられた。

ところで3の韻文への嗜好は、交通標語で
 聞き慣れているから、ということが考えられ
 る。そこで4では、俵万智『サラダ記念日』
 の5・7・5・7(8)・7の歌B 思い出の一

つのようにそのままにしておく麦わら帽子の
 へこみ と、それを言葉の順を意味どおりに
 変えたA 麦わら帽子のへこみ思い出の一つ
 のようにそのままにしておく について選ん
 でもらった。するとBの本歌の方の支持が
 約6割(58.4%)と高かった。このように有
 名歌とはいえないこの歌についても、5
 ・7・5・7・7の韻文が好まれ、特に女子にそ
 の傾向がみられた。なおどれについても、地
 域差はみられなかった。

最近では文語に接する機会がほとんどないこ
 と、若者言葉の変化により、短歌・俳句と若者
 の距離が問題にされている。しかし実際には
 高校生にも歌への理解、5・7・5や5・7・5・
 7・7の韻律を好む傾向がみられたのである。
 なお表5-3の若者言葉の使用と韻律への志
 向については、特別な関係はみられなかった。

[注]

1) W・J・オング『声の文化と文字の文化』藤
 原書店、1991。

2) 文化庁「国語に関する世論調査」2000年。

3) 辻大介「若者語と対人関係」『東京大学社会
 情報研究所紀要』57, 1999年。なお辻はこの先駆
 的な研究で、若者を対人関係の「重力場」から身
 を引き離す機能が対人関係の「重い-軽い」と結び
 ついており、「濃い-薄い」「深い-浅い」と
 区別している。しかし日本語の語感として、対人関
 係の「重い-軽い」は、必ずしも「濃い-薄い」
 「深い-浅い」と区別できない、と考えられる。ま
 た辻は対人関係の「重い-軽い」を測る質問として、
 「仲のいい友だちでも、ずっといっしょにいると離
 れたくなる」「どこに何をしに遊びに行くかによ
 って、いっしょに行く友だちを選ぶ」をもちいている。
 そして他の論文ではこれを、「密着した人間関係に
 拘束されることを好まず、いつでも手軽にON/
 OFFできる人間関係を好むようなこのメンタリテ
 ィ」と表現している(「ケータイと『とか』弁」
 『学叢』62号、日本大学文理学部、1998)。これら
 のことから考えて、本稿では対人関係の「重力場」
 から身を引き離す機能を取りあえず対人関係のチャ
 ンネル能力と名づけて、検討していくことにした。

座談会

高校生とメディアとの関係

司会 / 深谷昌志 (東京成徳短期大学教授)

出席者 / 武内 清 (上智大学教授)

大野道夫 (大正大学助教授)

西島 央 (東京大学助手)

岩田 考 (東京学芸大学大学院生)

浜島幸司 (上智大学大学院生)

今回は、携帯電話・音楽・テレビ・言葉という高校生に身近な4領域のメディアを取り上げ、かわり方や意識などを調査しました。そこから新しいメディアをうまく生活に取り入れ、いきいきと活用している高校生の姿を捉えることができました。ここでは、担当された方々に高校生とメディアとの関係について、執筆後の印象や問題点、今後の方向性について語っていただきました。

電子メディア社会をどう考えるか

深谷 今回のモノグラフ・高校生のタイトルは「電子メディアの中の高校生」ということですが、携帯電話・音楽・テレビ・言葉とそれぞれのお立場で、それぞれのアプローチから入っていただきたいと思います。なんとなくよく電子メディアといわれますが、「電子メディア社会」とは、どういう社会をいうのでしょうか。

浜島 「電子メディア」という言葉がふさわしいのは、携帯電話ではないでしょうか。おそらく「電子メディア社会」とは携帯電話を中心に置いた人々の生活をさすのだと思いま

す。この携帯電話を代表として置き、僕たちはそれ以外の3者(音楽・テレビ・言葉)との接点について たとえば、携帯電話とはそれらのどのメディアとの関連性が強いのか、あるいは全く関連性のない新たなメディアなのか 考える必要を感じました。

深谷 今のは大事なご指摘ですね。今までのメディアに新しいメディアが加わった状況を考えた方がいいのですね。

浜島 携帯電話がこれらのメディアの先を走っている気がとてもするのです。3者の中でどういう形で引張られているのか、それとも独立した分野を形成しているのか。

深谷 初歩的な質問ですけど、どうしてマルチメディアと言わなくなったのでしょうか。

岩田 マルチメディアという言葉が使われなくなった理由はよくわかりませんが、「携帯電話のマルチメディア化」という言い方はしますね。先生はどのような意味でおっしゃっているのでしょうか。

深谷 ごく素朴に考えると、テレビもあり、音楽もあり、携帯電話もあり、インターネットもありというように子どもたちが多様なメディアに接しているという意味ですよ。ある時期までは、マルチメディアという言い方が多かった時期があって、今はだいたい電子メディアという言い方ですが…。携帯電話とは、今までのメディアと基本的に違ってくるのでしょうか。今までのメディアの中に携帯電話が入ることで何か変わってくるのでしょうか。

岩田 難しいご質問です。携帯電話が電子メディアを代表するとすれば、その影響もメディアの歴史的な変化の中に位置づけて考える必要があるからです。携帯電話単体で考える場合には、利用者側のコミュニケーションの特質がメディアの特性を規定していくという逆の向きの影響も重要だと思います。つまり、利用者のコミュニケーションの特質が他のメディアにも程度の差こそあれ共通した影響を与えるのではないかということです。現時点では、若者のコミュニケーションを特徴づける「選択的」という特質が重要だと考えています。

深谷 西島さん、電子メディア社会のことや執筆を終えた後の印象も含めていかがですか。

西島 僕自身は、まずめずらしいことに携帯電話を持っていないので…（笑）。今回の音楽では電子メディアにかかわるようなことは、ほとんど出てきませんでした。ただ最初にイメージしていたこういう関係があるのだろうなと思っていたのが、結構崩れました。

深谷 それはどういうことですか。

西島 以前の音楽社会学では、音楽の接し方に階層性があるとか、音楽のそれまでの経験というものが音楽行動にどう影響しているか

と言われてきていますが、そうじゃないような他に何かあるだろうなという感じで、メディアなり、そこにのっかってくるものに対する高校生の接し方というものが大きく変わってきているのではないのでしょうか。自分で使っていないのでわからないのですが、携帯電話にはいろいろな機能がついていて、従来と比べると受け手としての割合が減っていますよね。自分の方から非常に容易に発信することができるので、その部分で音楽に対する接し方も変わってきているという可能性はあるなど皆さんの原稿を読んだ後に感じます。

大野 いろいろなメディアが出てきて子どもの生活世界が少しずつ変わっていると思いますが、子どもの肉体は1つで、食事をしたり、遊んだりはそのなにも変わらないのですから、序々に変わっていくというのが正直なところではないでしょうか。僕の調査したところでは、5・7・5とか5・7・5・7・7という韻律に対し高校生がわりと好むというような傾向が出ましたが、そういう結果をみても日本語がすごく変わるということはない気がいたしました。

メディアによる高校生の 成長のスタイルへの影響

深谷 高校生サイドからいうと電子メディア化されても変わっていない部分があるのではないのでしょうか。テレビの場合はどうでしょうか。

浜島 全体としては変化しているのではなく、むしろもっと分化している気がします。テレビを見ている人と見ていない人では大きな差があり、見方次第でずいぶんもの考え方が変わっています。マスメディアというのは、その人の使い方次第かなというのがあり、多くの高校生がそれをうまく使いこなしていくことがすごく弱い。結局、携帯などからの情報についても何を選んでいくのかということ

と、かかわってくる問題ではないでしょうか。
 武内 新しいものは、若い人たち 特に高校生に一番早く取り入れられています。今回取り上げたメディアも携帯電話や言葉などは、新しいものといってよいでしょう。高校生とメディアの関係には2つの側面があります。1つは高校生が新しいメディアを使って今までにない問題行動をとっている側面。もう1つは新しいメディアを高校生が積極的に生活の中に活かしている側面です。旧世代から見ると、今の高校生のメディアの使い方には「問題あり」と感じる人が多いのですが、実際今回のデータを見ると、問題があるというよりはそれを生活の中によく活かしているという印象を受けました。

深谷 高校生サイドから見たら、それほど大きく変わっているようには見えない。うまく利用しているという感じですね。

武内 そうですね。ただ、携帯電話の使用料金がかなりの高額で、高校生の小遣いの中で大きな比重を占めています。ここから派生する問題があるでしょう。携帯電話料金の支払いのためにアルバイトをする高校生もいると思います。

岩田 確かに、アルバイトをしているかどうかということと、携帯電話の利用や利用頻度には関連がみられます。ただ、アルバイトをするというライフスタイルが、利用を促進したり、利用頻度を高めたりする可能性も考慮すべきだと思います。

深谷 今までのお話を聞いていると「電子メディア」を高校生レベルで押さえたときに、携帯電話というのが一番新しいインパクトのあるメディアなのでしょうか。メールやインターネットはどうでしょうか。

浜島 そうですね。メールやインターネットの機能がもう携帯電話の中にありますからね。無理して家にあるパソコンを開かなくてもこちらの小さな端末でやってしまえますので。

電子メディアによる コミュニケーション

深谷 携帯電話を持つと人間関係が深まるのでしょうか。

岩田 これまでの携帯電話に関する多くの調査では、基本的には人間関係は深まるという結果になっています。

深谷 それについてはどう思われますか。確かに、携帯電話で人間関係の幅も人数も増えるし、人間関係のコンタクトができますけど、何かコンタクトの仕方が違うような気もしますが...

大野 相手が限定される、ということはないですか。たとえばこれは大学生の例ですが、最近はゼミのコンパなどで、ゼミ生以外の他大学の友だちや彼女とかが来たりすることがあります。これは友人関係が広くなるという面はあると思うのですが、好きな人だけを集めて限定してしまう、という面もあるのではないですか。

岩田 確かに、初期の研究ではそうした指摘もなされています。特定の人たちと24時間、常にコミュニケーションするようになったという指摘です。メール機能の登場で、状況に変化があるかもしれませんが...

西島 教師の立場から見ていても、自分たちの高校生や大学生の時期と比べると連絡をとる回数が確実に増えていると思います。

深谷 時間を気にせず、いつでもコンタクトできますからね。

西島 そういう意味では深くはなると思うし、かといってそれ以外の友だちとの関係をとっていないかということそうではない。むしろそういう友だちには、電話をいきなりかけるのはちょっと抵抗感があるけど、簡単にメールで「ちょっとどう?」ということができたりして、少し遠い友だちとの連絡が、とりやすくなってきたのではと感じます。自分自身も親しい友だちは電話で話しますが、少し

遠い友だちにはメールで出すということを考えますとむしろ深まる部分もあるのではないのでしょうか。

武内 携帯電話の場合、親を介さずに直接相手と話せることが高校生としてメリットが大きいのではないのでしょうか。今までは電話すれば相手の親が出てきて、いろいろ気を遣うことが大きかったわけですから。

深谷 デメリットみたいなものはありますか。

岩田 しいてあげれば、24時間コミュニケーションをしていなければ落ち着かないというような、コミュニケーションへの依存がみられるということでしょうか。

浜島 連絡が入ることで楽になりますが、逆にどういう連絡が入るかわからず、24時間いつでも画面を見ないと落ち着かないような状況があると思います。たとえばある場面では電源を切っていたとしても、別の時間にちょっと着信履歴などを見たら、強迫観念とまではいえませんが、コミュニケーションをとらねばならないようなことがあるのかもしれない。

深谷 メールや携帯電話というのは、仕事には非常に役に立つものだと思っています。今は仕事関係の連絡はオンタイムでほとんど携帯電話に入りますよね。時間を節約するという意味でしたら、昔は速達で返事をしたのが、ファックスになりメールになった。しかし、メールやファックスでコンタクトをとるより、生で会ってしゃべる方が何十倍もいろいろなことをしゃべっていますね。だからメールを含めて携帯電話でのコミュニケーションは、コンタクトをしているように見えても意外と浅いのではないかという気がしてならないのですが。

大野 深い 浅いという見方の他に、相手の顔や表情が見えないのでコンタクトが身体的、全面的ではない、といえないのでしょうか。好きな人へ告白とかケンカの仲直りでは、直接話すという調査結果が出ています。ですが

ら携帯電話と生のコンタクトとの使い分けがある気がします。

岩田 僕は、携帯電話やパソコンによるメールやチャットなどを介した関係が必ずしも浅いとは思えないのですが。たとえば、直接会っている人よりも、メールだけでつながっている人に、より親しみを感じたりすることもあると思います。両者の「親密さ」を同じ物差しではかれるのかという問題もありますし、携帯電話でのコミュニケーションが浅く、対面的なコミュニケーションは深いというのは、少し単純すぎるように思います。

深谷 僕は、メールを打っているとき、自我が全然傷つかない。完全にカプセルに入った上でお互いがコンタクトしているので、クールですよ。逆にいうと好きなことが勝手にかけるのです。でも生で会ったときとかなりコミュニケーションの中味が変わるような気がします。本心をガードしているのではと思います。高校生はそうじゃないのかもしれない。

岩田 チャットや掲示板では、対面的な状況ではいえないような攻撃的な発言をしまい、トラブルが発生するということがあります。自分というものがしっかりとあって、仮面をつけるように使い分けしているのかというところも必ずしもそうではないように思います。最初は使い分けの意識があるかもしれませんが、チャットなどをしているとある段階から没頭して、それをこえていくようなところがあるように感じます。チャットとメールには無視できない違いもありますが、今回の調査でも悩みの相談に通話よりもメールが使われるという結果がみられました。メル友と心中するような事件もあるように、先生がおっしゃるのは、若干違うコミュニケーションがみられるのではないのでしょうか。

深谷 常に人と会ってコミュニケーションが成り立っているというのは、ある時代のあるコミュニケーションスタイルで、これからは、

今のようなメールとかでコンタクトするスタイルが普通になるのではないかと思いますね。

音楽・テレビ・言葉 とのかかわりの中で

武内 日本では聴く音楽が中心で、生活の中に音楽が入っている感じがしません。西洋の人たちの方が、日常的に音楽が生活の中にも入り込んでいるように思います。日本でも若い人の音楽とのかかわりは大きく変化していますか。

西島 生活の中の音楽についてはおっしゃる通りだと思います。今回、歴史を持っている日本の音楽、大衆の中の音楽、学校で習う音楽すなわちクラシック音楽についてみたところ、高校生が音楽を嫌いになるときは、音楽の授業で評価をされるときが2番目くらいに高かった。また、生活に根づいた音楽はどれなのかははっきりしていない。ピアノを習うことについては、今回東京の女子では7割ほどだったと思いますが、やはりそれは西洋の音楽であり、音楽教室などの中で閉じ込められている感じがします。それにもかかわらず、音楽から離れられないのは、いったいどうしてなのかについてはもう少し追究しないと今の段階ではわかりません。ただ大衆文化としての音楽という部分では、ターゲットである高校生や大学生の気持ちを表していることが多いわけですから、彼らはそこにコミットしている部分が強く、音楽は好きだが、学校で習う音楽は嫌いだといっています。

深谷 今の高校生は、自分で音を持てるようになってきたのでしょうか。

西島 自分で作ることもできます。携帯電話にしても自分で着メロをつくっています。今回岩田さんが提案された「習いに行くだけでなく、自分で楽器をさわる」というような質問項目を入れたところ、わりと数値が高かったです。

深谷 全体としては、メジャーな音楽は減っ

てきているのでしょうか。

西島 これが主流というものが減ってきていると思います。それぞれが自分の好きなものを使い分けていて、それに固執しているのかというとそうではなく多様性があるのでは。

深谷 テレビはどうでしょうか。どういう意味を持つのでしょうか。

浜島 好き嫌いで見ていると思いますが、ものを考える道具かどうか…。娯楽が1番であり、情報を得るという意味では、ニュースやドキュメントはあまり見ていないようです。テレビについては、昔ながらのマスメディア論で説明されてきたことがあてはまっている気がします。

武内 今回、東京と秋田での地域差は大きかったのでしょうか。

浜島 東京の方が全国ニュースに気を配っていたようですし、ニュースキャスターの言葉遣いやコメントに関心を持っていました。逆に秋田の方はファッションがどうかなどに関心を持っていました。全国一様だと思われるマスメディアも自分がいる場所によって若干違うのではないのでしょうか。

深谷 言葉については、どうなのでしょう。

大野 短歌や俳句に限って言えば、僕もやっていますが、ネット上で歌会などが開かれていて、顔の知らない同士、歌の批評をしています。そうすると歌がすごく変わったというほどでもないのですが、昔の啄木くわしのようなはたらけどはたらけど猶わが生活くらし樂にならざりぢっと手をみる みたいな告白調ではなく「こう思うのだけどうだろう」のように、ちょっと友だちにたずねるような、そういう歌がありますね。若い人たちには、おもしろい発想でつくるみたいなのところがあり、そういうところから短歌や俳句に参入していったのかもかもしれません。

深谷 誰でも参加していいのですか。また、歌集などこれから次第に出なくなるのですか。

大野 今までは、地域ごとの結社での歌会で

やっていたのですが、ネット上では誰でも参加でき、外国の人とかもいます。基本的にはネットを使っている年齢層の関係で、若い人が多いですね。そして、ネット上の歌集などがあり、オンデマンド出版で欲しい人だけプリントするものがもう出ています。ただ今までのちゃんとしたつくりでの歌集の方がいいという人もいて、全部が取って代わるということではないと思います。

これからのメディア・リテラシーとは

武内 人とメディアとの関係は、人がメディアに支配されるという側面と人がメディアを使って何かをやっていくという2つの側面があると思います。テレビに対しては、基本的に人は受け身にならざるを得なくて、テレビを使って積極的に何かをやっていくことは、とても難しいことかもしれません。しかし、能動的な視聴者への転換が今望まれています。携帯電話は、若者が主体的に使いこなせるメディアだと思います。その中間に音楽や言葉などがあるのではないのでしょうか。

深谷 電子メディア社会でよいことをいえば、高校生も発言権を持てるようになったということですかね。今まで普通の人たちは、メディアを持っていなかったわけですね。これからは、草の根からの民主主義というのか市民社会が成り立つのでしょうか。

浜島 声としてはよく出ていますが、それが大きな問題になるかというたぶんならないような気がします。今のまま続いていけば、意見を言い合っているだけおしまいで感じでしょう。携帯電話を通じて高校生同士で共有する情報もあるのですが、それが1つの運動として何かを変えていく若者の形へと発展するかどうか…。

武内 インターネットはどうでしょうか。

深谷 身近にインターネットが使えるようになるということは可能性として強いとして、コーディネーターがいないと、かなりグジグジとこぼし話をして終わってしまうということですね。

浜島 不満の捌け口先ということでメディアに対して満足しているのではないのでしょうか。深谷 それ以上の力にはなれないのでしょうか。新しい形のネットのリーダーなど政治家とかがやりかけていますよね。

大野 可能性としてはありますよね。我々に見えていないだけなのかもしれないし。ちょっと古い例かもしれませんが、テレビ番組であるタレントがオーディションに合格してすごく伸びていくなかで、視聴者が投票したり、コンサートに行ったりして、そのプロセスに参加していくわけです。それも結局メディアに利用されているといえば、そういえなくはないのですが、視聴者の側でテレビに参加したい、という意識があるのでしょうか。

浜島 一緒に動きたいと思わせる情報であると彼らが受け止めたということは、やはり、何らかのコミュニケーションがメディアを媒体にこなされたといえるでしょう。

深谷 こう考えていくと、メディアといかにコントロールして接触するかが大事になりますね。一口でいえば、メディア・リテラシーになると思いますが、メディア・リテラシーが形成されていれば、一人ひとりがしっかりとした市民社会が実現しますね。しかし、リテラシーが欠けるとメディアに支配される専制社会が登場しそうです。それだけに高校でもメディア・リテラシーの形成に積極的に取り組んでほしいという気持ちがあります。

今日はありがとうございました。

アンケートのお願い

このアンケートは高校生とメディアとの関係（特にPHS・携帯電話、音楽、言葉、マスメディアとの関係）を調べるためにつくったものです。

あなたの大切な時間をいただいて申しわけありませんが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。
（お名前はいりませんので、ありのままをお答えください）

高校教育研究会

東京成徳短期大学教授 深谷昌志

上智大学教授 武内清

明治学院大学教授 望月重信

《回答のしかた》特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけをつけてください。

① まず、あなたの学校、学年、性別についておたずねします。

1) 学校名..... () 高等学校

2) 学 年..... () 年生

3) 性 別..... (1 . 男子 2 . 女子)

. まず、PHSや携帯電話の利用についておたずねします。

② あなたは日頃、PHSや携帯電話を使用していますか。あてはまるものに1つだけをつけてください。

1 . 現在、PHSのみを使用している

2 . 現在、携帯電話のみを使用している

3 . 現在、PHSと携帯電話の両方を使用している（PHSと携帯電話の兼用機を含む）

4 . 以前はPHSや携帯電話を使用していたが、現在はどちらも使用していない

5 . 使用したことはないが、今後どちらか（または両方）を使用したいと思う

6 . 使用したこともないし、今後もどちらも使用したいと思わない

資料1 調査票見本

【以下のSQ1～SQ12は、PHS・携帯電話のいずれかまたは両方を現在使用中の方のみお答えください。いずれも使用していない方は、③へお進みください。】

SQ1．PHSや携帯電話を自分で所有して使用するようになってからどのくらいですか。

約()年()か月

SQ2．現在使用しているPHSや携帯電話の費用は、全部で1か月平均いくらくらいですか。

1か月平均(00)円くらい

SQ3．あなたのPHSや携帯電話のメモリには、何人くらいの友だちの電話番号が登録してありますか。

()人くらい

SQ4．PHSや携帯電話で友だちと話す時間は、1回の通話につき平均何分くらいですか。

- 1．自分から友だちにかけてときの通話時間：1回平均()分くらい
- 2．友だちがかけてきたときの通話時間：1回平均()分くらい

SQ5．PHSや携帯電話で友だちと話す回数は、1週間に平均何回くらいですか。

- 1．自分から友だちにかける通話回数：1週間平均()回くらい
- 2．友だちがかけてくる通話回数：1週間平均()回くらい

SQ6．PHSや携帯電話で友だちとどのような話をする事が多いですか。□の中から3つ選び、最も多いものから順にそれぞれ()内に番号を記入してください。

1番目に多い内容() 2番目に多い内容() 3番目に多い内容()

- | | | |
|---------------|---------|----------------|
| 1．待ち合わせの連絡 | 2．遊びの誘い | 3．特に用件のないおしゃべり |
| 4．緊急の用件 | 5．悩みごと | 6．相手や自分の居場所の確認 |
| 7．近況報告や様子うかがい | | |
| 8．その他(具体的に) | | |

SQ7．PHSや携帯電話で友だち以外の相手と話すことはどの程度ありますか。

ほとんど 友だちと	友だちの方が 多い	半々くらい	友だち以外の 人の方が多い	ほとんど友だち 以外の人と
1	2	3	4	5

資料1 調査票見本

S Q 8 . あなたは P H S や携帯電話の使用に関して、次のようなことをしたり、感じたりすることがありますか。

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
1 . 発信者番号の表示されない電話に出ない.....	1	2	3	4
2 . 発信者番号が表示されても、相手によって電話に出ない.....	1	2	3	4
3 . 電波状態の悪さを理由にして、通話中にわざと電話を切る.....	1	2	3	4
4 . 初めて会った人にも気軽に P H S や携帯電話の番号を教える.....	1	2	3	4
5 . P H S や携帯電話を常に持っていないと不安になる.....	1	2	3	4
6 . いつでも、どこにいても電話がかかってきそうに感じているように感じる.....	1	2	3	4
7 . いつでも、どこにいても自分から連絡できるので便利だと感じる.....	1	2	3	4
8 . いつでも、どこにいても連絡をしてもらえるので便利だと感じる.....	1	2	3	4

S Q 9 . P H S や携帯電話を使用するようになったことで、あなたの行動や生活に変化はありましたか。

	とてもそう	どちらかといえばそう	どちらかといえばそうではない	まったくそうではない
1 . P H S や携帯電話を持っている人と連絡をとりあうことが増えた.....	1	2	3	4
2 . P H S や携帯電話を持っていない人と連絡をとりあうことが減った.....	1	2	3	4
3 . ちょっとした用件で連絡をとりあうことが増えた.....	1	2	3	4
4 . 学校外の友だちが増えた.....	1	2	3	4
5 . 予定外の外出が増えた.....	1	2	3	4
6 . 友だちと直接会って話をすることが少なくなった.....	1	2	3	4
7 . 家に連絡を入れたり、家族とコミュニケーションをとることが増えた.....	1	2	3	4
8 . 自分的人际关系について家族が知らないことが増えた.....	1	2	3	4
9 . P H S や携帯電話の料金の支払いのために自由に使えるお金が減った.....	1	2	3	4

S Q 10 . あなたは、次のようなときに P H S や携帯電話の電源を切ったり、マナーモードにしたりしますか。

	いつもする	ときどきする	あまりしない	まったくしない	混んだ電車やバスに乗ることがない
1 . 混んだ電車やバスの中にいるとき.....	1	2	3	4	(5)

資料1 調査票見本

2. コンサートやライブの最中..... 1 2 3 4 (5)
- コンサートやライブに
行くことがない
3. 学校の授業中..... 1 2 3 4 (5)
- 学校に PHS や携帯電話
を持っていかない

SQ11. PHS や携帯電話でサイト接続サービスやインターネット接続サービスを利用することはありますか。利用することがある場合、どのようなサービスをよく利用しますか。よく利用するものすべてに をつけてください。

- 1. 利用しない
- 2. 利用する
 - 1. 着メロや待受画像のダウンロード
 - 2. ホームページの閲覧
 - 3. 掲示板
 - 4. チャット
 - 5. ニュースや情報などの検索・閲覧
 - 6. チケットの購入
 - 7. その他 (具体的に)

SQ12. PHS や携帯電話でメールを使用していますか (メールは、Eメールとショートメッセージの両方を含みます)。

- 1. 使用していない ③へお進みください。
- 2. 使用している

【以下のSQ12-1～SQ12-3は、PHS や携帯電話でメールを使用している方のみお答えください。】

SQ12-1. 1週間に何通くらいのメールを友だちとやりとりしていますか。

- 1. 自分から友だちに送るメール : 1週間平均 () 通くらい
- 2. 友だちから送られてくるメール : 1週間平均 () 通くらい

SQ12-2. PHS や携帯電話で友だちにどのような内容のメールを送ることが多いですか。□の中
から3つ選び、最も多いものから順にそれぞれ () 内に番号を記入してください。

1番目に多い内容 () 2番目に多い内容 () 3番目に多い内容 ()

- 1. 待ち合わせの連絡
- 2. 遊びの誘い
- 3. 特に用件のないおしゃべり
- 4. 緊急の用件
- 5. 悩みごと
- 6. 相手や自分の居場所の確認
- 7. 近況報告や様子うかがい
- 8. その他 (具体的に)

SQ12-3. PHSや携帯電話によるメールの使用に関して、次のようなことをすることがありますか。
あてはまるものすべてに をつけてください。

1. ふだんあまり話さない学校の友だちとメールのやりとりをする
2. 直接会ったことのない学校外の人とメールのやりとりをする
3. 出会いのサイトなどで友だちやメル友を募集する

. 音楽についておたずねします。

③ あなたは今まで、小・中学校での音楽の授業以外に、次にあげるようなかたちで音楽を習ったり、したことがありますか。

	現在 している	かつてしていた ことがある	したことが ない
1. 高校の芸術の授業で音楽を選択する.....	1	2	3
2. 学校で音楽系のクラブ活動や部活動に参加する.....	1	2	3
3. 地域の音楽活動（ジュニアオーケストラなど）に参加する... 1	1	2	3
4. 友だちとバンドを組む.....	1	2	3
5. ピアノを習う.....	1	2	3
6. オルガンや電子オルガンを習う.....	1	2	3
7. 管楽器（トランペットやフルートなど）を習う.....	1	2	3
8. 弦楽器（バイオリンやチェロなど）を習う.....	1	2	3
9. その他の楽器を習う.....	1	2	3
10. 習ったことはないが、自分でギターを弾いたりピアノを弾いたりする.....	1	2	3

④ あなたの音楽へのかかわり方についておたずねします。あなたはふだん、次のようなことをどれくらいしますか。

	毎日の ようにする	よく する	ときどき する	あまり しない	ほとんど しない	まったく しない
1. コンサートやライブに行く.....	1	2	3	4	5	6
2. カラオケに行く.....	1	2	3	4	5	6
3. 曲をつくる.....	1	2	3	4	5	6
4. 外出するときにポータブルCD プレーヤーなどで音楽を聴く.....	1	2	3	4	5	6
5. 家でCDなどを聴く.....	1	2	3	4	5	6
6. 家でテレビやラジオの音楽番組を聴く... 1	1	2	3	4	5	6

資料1 調査票見本

	毎日の ようにする	よく する	ときどき する	あまり しない	ほとんど しない	まったく しない
7. 勉強をしているときなどに“ながら聴き”をする.....	1	2	3	4	5	6
8. おけいごとなどとは関係なく楽器を演奏する.....	1	2	3	4	5	6
9. お店でCDを買う.....	1	2	3	4	5	6
10. レンタルCDを借りる.....	1	2	3	4	5	6
11. 好きな歌をダウンロードする.....	1	2	3	4	5	6

⑤ 次のようなときに、あなたは音楽を聴きたくなくなりますか。それとも聴きたくないですか。

	音楽を 聴きたくない	どちらでも ない	音楽を 聴きたくない
1. 勉強をしているとき.....	1	2	3
2. 集中してなにかをしているとき.....	1	2	3
3. ひまなとき.....	1	2	3
4. みんなで盛り上がっているとき.....	1	2	3
5. 気分がいいとき.....	1	2	3
6. なにもやりたくないとき.....	1	2	3
7. イライラしているとき.....	1	2	3
8. 悩みごとや考えごとをしているとき.....	1	2	3
9. 気分の落ち込んでいるとき.....	1	2	3
10. 疲れて休みたいとき.....	1	2	3

⑥ 次のようなとき、あなたは音楽が嫌いになることがありますか。

	とても 嫌いになる	やや 嫌いになる	あまり嫌い にならない	まったく嫌い にならない
1. うまく歌ったり演奏したりできなかったとき.....	1	2	3	4
2. 街中などで雑音のように音楽が聞こえてきたとき...	1	2	3	4
3. 自分の嫌いなアーティストの歌や嫌いな曲を耳にしたとき.....	1	2	3	4
4. 歌詞の意味やメロディのノリがよくわからない曲を耳にしたとき.....	1	2	3	4
5. 学校で音楽の勉強をしているとき.....	1	2	3	4
6. 学校の音楽の授業で評価されるとき.....	1	2	3	4

⑦ もし音楽がまったくなくなってしまうたら、あなたはどんなふうになると思いますか。

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1. 集中力がなくなる.....	1	2	3	4
2. やる気がなくなる.....	1	2	3	4
3. イライラしたり怒ったりしやすくなる.....	1	2	3	4
4. 時間をもてあますようになる.....	1	2	3	4
5. 悩んだり考えこんだりするようになる.....	1	2	3	4
6. ストレスがたまるようになる.....	1	2	3	4
7. 感性のない人間になる.....	1	2	3	4
8. あまり変わらない.....	1	2	3	4

⑧ あなたは、以下にあげるような音楽に対してどんなイメージをもっていますか。「親しみやすい - 近づきたい」「わかりやすい - よくわからない」「気分が落ち着く - 気分が盛り上がる」「心地よい - 心地悪い」の4つの組み合わせのそれぞれについて、あなたのイメージに近い方をつけてください。

	1. モーニング娘。やV6や嵐 などのアイドルの歌	2. ゆずや19などの癒し系バンド の歌	3. ドラゴンアッシュなどのヒップ ポップ系の歌	4. 小柳ゆきやAKKOなどの女性ボー カリストの歌	5. 福山雅治や山崎まさよしなど の男性ボーカリストの歌	6. さだまさしや中島みゆきなど の80年代から活躍している アーティストの歌	7. ジャズ	8. 洋楽	9. ベートーベンやモーツァルト などのクラシック音楽	10. 《故郷》や《荒城の月》などの 日本の古い歌
1. 親しみやすい	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.
2. 近づきたい	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.
1. わかりやすい	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.
2. よくわからない	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.
1. 気分が落ち着く	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.
2. 気分が盛り上がる	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.
1. 心地よい	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	1.
2. 心地悪い	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.	2.

資料1 調査票見本

9 音楽について、あなたには次のことがどのくらいあてはまりますか。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1. 聴く歌はアーティストより曲で選ぶ方だ.....	1	2	3	4
2. 歌はメロディより歌詞の方が大切だと思う.....	1	2	3	4
3. 試聴やジャケットだけでCDを買うことがある.....	1	2	3	4
4. クラシック音楽は学校の勉強っぽい感じがする.....	1	2	3	4
5. 音楽で人生が大きく変わったことがある.....	1	2	3	4
6. 自分の生活の中で音楽は必要だ.....	1	2	3	4

. 次は言葉についておたずねします。

10 あなたは次のような言葉を、どのような相手に使いますか。あてはまるものすべてに つけてください。

	友だちに	先輩に	親に	先生に	バイトの客に	初対面のおとなに	ぜんぜん使わない
1. 「 <u> </u> 入っている」「へこむ」などの若者言葉.....	1	2	3	4	5	6	7
2. 「見れる」「食べれる」などのら抜き言葉.....	1	2	3	4	5	6	7
3. (イントネーションが上がる)「すごい？」などの半疑問の言葉.....	1	2	3	4	5	6	7
4. 「～～とか」「～～のほう」などのぼかし言葉.....	1	2	3	4	5	6	7
5. 「ムカつく」「キれる」などの人を攻撃する言葉.....	1	2	3	4	5	6	7
6. 「お待ちする」「～～いたします」などの敬語.....	1	2	3	4	5	6	7

11 あなたがふだんしていることや考えていることに、一番あてはまるものに つけてください。

	とてもそう	ややそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1. 人と話すのが好き.....	1	2	3	4
2. ものを書くのが好き.....	1	2	3	4
3. ものを書くときにはワープロ、パソコンを使うことが多い.....	1	2	3	4
4. 日記をつけている.....	1	2	3	4
5. 今年の正月は年賀状をたくさん書いた.....	1	2	3	4..... (5)
6. マンガを描くのが好き.....	1	2	3	4
7. 本や雑誌(マンガを除く)を読むのが好き.....	1	2	3	4
8. マンガを読むのが好き.....	1	2	3	4
9. 日本語はすてきな言葉だと思う.....	1	2	3	4

資料1 調査票見本

2) 次の1～4について、AかBの好きな方の歌や文に をつけてください。

- 1 {
 - A . やは肌のあつき血潮にふれも見でさびしからずや道を説く君
 - B . 生き物をかなしと書いてこのわれに寄りかかるなよ 君は男だ

- 2 {
 - A . 昼食に誘いしだけであるものを友達つれて女現わる
 - B . 終バスにふたりは眠る紫の<降りますランプ>に取り囲まれて

- 3 {
 - A . せまい日本そんなに急いでどこへ行く
 - B . せまい日本そんなに急いでどこへ行くのだ

- 4 {
 - A . 麦わら帽子のへこみ思い出の一つのようでそのままにしておく
 - B . 思い出の一つのようでそのままにしておく麦わら帽子のへこみ

. ここからは、テレビ番組やニュースのことについておたずねします。

15) あなたは平日、1日にテレビを何分くらい見ていますか。

見ない (0分)	0～ 30分	30～ 60分	60～ 90分	90～ 120分	120～ 150分	150～ 180分	180～ 210分	210～ 240分	240分 以上
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

16) あなたは平日、テレビをどの時間帯によく見えていますか(最もよく見る時間帯1つに をつけてください)。

見ない	午後5～ 7時	7～ 9時	9～ 11時	11～ 0時	0時 以降	早朝	まんべんなく 見る
1	2	3	4	5	6	7	8

17) あなたは、次のようなテレビ番組をどのくらい見えていますか。

	よく 見る	まあ 見る	少しは 見る	ほとんど 見ない
1. お天気を含むニュース番組.....	1	2	3	4
2. ドキュメンタリー.....	1	2	3	4
3. 映画・ドラマ・アニメ番組.....	1	2	3	4
4. クイズ・バラエティー番組.....	1	2	3	4
5. 音楽番組.....	1	2	3	4
6. スポーツ中継やスポーツニュース.....	1	2	3	4
7. 教養・生活・情報番組や番組途中のコマーシャル...	1	2	3	4

18 あなたは、次のようなニュースをどのくらい見えていますか。

	かなり 見る	見る方	どちらとも いえない	見ない方	まったく 見ない
1. 自分が住む県内・都内のお天気を含むニュース...	1	2	3	4	5
2. 自分が住む県内・都内以外の日本国内のお天気 を含むニュース.....	1	2	3	4	5
3. 世界各国のお天気を含むニュース.....	1	2	3	4	5
4. 国内で人気のあるスポーツ中継やスポーツ ニュース.....	1	2	3	4	5
5. 世界各国のスポーツ中継やスポーツニュース.....	1	2	3	4	5

19 ニュース番組について、AとBの意見を用意しました。どちらの意見が、あなたの考えにあてはまりますか。

A		A	B	B	
1. 番組で流れるニュースはフィクションだ...	1	2...番組で流れるニュースは真実だ	2	2...番組で流れるニュースは真実だ	
2. 内容はどの番組を見ても同じだ.....	1	2...内容はそれぞれ番組によって違う	2	2...内容はそれぞれ番組によって違う	
3. 放送時間は長い.....	1	2...放送時間は短い	2	2...放送時間は短い	
4. 番組を見ていてよくわかる.....	1	2...番組を見ていてわからない	2	2...番組を見ていてわからない	
5. 番組はつまらない.....	1	2...番組はおもしろい	2	2...番組はおもしろい	
6. ニュースの中身は暗い話題が多い.....	1	2...ニュースの中身は明るい話題が多い	2	2...ニュースの中身は明るい話題が多い	
7. 番組を見て自分の意見を言いたくなる.....	1	2...番組を見て自分の意見を言いたくなる ことはない	2	2...番組を見て自分の意見を言いたくなる ことはない	
8. 番組の情報量は多い.....	1	2...番組の情報量は少ない	2	2...番組の情報量は少ない	
9. 番組を見るとためになる.....	1	2...番組を見るとためにならない	2	2...番組を見るとためにならない	
10. 番組の情報は信用できる.....	1	2...番組の情報は信用できない	2	2...番組の情報は信用できない	
11. 番組は集中して見ている.....	1	2...番組は何かしながら見ている	2	2...番組は何かしながら見ている	

20 テレビ番組に関することについて、あなたはどのように思いますか。

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1. 現在、青少年の凶悪な犯罪や事件を大げさに 扱った番組が多すぎる.....	1	2	3	4
2. 事件や事故の番組を見ると、被害にあった人が 心配になる.....	1	2	3	4
3. 暴力的な映像はどのような番組であれ、放送 しない方がよい.....	1	2	3	4

資料1 調査票見本

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
4. 海外の事故や災害の報道を見ると、日本人が 巻き込まれていないか気になる.....	1	2	3	4
5. 世界の話題といっても、アメリカやヨーロッパ の話題が大半である.....	1	2	3	4
6. オリンピックなどを見ると、日本選手の結果が 気になる.....	1	2	3	4
7. スポーツ中継を見れば、わざわざ試合を観に 行かなくてもよい.....	1	2	3	4
8. スポーツ中継の迫力は、実況するアナウンサー によって決まる.....	1	2	3	4

㉑ ニュースキャスターについて、あなたはどの程度関心がありますか。

	とても 関心がある	やや 関心がある	あまり 関心がない	まったく 関心がない
1. キャスターのコメント.....	1	2	3	4
2. キャスターの話し方や言葉づかい.....	1	2	3	4
3. キャスターの見た目やファッション.....	1	2	3	4
4. キャスターの人気や知名度.....	1	2	3	4
5. 自分もキャスターになれるかどうか.....	1	2	3	4

㉒ 次のような人たちから「テレビのニュースを見るように」と言われていますか。

	よく 言われる	ときどき 言われる	あまり 言われない	まったく 言われない
1. お父さん.....	1	2	3	4
2. お母さん.....	1	2	3	4
3. 担任の先生.....	1	2	3	4
4. 社会科の先生.....	1	2	3	4
5. 学校の友だち.....	1	2	3	4

㉓ あなたの家では衛星放送（BS）・有料放送（CS）・ケーブルテレビ（CATV）などに加入していますか。

1. している 2. していない

最後に、友だちやあなた自身についておたずねします。

㉔ あなたが「友だち」だと思う人は何人いますか。

()人

㉔ あなたの友だちとのつきあい方は、どのようなものですか。

	とても そう	どちらかと いえばそう	どちらかといえば そうではない	まったく そうではない
1. 友だちの数は多い方がよい	1	2	3	4
2. 友だち関係はあっさりしていて、 お互いに深入りはしない方だ	1	2	3	4
3. 友だちというよりも1人でいる 時間の方が大切だ	1	2	3	4
4. 悩みごとはあまり友だちに話さない方だ	1	2	3	4
5. 友だち同士はお互いに知り合いではない	1	2	3	4
6. フルネームで本名がわからない友だちが 結構いる	1	2	3	4
7. どこに何をしに行くかによって、 一緒に行く友だちを選ぶ	1	2	3	4

㉕ 日頃の生活の中で、次にあげるようなことがどの程度ありますか。

	よく ある	ときどき ある	あまり ない	まったく ない
1. 友だちとCDなどの貸し借りをする	1	2	3	4
2. 友だちとJ - P o pや洋楽の話をする	1	2	3	4
3. 友だちとテレビのニュース番組の話をする	1	2	3	4
4. 友だちとテレビのクイズ番組やバラエティー 番組の話をする	1	2	3	4
5. 友だちとテレビで見た海外の情報について 話をする	1	2	3	4
6. 友だちと話をしていて、夢中になる	1	2	3	4
7. 友だちと一緒にいても、自分のやりたいこと を優先する	1	2	3	4
8. 嫌いな人だと思っても、とりあえず友だちに なる	1	2	3	4
9. 友だちなど親しい人が自分をどう思っている のか気になる	1	2	3	4
10. 親しくない人でも自分をどう思っているのか 気になる	1	2	3	4

資料1 調査票見本

27 あなたの家には、あなた以外の本棚に（雑誌やマンガ以外）本がどのくらいありますか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 本棚0～3段くらい（60冊未満） | 4. 本箱3本くらい（300冊くらい） |
| 2. 本箱1本くらい（100冊くらい） | 5. 本箱4本以上（400冊以上） |
| 3. 本箱2本くらい（200冊くらい） | |

28 あなたのご両親が最後に卒業した学校は、次のどれにあてはまりますか。

- | | 中学・
高校卒業 | 専門・専修
学校卒業 | 短大・
高専卒業 | 大学・
大学院卒業 | その他 | わからない |
|--------------|-------------|---------------|-------------|--------------|--------|-------|
| 1. お父さん..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5..... | (6) |
| 2. お母さん..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5..... | (6) |

29 あなたは、学校で部活動をしていますか。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 運動部に入っている | 5. その他の文化部に入っている |
| 2. 文芸系の部に入っている | 6. 以前入っていたが、今は入っていない |
| 3. マンガ系の部に入っている | 7. 入ったことがない |
| 4. 放送、ディベート系の部に入っている | 8. その他() |

30 あなたは現在、アルバイトをしていますか。

1. している 2. 以前したことがあるが、今はしていない 3. したことがない

31 あなたが自由に使えるお金は（お小遣いなど）1か月で平均するとどのくらいですか。

- 1か月平均(00)円くらい

32 あなたの成績は、クラスの中のどのあたりですか。

- | | 上 | 中の上 | 中 | 中の下 | 下 | 選択していない |
|----------------|---|-----|---|-----|--------|---------|
| 1. 音楽..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5..... | (6) |
| 2. 現代国語..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5..... | (6) |
| 3. 古典..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5..... | (6) |
| 4. 全教科の平均..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |

33 あなたは10年後、どこで暮らしたいと思いますか。

1. 現在、自分が住む県内・都内
2. 現在、自分が住んでいない大都市部
3. 現在、自分が住んでいない大都市部でないところ
4. 日本以外の国
5. どこでもかまわない

～以上で終わりです。長い間ご協力いただきありがとうございました。～

資料2 基礎集計表

- ・『全体』の数値は、全調査対象者1,357人を母数として算出したもので、無回答のパーセンテージは、紙幅の関係上、表からはずした。
- ・『性別』『学年別』『地域別』の数値は、無回答者をはずして算出した。
- ・②-SQ1～SQ12では、②で「1」「2」「3」を選択した者、すなわちPHSや携帯電話を利用している者(1,036名)における割合を示している。また、SQ12-1～SQ12-3は②-SQ12で「2」を選択した者、すなわちPHSや携帯電話でメールを利用している者(982名)における割合を示している。

(単位：サンプル数以外はパーセント)

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
サンプル数		1,357	678	679	692	665	673	684		
②	P H S や 携 帯 電 話 の 利 用	電話の利用	1. 現在、PHSのみを使用している	22.5	18.9	26.2	23.4	21.7	12.0	33.0
		2. 現在、携帯電話のみを使用している	52.7	49.9	56.0	51.6	54.3	67.3	38.9	
		3. 現在、PHSと携帯電話の両方を使用している	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	0.6	1.8	
		4. 以前はPHSや携帯電話を使用していたが、現在はどちらも使用していない	1.9	2.4	1.5	1.5	2.4	1.2	2.6	
		5. 使用したことはないが、今後どちらかまたは両方を使用したいと思う	14.4	18.3	10.7	16.1	12.8	10.9	18.0	
		6. 使用したこともないし、今後どちらも使用したいと思わない	6.9	9.3	4.4	6.3	7.5	8.1	5.7	
	S Q 1	利用期間	1. 半年未満	11.9	14.8	9.7	13.1	10.9	9.2	14.9
		2. 半年以上1年未満	29.9	29.4	30.9	45.5	14.5	29.2	31.3	
		3. 1年以上1年半未満	25.7	27.9	24.3	31.1	20.6	22.6	29.5	
		4. 1年半以上2年未満	14.0	12.9	15.2	3.5	25.2	16.4	11.7	
		5. 2年以上	17.5	15.0	19.9	6.9	28.8	22.5	12.5	
	S Q 2	費用	1. 5000円未満	31.1	30.6	33.2	32.3	31.7	32.6	31.3
		2. 5000円以上7500円未満	39.2	39.9	40.7	40.0	40.7	36.7	44.2	
		3. 7500円以上10000円未満	9.8	8.9	11.2	10.0	10.2	11.6	8.6	
		4. 10000円以上15000円未満	12.5	15.2	10.8	13.4	12.2	13.1	12.5	
		5. 15000円以上	4.6	5.4	4.2	4.3	5.2	6.0	3.5	
	S Q 3	登録してあるたち	1. 50人未満	20.5	21.7	20.1	17.3	24.6	20.0	21.8
		2. 50人以上100人未満	34.9	36.6	34.8	36.3	34.9	35.0	36.3	
		3. 100人以上150人未満	28.9	28.8	29.9	30.5	28.3	30.6	28.2	
		4. 150人以上	13.8	12.9	15.1	15.9	12.2	14.4	13.7	
	S Q 4	け友 だ た ち に か 通 話 時 間	1. 2分未満	21.4	27.4	17.7	21.4	23.0	23.6	20.7
			2. 2分以上5分未満	25.1	28.3	24.0	27.5	24.4	28.7	23.1
			3. 5分以上10分未満	18.4	18.4	19.7	19.0	19.2	20.5	17.6
			4. 10分以上30分未満	18.8	16.4	22.2	18.6	20.4	18.2	20.9
			5. 30分以上	12.7	9.5	16.4	13.5	12.9	8.9	17.8
		て友 だ た ち か ら か か つ て き た と き	1. 2分未満	12.4	17.5	8.7	10.8	14.8	12.6	13.0
			2. 2分以上5分未満	19.6	23.1	17.8	20.9	19.6	22.3	18.1
			3. 5分以上10分未満	17.2	21.4	14.7	18.1	17.4	19.0	16.5
4. 10分以上30分未満			24.5	20.5	29.5	26.4	24.3	29.1	21.4	
5. 30分以上			23.1	17.5	29.3	23.8	23.9	17.1	31.1	
S Q 5	け友 だ た ち に か 通 話 回 数	1. 2回未満	30.8	26.3	39.9	33.2	33.9	37.1	29.7	
		2. 2回以上5回未満	36.4	39.6	39.7	39.0	40.3	36.9	42.6	
		3. 5回以上10回未満	13.3	17.3	12.1	16.0	13.0	14.3	14.7	
		4. 10回以上	11.3	16.9	8.3	11.8	12.8	11.7	13.0	
	て友 だ た ち か ら か か つ て く る 回 数	1. 2回未満	23.3	20.2	28.8	23.0	26.7	27.0	22.4	
		2. 2回以上5回未満	37.5	36.6	43.0	40.9	39.2	36.7	43.6	
		3. 5回以上10回未満	16.4	20.6	14.8	19.5	15.4	17.5	17.5	
		4. 10回以上	16.6	22.6	13.4	16.7	18.8	18.8	16.5	
S Q 6	友 だ ち と 話 す 内 容	1. 待ち合わせの連絡	20.8	20.4	21.6	19.4	22.8	25.9	15.9	
		2. 遊びの誘い	20.4	29.6	13.0	21.0	20.2	20.2	21.0	
		3. 特に用件のないおしゃべり	18.4	19.4	18.0	19.4	17.8	15.1	22.4	
		4. 緊急の用件	12.5	9.1	15.5	13.8	11.3	13.2	11.9	
		5. 悩みごと	5.4	4.0	6.7	5.8	5.1	3.8	7.3	
		6. 相手や自分の居場所の確認	14.4	11.1	17.5	12.7	16.4	15.1	13.9	
		7. 近況報告や様子うかがい	5.3	4.0	6.5	6.3	4.4	4.5	6.3	
		8. その他	1.7	2.3	1.3	1.5	2.0	2.1	1.4	

資料 2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
PHSや携帯電話の利用	SQ6	友だちと話す内容 2番目に多い内容	1. 待ち合わせの連絡	21.9	21.5	23.1	20.0	24.8	25.1	19.5
			2. 遊びの誘い	21.3	24.7	19.3	21.6	22.0	21.5	22.1
			3. 特に用件のないおしゃべり	10.9	11.4	10.9	11.3	11.0	8.0	14.5
			4. 緊急の用件	11.3	10.8	12.2	11.1	12.0	13.3	9.6
			5. 悩みごと	7.3	5.6	9.1	8.8	6.2	7.2	7.8
			6. 相手や自分の居場所の確認	17.2	18.5	16.8	20.2	14.8	18.6	16.4
			7. 近況報告や様子うかがい	7.5	7.1	8.2	6.6	8.8	5.5	10.0
			8. その他	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.8	0.0
		3番目に多い内容	1. 待ち合わせの連絡	17.2	19.6	16.6	17.3	18.7	18.0	18.0
			2. 遊びの誘い	18.2	18.1	20.0	20.3	17.9	20.3	17.8
			3. 特に用件のないおしゃべり	14.8	15.3	15.6	17.7	13.1	15.4	15.5
			4. 緊急の用件	11.8	11.5	13.0	12.7	11.9	12.5	12.1
			5. 悩みごと	8.5	8.1	9.6	7.4	10.5	7.4	10.5
			6. 相手や自分の居場所の確認	15.8	19.8	13.7	15.7	17.5	16.2	16.9
			7. 近況報告や様子うかがい	8.6	7.0	10.7	8.3	9.7	8.8	9.2
			8. その他	0.7	0.7	0.8	0.6	0.8	1.4	0.0
	SQ7	通話する相手	1. ほとんど友だちと	41.9	48.8	36.9	40.9	43.8	42.6	42.1
			2. 友だちの方が多い	26.3	28.3	25.1	28.4	24.6	26.5	26.6
			3. 半々くらい	19.4	16.5	22.2	19.4	19.8	20.3	18.9
			4. 友だち以外の方が多い	8.1	4.7	11.1	8.8	7.5	7.4	9.1
5. ほとんど友だち以外の人と			3.3	1.7	4.7	2.5	4.2	3.2	3.4	
SQ8	次のようなことをしたり、感じたりするか	発信番号の表示されない電話に出ない	1. よくある	23.5	23.2	23.9	21.8	25.4	25.1	22.0
			2. ときどきある	24.0	19.6	28.0	21.6	26.8	22.8	25.6
			3. あまりない	27.6	27.9	27.7	29.9	25.6	27.7	27.8
			4. まったくない	24.3	29.4	20.4	26.6	22.2	24.3	24.6
		番号表示されない相手によっても出ない	1. よくある	6.8	5.3	8.0	5.7	7.9	7.0	6.6
			2. ときどきある	23.5	18.9	27.5	22.6	24.6	23.5	23.6
			3. あまりない	28.2	26.8	29.6	27.7	28.9	28.4	28.2
			4. まったくない	41.1	48.9	34.9	44.0	38.6	41.1	41.6
		電波状態の悪さを理由に電話を切る	1. よくある	3.7	2.6	4.6	2.5	5.0	4.0	3.4
			2. ときどきある	10.0	9.2	10.9	11.3	8.9	8.3	12.1
			3. あまりない	22.6	22.0	23.4	21.0	24.6	23.2	22.3
			4. まったくない	62.9	66.2	61.1	65.2	61.6	64.6	62.2
		初めて使った人にもPHSや携帯電話を教える	1. よくある	11.5	11.9	11.3	15.4	7.7	8.1	15.3
			2. ときどきある	27.5	27.9	27.5	29.8	25.6	29.0	26.4
			3. あまりない	39.4	40.1	39.4	36.9	42.6	40.9	38.4
			4. まったくない	20.8	20.0	21.8	18.0	24.1	22.0	19.9
	PHSや携帯電話を持っていないと不安	1. よくある	25.0	17.3	31.7	23.0	27.4	24.1	26.3	
		2. ときどきある	25.4	24.8	26.2	28.6	22.4	25.4	25.7	
		3. あまりない	32.8	38.9	28.2	33.6	32.5	33.1	32.9	
		4. まったくない	16.1	19.0	13.9	14.8	17.7	17.3	15.1	
しばらくは利用できるように感じるか	1. よくある	2.9	3.2	2.7	2.9	3.0	2.8	3.0		
	2. ときどきある	9.6	9.4	9.8	7.6	11.7	9.8	9.4		
	3. あまりない	32.8	33.6	32.6	33.1	33.0	33.7	32.3		
	4. まったくない	54.1	53.8	54.9	56.4	52.4	53.7	55.2		
自分で絡めることができる	1. よくある	66.0	62.8	69.4	65.5	67.3	60.6	72.6		
	2. ときどきある	28.0	28.9	27.5	28.4	28.0	33.4	22.6		
	3. あまりない	4.1	6.2	2.3	5.4	2.8	4.5	3.6		
	4. まったくない	1.4	2.1	0.7	0.8	2.0	1.5	1.2		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別				
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田			
PHSや携帯電話の利用	SQ8 次のようなことを感じたりするかどうか	でも連絡がとれない	1. よくある	60.9	55.8	65.6	62.0	60.2	56.0	66.6	
		連絡がとれない	2. ときどきある	30.5	34.2	27.6	30.9	30.3	34.8	26.2	
		ほとんどない	3. あまりない	6.5	7.6	5.5	5.9	7.1	7.0	6.0	
		まったくない	4. まったくない	1.7	2.3	1.2	1.1	2.4	2.3	1.2	
	SQ9 行動や生活の変化	連絡が増えた	PHSや携帯電話を持っていない人と	1. とてもそう	54.4	51.8	57.3	57.6	52.0	54.7	54.9
			2. どちらかといえばそう	38.6	39.9	38.0	37.1	40.7	38.9	38.9	
			3. どちらかといえばそうではない	4.5	5.3	3.9	4.0	5.1	4.3	4.8	
			4. まったくそうではない	1.7	3.0	0.7	1.3	2.2	2.1	1.4	
		連絡が減った	PHSや携帯電話を持っていない人と	1. とてもそう	6.7	6.8	6.6	7.1	6.3	6.6	6.8
			2. どちらかといえばそう	30.8	26.1	35.3	33.0	29.2	32.9	29.2	
			3. どちらかといえばそうではない	35.4	37.6	34.2	35.1	36.5	35.0	36.6	
			4. まったくそうではない	26.2	29.5	23.8	24.9	28.0	25.5	27.4	
		ちよつとした用件で連絡をとらなくなった	1. とてもそう	35.9	29.4	41.9	36.3	36.2	36.2	36.2	
			2. どちらかといえばそう	44.7	49.7	41.2	46.0	44.1	45.3	44.9	
			3. どちらかといえばそうではない	14.2	14.5	14.2	13.5	15.1	13.8	14.9	
			4. まったくそうではない	4.3	6.4	2.7	4.2	4.6	4.7	4.0	
	学校外の友だちが増えた	1. とてもそう	20.8	19.0	22.7	23.9	18.0	18.3	23.9		
		2. どちらかといえばそう	31.3	29.9	32.9	30.8	32.3	31.6	31.4		
		3. どちらかといえばそうではない	31.5	34.1	29.7	31.7	31.7	33.1	30.2		
		4. まったくそうではない	15.6	17.1	14.7	13.6	18.0	16.9	14.5		
予定外の出がけが増えた	1. とてもそう	9.5	11.7	7.7	10.1	8.9	11.2	7.8			
	2. どちらかといえばそう	25.9	29.4	23.3	27.7	24.4	31.8	20.1			
	3. どちらかといえばそうではない	41.6	38.0	45.3	40.5	43.5	38.0	46.2			
	4. まったくそうではない	22.2	20.9	23.7	21.6	23.2	19.1	25.9			
直接会って話をする機会が少なくなった	1. とてもそう	2.0	2.3	1.8	2.3	1.8	2.3	1.8			
	2. どちらかといえばそう	13.0	13.2	13.1	13.9	12.3	13.2	13.1			
	3. どちらかといえばそうではない	40.0	40.0	40.5	41.0	39.5	39.1	41.6			
	4. まったくそうではない	44.2	44.5	44.6	42.7	46.4	45.5	43.6			
家族とのコミュニケーションが増えた	1. とてもそう	14.4	10.0	18.3	15.1	13.9	14.3	14.7			
	2. どちらかといえばそう	38.9	36.3	41.7	36.8	41.7	38.0	40.5			
	3. どちらかといえばそうではない	33.8	40.3	28.8	36.3	31.8	34.5	33.7			
	4. まったくそうではない	12.1	13.4	11.2	11.8	12.5	13.2	11.1			
人間関係について家族が知らないことが増えた	1. とてもそう	15.6	16.6	15.1	17.8	13.7	16.6	14.9			
	2. どちらかといえばそう	34.3	36.6	32.9	35.8	33.3	36.3	32.7			
	3. どちらかといえばそうではない	33.8	31.7	36.1	33.0	35.2	32.4	35.9			
	4. まったくそうではない	15.4	15.1	16.0	13.4	17.8	14.7	16.5			
料金支払いのため使えるお金が減った	1. とてもそう	18.7	21.3	16.8	19.5	18.2	21.1	16.4			
	2. どちらかといえばそう	25.5	28.7	23.1	25.8	25.5	27.2	24.0			
	3. どちらかといえばそうではない	26.8	26.4	27.5	25.6	28.5	24.0	30.3			
	4. まったくそうではない	28.3	23.6	32.6	29.1	27.9	27.7	29.3			
SQ10 電源を切るとき	電車やバスの中	1. いつもする	57.5	58.0	57.8	58.6	57.1	68.2	46.9		
		2. ときどきする	17.2	13.8	20.2	17.2	17.4	17.5	17.0		
		3. あまりしない	9.6	9.3	9.8	9.0	10.3	7.9	11.4		
		4. まったくしない	4.8	6.4	3.6	5.2	4.5	3.0	6.8		
		5. 混んだ電車やバスに乗ることがない	10.3	12.5	8.6	10.1	10.7	3.4	17.8		
	コンサートの最中やライブの最中	1. いつもする	49.6	47.3	52.3	50.5	49.6	61.6	37.8		
		2. ときどきする	7.9	7.2	8.6	9.0	6.9	7.8	8.2		
		3. あまりしない	5.7	6.4	5.2	5.6	5.9	4.9	6.6		
		4. まったくしない	4.6	5.7	3.8	3.6	5.7	3.6	5.8		
		5. コンサートやライブに行くことがない	31.3	33.3	30.0	31.3	31.8	22.1	41.6		

2

資料 2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別				
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田			
P H S や 携 帯 電 話 の 利 用	SQ10	電源を切るとき 学校の授業中	1. いつもする	84.5	82.4	87.1	85.1	84.8	88.7	81.0	
			2. ときどきする	3.9	5.1	2.9	3.8	4.0	3.8	4.0	
			3. あまりしない	3.5	3.6	3.4	2.5	4.5	4.0	3.0	
			4. まったくしない	3.8	5.1	2.7	3.6	4.0	2.8	4.8	
			5. 学校にPHSや携帯電話を持っていかない	3.9	3.8	3.9	5.0	2.8	0.8	7.2	
	SQ11	利用	1. 利用しない	23.4	22.1	24.8	23.1	24.1	22.2	25.1	
			2. 利用する	75.7	77.9	75.2	76.9	75.9	77.8	74.9	
		利用する内容	1. 着メロや待受画像のダウンロード	71.1	72.5	70.0	72.7	69.5	71.2	71.1	
			2. ホームページの閲覧	21.1	24.3	18.5	21.8	20.5	27.3	14.5	
			3. 掲示板	9.9	10.4	9.6	8.8	11.1	11.6	8.2	
			4. チャット	5.7	5.1	6.2	5.7	5.7	4.9	6.6	
			5. ニュースや情報などの検索・閲覧	15.0	18.0	12.4	13.4	16.6	16.9	12.9	
	6. チケットの購入	2.0	3.2	1.1	1.1	2.9	2.8	1.2			
	7. その他	1.9	1.1	2.7	2.5	1.4	2.1	1.8			
	SQ12	ネットの癖	1. 使用していない	4.5	6.2	3.2	4.0	5.1	4.0	5.2	
			2. 使用している	94.8	93.8	96.8	96.0	94.9	96.0	94.8	
	SQ12-1	メールの送受信数	友だちに送るメール	1. 2通未満	2.5	2.6	2.6	1.8	3.4	2.8	2.4
				2. 2通以上5通未満	8.0	10.7	6.2	8.0	8.5	4.8	11.9
				3. 5通以上10通未満	10.5	12.8	9.1	9.6	11.9	9.3	12.3
				4. 10通以上50通未満	48.8	44.8	54.0	46.6	53.2	45.9	54.1
				5. 50通以上100通未満	12.6	12.8	13.0	15.1	10.6	15.1	10.6
				6. 100通以上	15.4	16.5	15.1	18.8	12.5	22.1	8.8
		友だちから送るメール	1. 2通未満	2.3	2.3	2.5	1.8	3.0	1.6	3.3	
			2. 2通以上5通未満	7.7	10.3	6.1	6.5	9.4	5.6	10.5	
3. 5通以上10通未満			9.6	12.1	8.0	10.0	9.6	8.7	11.1		
4. 10通以上50通未満			47.7	44.8	52.4	45.4	52.7	44.1	54.2		
5. 50通以上100通未満			13.8	13.5	14.8	16.8	11.6	16.5	11.8		
6. 100通以上			16.2	17.0	16.3	19.4	13.7	23.5	9.2		
SQ12-2	1番目に多い内容	1. 待ち合わせの連絡	9.5	9.0	10.0	8.8	10.3	12.1	6.8		
		2. 遊びの誘い	16.5	23.9	10.8	17.3	16.0	16.7	16.6		
		3. 特に用件のないおしゃべり	40.4	41.1	40.5	42.2	39.4	40.6	41.1		
		4. 緊急の用件	5.5	5.3	5.8	4.0	7.2	5.2	6.0		
		5. 悩みごと	8.5	5.1	11.3	9.0	8.0	6.8	10.4		
		6. 相手や自分の居場所の確認	2.9	3.4	2.4	2.6	3.2	3.2	2.6		
		7. 近況報告や様子うかがい	14.0	9.7	17.7	14.5	13.7	13.7	14.5		
		8. その他	1.9	2.5	1.5	1.6	2.3	1.8	2.1		
	2番目に多い内容	1. 待ち合わせの連絡	15.6	17.3	14.6	13.9	17.8	20.5	10.7		
		2. 遊びの誘い	26.1	26.3	26.5	28.6	24.1	28.1	24.6		
		3. 特に用件のないおしゃべり	14.5	13.4	15.7	15.5	13.7	14.9	14.3		
		4. 緊急の用件	6.2	5.1	7.3	6.6	5.9	6.4	6.2		
		5. 悩みごと	15.1	13.8	16.4	15.9	14.6	12.5	18.2		
		6. 相手や自分の居場所の確認	7.1	10.1	4.9	7.4	7.0	6.4	8.1		
		7. 近況報告や様子うかがい	13.5	13.1	14.2	11.3	16.3	10.6	17.1		
		8. その他	0.7	0.9	0.6	0.8	0.6	0.6	0.9		
	3番目に多い内容	1. 待ち合わせの連絡	18.0	18.6	18.4	17.5	19.7	23.1	13.7		
		2. 遊びの誘い	18.4	17.2	20.3	20.9	16.9	20.6	17.1		
		3. 特に用件のないおしゃべり	15.7	17.5	15.0	15.8	16.5	14.8	17.6		
		4. 緊急の用件	7.1	7.5	7.2	7.0	7.7	6.3	8.5		
		5. 悩みごと	11.7	11.4	12.5	11.5	12.6	11.1	13.0		
		6. 相手や自分の居場所の確認	9.9	14.7	6.5	11.9	8.3	7.7	12.8		
		7. 近況報告や様子うかがい	15.2	12.1	18.4	14.2	17.1	14.8	16.5		
		8. その他	1.2	0.9	1.5	1.2	1.3	1.6	0.9		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
②	SMSや携帯の利用	1. くだんあまり話さない学校の友だちとのメール	43.5	43.0	43.9	50.0	36.7	44.6	42.3	
		2. 直接会ったことのない学校外の人とのメール	29.9	23.8	35.0	33.7	26.0	24.8	35.5	
		3. 出会のサイトなどで友だちやメル友を募集	8.7	7.2	9.8	8.2	9.2	8.6	8.7	
③	小・中学校の授業以外での音楽学習経験	音楽を選択する	1. 現在している	45.9	45.0	48.7	58.0	35.3	42.8	50.8
			2. かつてしていたことがある	7.1	7.7	6.7	2.8	11.8	4.9	9.5
			3. したことがない	45.0	47.3	44.5	39.2	52.8	52.3	39.7
		参加する音楽系の活動	1. 現在している	11.6	9.3	14.5	14.8	9.0	13.8	10.2
			2. かつてしていたことがある	18.1	9.6	27.5	19.5	17.7	20.4	16.9
			3. したことがない	67.3	81.0	57.9	65.7	73.3	65.8	72.9
		参加する地域の活動	1. 現在している	1.9	1.8	2.1	2.4	1.6	2.5	1.5
			2. かつてしていたことがある	5.4	4.3	6.9	5.9	5.3	7.1	4.1
			3. したことがない	89.2	93.9	91.0	91.7	93.2	90.4	94.4
	バンドを組む	1. 現在している	8.6	15.1	2.7	10.6	7.1	10.8	7.1	
		2. かつてしていたことがある	8.3	12.2	4.9	8.5	8.5	7.4	9.6	
		3. したことがない	79.8	72.8	92.4	80.8	84.3	81.7	83.3	
	ピアノを習う	1. 現在している	9.1	3.0	15.5	10.5	8.2	11.1	7.6	
		2. かつてしていたことがある	30.5	14.5	47.7	29.6	32.9	39.4	23.2	
		3. したことがない	58.1	82.5	36.8	59.9	59.0	49.5	69.2	
	電子オルガンやオルガンを習う	1. 現在している	1.5	0.9	2.1	1.4	1.7	1.4	1.7	
		2. かつてしていたことがある	8.6	5.0	12.8	8.7	9.2	10.7	7.2	
		3. したことがない	86.4	94.0	85.1	89.9	89.1	87.9	91.1	
	管楽器を習う	1. 現在している	2.8	1.2	4.6	3.9	1.9	2.5	3.3	
		2. かつてしていたことがある	9.9	5.0	15.5	9.9	10.7	13.8	6.9	
		3. したことがない	83.8	93.7	79.9	86.2	87.4	83.7	89.8	
弦楽器を習う	1. 現在している	1.1	1.7	0.6	1.8	0.5	1.7	0.6		
	2. かつてしていたことがある	2.4	2.0	2.9	2.1	2.8	2.8	2.1		
	3. したことがない	93.0	96.3	96.5	96.1	96.7	95.5	97.3		
その他の楽器を習う	1. 現在している	3.5	4.6	2.8	5.1	2.2	4.2	3.2		
	2. かつてしていたことがある	6.7	6.7	7.2	7.6	6.4	8.7	5.3		
	3. したことがない	85.8	88.7	90.0	87.3	91.4	87.1	91.5		
ギターを弾いたりする	1. 現在している	25.1	32.5	20.0	28.7	23.8	27.5	25.2		
	2. かつてしていたことがある	20.1	20.9	21.4	19.6	22.7	16.9	25.2		
	3. したことがない	50.0	46.6	58.6	51.7	53.4	55.6	49.5		
④	音楽への関わり方	ライブサイトやカラオケに行く	1. 毎日のようにする	0.1	0.3	0.0	0.1	0.2	0.2	0.1
			2. よくする	4.7	3.7	5.8	4.5	5.0	7.4	2.2
			3. ときどきする	26.9	20.7	33.7	27.7	26.7	26.8	27.5
			4. あまりしない	11.8	11.5	12.4	12.3	11.5	14.0	9.9
			5. ほとんどしない	20.3	20.7	20.4	21.2	19.8	18.5	22.5
			6. まったくしない	35.1	43.2	27.7	34.1	36.8	33.1	37.7
	曲をつくる	ライブサイトやカラオケに行く	1. 毎日のようにする	0.8	0.4	1.2	0.7	0.9	1.3	0.3
			2. よくする	22.8	15.9	30.0	24.8	21.0	24.9	21.1
			3. ときどきする	40.2	36.3	44.4	39.3	41.5	38.3	42.3
			4. あまりしない	11.6	13.3	10.1	10.0	13.5	11.7	11.7
			5. ほとんどしない	12.7	17.0	8.4	12.8	12.7	12.3	13.2
			6. まったくしない	11.4	17.0	5.9	12.5	10.4	11.5	11.4
	曲をつくる	曲をつくる	1. 毎日のようにする	1.3	2.1	0.4	1.2	1.4	1.2	1.3
			2. よくする	2.2	3.4	1.0	2.3	2.1	2.0	2.5
			3. ときどきする	6.6	8.2	5.2	6.1	7.3	7.7	5.7
			4. あまりしない	8.2	8.9	7.6	9.5	7.0	7.5	9.0
			5. ほとんどしない	9.1	8.9	9.5	8.2	10.4	8.4	10.0
			6. まったくしない	71.5	68.4	76.2	72.7	71.8	73.2	71.4

資料 2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		地 域 別			
			男 子	女 子	1 年	2 年	東 京	秋 田		
4	音楽への かかり方	外出するときに 音楽を聴く	1. 毎日のようにする	15.1	19.3	11.2	14.7	15.8	17.4	13.1
			2. よくする	17.3	18.2	16.7	17.4	17.6	18.1	16.8
			3. ときどきする	22.5	21.8	23.5	21.9	23.5	20.5	24.8
			4. あまりしない	9.5	9.2	10.0	9.2	10.0	9.7	9.4
			5. ほとんどしない	13.0	10.1	16.2	13.4	12.9	11.5	14.7
			6. まったくしない	21.7	21.4	22.4	23.4	20.3	22.6	21.1
		家でCDなどを 聴く	1. 毎日のようにする	55.3	56.7	54.8	56.6	54.9	49.6	61.9
			2. よくする	25.1	22.1	28.5	25.5	25.1	26.9	23.7
			3. ときどきする	12.5	13.9	11.1	11.5	13.7	15.7	9.4
			4. あまりしない	3.1	2.8	3.4	2.6	3.6	3.9	2.4
			5. ほとんどしない	1.8	1.9	1.6	2.2	1.4	1.9	1.6
			6. まったくしない	1.5	2.5	0.4	1.6	1.4	1.9	1.0
		家で音楽番組を 聴く	1. 毎日のようにする	34.1	32.1	36.3	35.0	33.4	30.8	37.5
			2. よくする	35.4	31.4	39.6	35.3	35.7	37.0	34.0
			3. ときどきする	18.8	20.9	16.8	19.2	18.5	18.2	19.5
			4. あまりしない	5.3	7.2	3.4	4.3	6.4	6.9	3.8
			5. ほとんどしない	3.5	4.3	2.8	3.5	3.6	4.3	2.8
			6. まったくしない	2.6	4.1	1.0	2.7	2.4	2.8	2.3
		“ながら聴き”を する	1. 毎日のようにする	15.0	15.1	15.1	15.6	14.5	14.5	15.7
			2. よくする	29.5	30.1	29.0	32.2	26.7	29.1	30.0
			3. ときどきする	24.1	23.5	24.8	24.4	23.9	23.1	25.2
			4. あまりしない	9.7	10.0	9.5	8.5	11.0	9.2	10.2
			5. ほとんどしない	8.8	7.7	9.9	7.7	10.0	8.6	8.9
			6. まったくしない	12.7	13.6	11.8	11.6	13.9	15.5	10.0
	おけいごとなどと 演奏する楽器	1. 毎日のようにする	10.7	14.1	7.5	13.0	8.5	10.6	10.9	
		2. よくする	10.8	11.5	10.1	12.2	9.4	12.7	9.0	
		3. ときどきする	16.0	12.1	20.1	15.6	16.7	16.9	15.3	
		4. あまりしない	9.1	7.0	11.5	8.6	9.8	8.4	10.0	
		5. ほとんどしない	10.0	8.0	12.2	10.8	9.4	9.6	10.6	
		6. まったくしない	42.7	47.3	38.6	39.9	46.2	41.7	44.3	
	お店でCDを 買う	1. 毎日のようにする	4.9	7.5	2.4	5.1	4.8	3.7	6.2	
		2. よくする	29.0	29.3	28.8	30.6	27.4	26.1	32.0	
		3. ときどきする	41.0	37.1	45.1	39.5	42.9	39.1	43.1	
		4. あまりしない	11.3	11.5	11.2	11.6	11.2	12.7	10.1	
		5. ほとんどしない	8.1	8.3	8.0	7.8	8.5	10.9	5.4	
		6. まったくしない	5.3	6.2	4.4	5.5	5.2	7.5	3.2	
	レンタルCDを 借りる	1. 毎日のようにする	3.2	4.6	1.8	2.9	3.5	3.3	3.1	
		2. よくする	26.2	25.1	27.7	26.6	26.3	27.6	25.3	
		3. ときどきする	25.6	22.0	29.7	26.1	25.5	26.7	25.0	
		4. あまりしない	13.9	13.8	14.1	12.6	15.3	14.5	13.4	
		5. ほとんどしない	11.5	11.6	11.6	12.2	10.9	11.4	11.7	
		6. まったくしない	18.9	23.0	15.1	19.6	18.5	16.5	21.6	
好きな歌を ダウンロード	1. 毎日のようにする	4.8	5.9	3.7	5.2	4.4	3.1	6.5		
	2. よくする	25.5	23.5	27.7	27.8	23.3	25.2	26.0		
	3. ときどきする	23.6	20.7	26.7	23.2	24.2	22.8	24.5		
	4. あまりしない	10.2	10.9	9.6	10.3	10.3	11.3	9.3		
	5. ほとんどしない	9.1	8.9	9.5	8.4	10.0	10.9	7.5		
	6. まったくしない	26.3	30.0	22.8	25.1	27.8	26.6	26.3		
5	音楽を聴きたく ない	1. 音楽を聴きなくなる	44.0	45.1	43.2	48.4	39.7	44.3	44.0	
		2. どちらでもない	34.4	35.5	33.6	33.2	35.9	33.1	35.9	
		3. 音楽を聴きたくない	21.2	19.4	23.2	18.4	24.4	22.5	20.1	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
5	音楽を聴きたくないか、聴きたくないか	集中して聴くとき	1. 音楽を聴きたくない	16.1	18.5	13.9	16.8	15.6	15.1	17.3
			2. どちらでもない	38.1	41.6	34.9	41.5	34.8	37.2	39.3
			3. 音楽を聴きたくない	45.4	39.9	51.2	41.8	49.5	47.8	43.4
		ひまなとき	1. 音楽を聴きたくない	84.7	82.1	87.7	84.8	85.0	82.9	87.0
			2. どちらでもない	12.8	15.1	10.6	13.2	12.5	14.6	11.1
			3. 音楽を聴きたくない	2.2	2.8	1.6	2.0	2.4	2.5	1.9
		みんなで盛り上がる時	1. 音楽を聴きたくない	33.3	36.2	30.7	36.3	30.5	28.1	38.8
			2. どちらでもない	47.0	44.0	50.4	45.5	49.0	50.1	44.3
			3. 音楽を聴きたくない	19.2	19.8	18.8	18.2	20.5	21.8	16.9
		気分がいいとき	1. 音楽を聴きたくない	66.9	62.0	72.1	65.9	68.3	66.6	67.5
			2. どちらでもない	27.4	30.6	24.4	28.5	26.4	27.0	28.0
			3. 音楽を聴きたくない	5.5	7.4	3.5	5.6	5.3	6.4	4.5
なにもやらないとき	1. 音楽を聴きたくない	60.6	59.1	62.3	61.1	60.3	59.9	61.5		
	2. どちらでもない	25.6	26.6	24.8	25.1	26.3	26.4	25.0		
	3. 音楽を聴きたくない	13.6	14.3	12.9	13.7	13.4	13.7	13.5		
イヤイヤしているとき	1. 音楽を聴きたくない	49.1	47.9	50.7	50.1	48.6	51.0	47.7		
	2. どちらでもない	31.5	32.9	30.5	31.3	32.2	30.2	33.2		
	3. 音楽を聴きたくない	18.9	19.1	18.8	18.7	19.3	18.8	19.1		
悩むことや考えるとき	1. 音楽を聴きたくない	39.1	37.3	41.1	39.5	38.8	39.3	39.0		
	2. どちらでもない	34.5	35.4	33.8	36.5	32.6	33.7	35.5		
	3. 音楽を聴きたくない	26.2	27.4	25.1	24.0	28.5	27.0	25.5		
気分の落ち込んでいるとき	1. 音楽を聴きたくない	58.5	53.6	63.8	57.8	59.6	59.3	58.1		
	2. どちらでもない	27.7	30.6	25.0	28.6	26.9	27.3	28.3		
	3. 音楽を聴きたくない	13.5	15.8	11.2	13.6	13.5	13.4	13.6		
疲れて休みたいとき	1. 音楽を聴きたくない	36.0	38.1	34.2	37.6	34.6	37.7	34.6		
	2. どちらでもない	31.2	31.2	31.4	31.2	31.3	30.7	31.8		
	3. 音楽を聴きたくない	32.5	30.7	34.5	31.2	34.0	31.6	33.6		
6	音楽が嫌いになるとき	うまく歌ったり演奏したりできなかったとき	1. とても嫌いになる	8.8	9.5	8.3	9.3	8.5	8.1	9.7
			2. やや嫌いになる	25.3	22.6	28.3	24.9	25.9	25.6	25.3
			3. あまり嫌いにならない	36.4	35.6	37.6	34.5	38.8	38.7	34.6
			4. まったく嫌いにならない	28.9	32.3	25.8	31.3	26.7	27.7	30.4
		雑音のよつに音楽が聞こえにくくなったとき	1. とても嫌いになる	7.7	7.6	7.8	7.7	7.7	9.6	5.9
			2. やや嫌いになる	19.5	19.4	19.7	19.4	19.7	21.9	17.2
			3. あまり嫌いにならない	39.6	37.0	42.6	38.2	41.5	39.4	40.2
			4. まったく嫌いにならない	32.8	36.0	29.9	34.7	31.1	29.1	36.7
		自分の嫌いなアーティストの歌や曲を耳にしたとき	1. とても嫌いになる	12.4	13.8	11.1	10.4	14.5	13.1	11.8
			2. やや嫌いになる	25.1	19.6	30.8	24.5	25.9	26.9	23.5
			3. あまり嫌いにならない	37.0	36.6	37.7	40.0	34.2	36.9	37.5
			4. まったく嫌いにならない	25.1	30.0	20.4	25.1	25.3	23.1	27.2
歌詞の意味やメロディのわからない曲を耳にしたとき	1. とても嫌いになる	6.5	8.7	4.3	5.4	7.7	6.7	6.3		
	2. やや嫌いになる	20.6	19.0	22.4	18.6	22.9	19.9	21.5		
	3. あまり嫌いにならない	42.9	40.3	45.9	44.8	41.4	45.4	40.9		
	4. まったく嫌いにならない	29.6	32.0	27.4	31.3	28.0	28.1	31.3		
学校の勉強で音楽を聴くとき	1. とても嫌いになる	7.0	8.4	5.8	7.8	6.5	9.1	5.2		
	2. やや嫌いになる	16.1	18.2	14.7	17.3	15.5	18.3	14.6		
	3. あまり嫌いにならない	42.0	40.5	45.1	41.3	44.3	42.7	42.9		
	4. まったく嫌いにならない	33.0	32.8	34.4	33.6	33.7	29.9	37.3		
音楽の授業で評価される時	1. とても嫌いになる	12.3	14.2	10.7	11.5	13.5	12.7	12.2		
	2. やや嫌いになる	23.7	22.8	25.4	26.3	21.7	24.4	23.7		
	3. あまり嫌いにならない	35.7	34.0	38.4	35.0	37.4	37.9	34.5		
	4. まったく嫌いにならない	26.9	29.0	25.5	27.2	27.4		29.6		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
7	音楽がまったくなくなったら、どんなふうになるか	集中力がなくなる	1. とてもそう思う	18.8	19.0	18.8	18.4	19.4	15.7	22.0
			2. ややそう思う	30.6	30.6	30.9	33.9	27.4	29.7	31.7
			3. あまりそう思わない	36.6	34.1	39.4	35.2	38.5	39.9	33.8
			4. まったくそう思わない	13.6	16.3	10.9	12.6	14.7	14.8	12.5
		くやる気なくなる	1. とてもそう思う	32.3	30.5	34.4	33.4	31.4	28.1	36.7
			2. ややそう思う	30.9	31.6	30.5	30.7	31.4	32.0	30.1
			3. あまりそう思わない	26.3	25.3	27.6	26.5	26.4	28.0	25.0
			4. まったくそう思わない	10.0	12.6	7.6	9.4	10.8	12.0	8.2
		イライラしたりやすくなる	1. とてもそう思う	30.4	27.9	33.2	31.4	29.6	29.4	31.7
			2. ややそう思う	26.6	24.6	28.9	27.5	26.0	27.1	26.4
			3. あまりそう思わない	30.3	32.2	28.8	30.1	30.9	29.8	31.1
			4. まったくそう思わない	12.1	15.3	9.1	10.9	13.5	13.6	10.7
		に時間をもてあます	1. とてもそう思う	32.6	32.1	33.4	34.5	31.0	26.0	39.4
			2. ややそう思う	27.0	24.4	29.9	27.3	27.0	27.1	27.3
			3. あまりそう思わない	27.3	27.4	27.4	25.7	29.1	31.1	23.8
			4. まったくそう思わない	12.6	16.0	9.3	12.4	12.9	15.8	9.5
		よんだりするようになる	1. とてもそう思う	18.8	16.7	21.0	19.7	18.1	16.6	21.1
			2. ややそう思う	21.4	20.0	23.1	21.5	21.5	20.5	22.6
			3. あまりそう思わない	42.3	42.2	42.8	43.2	41.7	42.9	42.1
			4. まったくそう思わない	17.0	21.0	13.2	15.6	18.7	20.0	14.2
ストレスがたまる	1. とてもそう思う	31.8	27.2	36.7	32.2	31.6	30.8	33.0		
	2. ややそう思う	30.1	29.1	31.4	30.1	30.4	30.0	30.4		
	3. あまりそう思わない	25.6	28.3	23.1	26.0	25.4	25.9	25.6		
	4. まったくそう思わない	12.1	15.4	8.9	11.7	12.6	13.3	11.0		
人間性になる	1. とてもそう思う	35.5	33.4	38.0	36.5	34.9	34.2	37.2		
	2. ややそう思う	29.8	27.3	32.7	30.2	29.7	30.3	29.7		
	3. あまりそう思わない	23.3	25.4	21.4	22.6	24.3	24.4	22.5		
	4. まったくそう思わない	10.8	13.9	7.8	10.7	11.1	11.1	10.7		
あまり変わらない	1. とてもそう思う	9.7	12.0	7.6	10.3	9.3	9.7	9.8		
	2. ややそう思う	19.1	21.2	17.2	17.7	20.8	20.7	17.7		
	3. あまりそう思わない	31.0	30.2	32.0	31.1	31.1	30.1	32.1		
	4. まったくそう思わない	39.7	36.6	43.3	41.0	38.8	39.5	40.3		
8	音楽に対するイメージ	モーニング娘。のアイドルの歌	1. 親しみやすい	69.0	63.8	79.6	72.5	71.0	69.7	73.8
			2. 近づきたい	27.1	36.2	20.4	27.5	29.0	30.3	26.2
			1. わかりやすい	67.6	64.5	76.8	71.2	70.1	69.3	72.0
			2. よくわからない	28.1	35.5	23.2	28.8	29.9	30.7	28.0
		やV6の歌	1. 気分が落ち着く	5.2	9.3	1.9	4.6	6.5	4.8	6.2
			2. 気分が盛り上がる	88.4	90.7	98.1	95.4	93.5	95.2	93.8
			1. 心地よい	62.6	65.0	68.1	67.6	65.4	60.2	72.6
			2. 心地悪い	31.5	35.0	31.9	32.4	34.6	39.8	27.4
		バブズの歌	1. 親しみやすい	85.0	83.9	92.0	88.7	87.2	87.3	88.6
			2. 近づきたい	11.6	16.1	8.0	11.3	12.8	12.7	11.4
			1. わかりやすい	84.8	84.0	92.7	89.4	87.3	88.1	88.7
			2. よくわからない	11.1	16.0	7.3	10.6	12.7	11.9	11.3
		癒し系の歌	1. 気分が落ち着く	83.9	86.3	91.8	88.9	89.4	88.4	89.8
			2. 気分が盛り上がる	10.2	13.7	8.2	11.1	10.6	11.6	10.2
			1. 心地よい	85.6	84.9	93.6	90.2	88.4	87.3	91.2
			2. 心地悪い	10.2	15.1	6.4	9.8	11.6	12.7	8.8
		ドラゴンボール系の歌	1. 親しみやすい	46.0	50.6	45.3	48.6	47.2	41.4	54.2
			2. 近づきたい	50.0	49.4	54.7	51.4	52.8	58.6	45.8
			1. わかりやすい	34.0	40.4	30.5	34.3	36.6	30.4	40.2
			2. よくわからない	62.0	59.6	69.5	65.7	63.4	69.6	59.8

資料2 基礎集計表

質問項目	全体	性別		学年別		地域別			
		男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
⑧ 音楽に対するイメージ	のレフポブ系歌	1. 気分が落ち着く	13.0	15.2	13.2	15.3	13.1	13.5	14.8
		2. 気分が盛り上がる	78.9	84.8	86.8	84.7	86.9	86.5	85.2
	の小柳ゆきボーカリストの歌など	1. 心地よい	57.8	62.5	60.0	62.6	59.8	56.6	65.8
		2. 心地悪い	36.6	37.5	40.0	37.4	40.2	43.4	34.2
	の福山雅治や山崎まさよしなどの歌	1. 親しみやすい	84.7	81.6	94.2	87.9	88.0	88.0	88.0
		2. 近づきたい	11.6	18.4	5.8	12.1	12.0	12.0	12.0
	のボーカリストの歌	1. わかりやすい	83.7	80.4	94.2	88.7	86.1	86.5	88.2
		2. よくわからない	12.1	19.6	5.8	11.3	13.9	13.5	11.8
	のボーカリストの歌	1. 気分が落ち着く	56.2	62.7	57.2	60.1	59.7	58.4	61.3
		2. 気分が盛り上がる	37.6	37.3	42.8	39.9	40.3	41.6	38.7
	のボーカリストの歌	1. 心地よい	86.2	85.7	95.8	91.4	90.2	88.6	92.8
		2. 心地悪い	8.8	14.3	4.2	8.6	9.8	11.4	7.2
	の福山雅治や山崎まさよしなどの歌	1. 親しみやすい	82.0	84.1	86.6	85.2	85.6	87.6	83.2
		2. 近づきたい	14.1	15.9	13.4	14.8	14.4	12.4	16.8
	のボーカリストの歌	1. わかりやすい	81.6	82.2	88.1	85.6	84.7	87.2	83.2
		2. よくわからない	14.2	17.8	11.9	14.4	15.3	12.8	16.8
	のボーカリストの歌	1. 気分が落ち着く	79.7	79.7	89.3	81.7	87.4	84.9	84.1
		2. 気分が盛り上がる	14.6	20.3	10.7	18.3	12.6	15.1	15.9
	のボーカリストの歌	1. 心地よい	85.0	87.3	91.7	91.0	87.9	91.7	87.4
		2. 心地悪い	9.9	12.7	8.3	9.0	12.1	8.3	12.6
	のさだまさしや中島みゆきなどのアーティストの歌	1. 親しみやすい	30.7	33.4	30.7	28.0	36.3	34.4	29.8
		2. 近づきたい	65.1	66.6	69.3	72.0	63.7	65.6	70.2
	の年代から活躍しているアーティストの歌	1. わかりやすい	37.1	39.1	37.9	34.9	42.3	41.7	35.4
		2. よくわからない	59.2	60.9	62.1	65.1	57.7	58.3	64.6
	のアーティストの歌	1. 気分が落ち着く	80.0	86.7	91.9	88.4	90.3	90.9	87.8
		2. 気分が盛り上がる	9.6	13.3	8.1	11.6	9.7	9.1	12.2
	のアーティストの歌	1. 心地よい	50.3	51.7	56.0	51.6	56.1	57.4	50.4
		2. 心地悪い	43.1	48.3	44.0	48.4	43.9	42.6	49.6
	ジャズ	1. 親しみやすい	28.4	32.4	27.1	30.7	28.8	29.3	30.2
		2. 近づきたい	67.0	67.6	72.9	69.3	71.2	70.7	69.8
ジャズ	1. わかりやすい	21.4	25.7	19.1	23.4	21.3	22.5	22.2	
	2. よくわからない	74.4	74.3	80.9	76.6	78.7	77.5	77.8	
ジャズ	1. 気分が落ち着く	54.9	61.0	60.5	58.6	63.0	63.6	58.1	
	2. 気分が盛り上がる	35.4	39.0	39.5	41.4	37.0	36.4	41.9	
ジャズ	1. 心地よい	55.6	58.5	61.4	60.0	59.9	64.9	55.2	
	2. 心地悪い	37.1	41.5	38.6	40.0	40.1	35.1	44.8	
洋楽	1. 親しみやすい	59.3	60.7	63.5	59.2	65.2	59.9	64.3	
	2. 近づきたい	36.2	39.3	36.5	40.8	34.8	40.1	35.7	
洋楽	1. わかりやすい	38.4	39.6	41.5	40.0	41.1	39.3	41.8	
	2. よくわからない	56.3	60.4	58.5	60.0	58.9	60.7	58.2	
洋楽	1. 気分が落ち着く	47.4	42.2	59.8	57.0	44.9	52.3	49.9	
	2. 気分が盛り上がる	45.4	57.8	40.2	43.0	55.1	47.7	50.1	
洋楽	1. 心地よい	80.8	81.3	92.0	87.0	86.2	87.3	86.0	
	2. 心地悪い	12.5	18.7	8.0	13.0	13.8	12.7	14.0	
ベートーベンやモーツァルなどのクラシック音楽	1. 親しみやすい	36.3	37.9	37.6	37.6	38.0	41.7	33.9	
	2. 近づきたい	59.8	62.1	62.4	62.4	62.0	58.3	66.1	
ベートーベンやモーツァルなどのクラシック音楽	1. わかりやすい	31.2	32.8	32.6	34.6	30.8	36.7	28.9	
	2. よくわからない	64.3	67.2	67.4	65.4	69.2	63.3	71.1	
ベートーベンやモーツァルなどのクラシック音楽	1. 気分が落ち着く	84.6	89.1	93.2	91.1	91.1	92.3	90.0	
	2. 気分が盛り上がる	8.3	10.9	6.8	8.9	8.9	7.7	10.0	
ベートーベンやモーツァルなどのクラシック音楽	1. 心地よい	67.7	70.5	73.9	72.5	71.9	77.3	67.2	
	2. 心地悪い	26.1	29.5	26.1	27.5	28.1	22.7	32.8	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別		
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田	
8	音楽に対するイメージ 《故郷》や《荒城の月》 などの日本の古い歌	1. 親しみやすい	21.1	21.3	23.1	20.2	24.2	23.0	21.3
		2. 近づきたい	74.3	78.8	76.9	79.8	75.8	77.0	78.7
		1. わかりやすい	23.4	23.5	25.2	22.4	26.5	27.5	21.4
		2. よくわからない	72.5	76.5	74.8	77.6	73.5	72.5	78.6
		1. 気分が落ち着く	81.5	88.5	93.3	90.5	91.3	91.4	90.4
		2. 気分が盛り上がる	8.2	11.5	6.7	9.5	8.7	8.6	9.6
		1. 心地よい	44.4	42.4	53.4	46.1	49.7	50.2	45.7
		2. 心地悪い	48.4	57.6	46.6	53.9	50.3	49.8	54.3
9	音楽について 曲で選ぶ方だ 切り歌はメロディよ 切だと思っ たい	1. とてもあてはまる	28.7	31.4	26.3	30.5	27.1	29.2	28.4
		2. ややあてはまる	49.4	45.5	53.9	49.7	49.6	47.7	51.6
		3. あまりあてはまらない	17.5	17.3	17.8	16.8	18.4	19.0	16.1
		4. まったくあてはまらない	3.9	5.8	2.1	3.0	4.9	4.0	3.8
		1. とてもあてはまる	8.4	7.4	9.6	9.1	7.8	7.5	9.4
		2. ややあてはまる	37.8	34.8	41.5	40.1	36.1	38.2	38.1
		3. あまりあてはまらない	46.1	47.1	46.0	44.3	48.9	48.0	45.1
		4. まったくあてはまらない	6.8	10.7	3.0	6.5	7.2	6.3	7.4
	あてはまること	1. とてもあてはまる	3.6	5.6	1.6	3.5	3.8	3.7	3.5
		2. ややあてはまる	13.3	14.4	12.4	12.7	14.1	12.9	13.9
		3. あまりあてはまらない	32.4	32.3	32.9	34.2	31.0	29.4	35.8
		4. まったくあてはまらない	50.0	47.6	53.0	49.6	51.1	54.0	46.8
		1. とてもあてはまる	20.6	20.3	21.1	23.6	17.7	17.1	24.2
		2. ややあてはまる	27.5	27.4	27.9	27.9	27.4	25.7	29.6
		3. あまりあてはまらない	29.3	28.1	30.9	28.2	30.9	32.1	27.0
		4. まったくあてはまらない	22.0	24.1	20.1	20.3	24.0	25.1	19.2
このこと	1. とてもあてはまる	15.2	15.3	15.3	17.3	13.1	15.3	15.2	
	2. ややあてはまる	26.5	25.0	28.1	24.6	28.7	25.9	27.3	
	3. あまりあてはまらない	31.5	30.7	32.7	31.5	31.9	30.8	32.6	
	4. まったくあてはまらない	26.3	29.0	23.9	26.6	26.3	28.0	24.9	
	1. とてもあてはまる	60.6	55.1	67.0	62.1	59.9	58.3	63.7	
	2. ややあてはまる	28.0	30.3	26.1	28.2	28.2	29.2	27.2	
	3. あまりあてはまらない	8.3	10.8	5.9	7.1	9.8	9.7	7.0	
	4. まったくあてはまらない	2.4	3.7	1.0	2.6	2.1	2.7	2.1	
10	次のような言葉をどのよう な相手に使うか 「こむ」などの若者言葉	1. 友だちに	86.2	82.6	89.8	86.0	86.5	85.1	87.3
		2. 先輩に	31.6	35.7	27.5	31.9	31.3	36.1	27.2
		3. 親に	41.6	32.9	50.2	40.6	42.6	44.3	38.9
		4. 先生に	9.9	10.9	8.8	10.0	9.8	10.5	9.2
		5. バイトの客に	0.7	1.2	0.3	0.3	1.2	1.2	0.3
		6. 初対面のおとなに	1.2	1.6	0.7	1.0	1.4	1.5	0.9
		7. ぜんぜん使わない	11.6	14.3	9.0	12.1	11.1	13.1	10.2
	「見える」「食べれる」 などの「抜き言葉」	1. 友だちに	85.6	81.9	89.4	87.0	84.2	82.3	88.9
		2. 先輩に	43.9	43.5	44.3	45.8	42.0	46.5	41.4
		3. 親に	72.1	65.0	79.1	72.5	71.6	69.5	74.6
		4. 先生に	35.7	33.6	37.8	36.8	34.6	37.1	34.4
		5. バイトの客に	5.1	5.6	4.6	4.8	5.4	7.0	3.2
		6. 初対面のおとなに	9.1	10.6	7.7	9.5	8.7	10.7	7.6
		7. ぜんぜん使わない	10.2	13.4	7.1	9.4	11.1	13.1	7.5

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別					
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田				
10	次のような言葉をどのよう相手に使うか	「インターネット上の半疑問の言葉」 「さくなくない?」 「う」などのほかし言葉	1. 友だちに	80.7	70.8	90.6	81.4	80.0	85.0	76.5		
			2. 先輩に	23.4	25.5	21.2	25.7	20.9	28.7	18.1		
			3. 親に	49.4	35.5	63.3	50.1	48.7	56.9	42.1		
			4. 先生に	10.5	10.6	10.5	10.3	10.8	14.0	7.2		
			5. パイトの客に	0.9	1.8	0.0	0.9	0.9	0.9	0.9		
			6. 初対面のおとなに	1.4	2.1	0.7	1.4	1.4	1.2	1.6		
			7. ぜんぜん使わない	16.9	26.0	8.0	15.9	18.0	12.2	21.6		
		「ムカつく」「キレる」などの人を攻撃する言葉	1. 友だちに	82.7	79.6	85.7	82.1	83.3	78.9	86.4		
			2. 先輩に	20.5	22.7	18.3	21.2	19.7	21.4	19.6		
			3. 親に	48.4	40.7	56.1	48.4	48.4	44.7	52.0		
			4. 先生に	10.5	11.7	9.4	9.7	11.4	8.9	12.1		
			5. パイトの客に	1.0	1.9	0.0	0.9	1.1	1.3	0.6		
			6. 初対面のおとなに	2.2	3.2	1.2	2.0	2.4	2.1	2.3		
			7. ぜんぜん使わない	12.4	15.8	9.0	12.7	12.0	16.2	8.6		
		「お待ちする」「さくなくない?」などの敬語	1. 友だちに	6.2	8.0	4.4	6.6	5.7	7.7	4.7		
			2. 先輩に	31.8	31.6	32.1	33.2	30.4	29.6	34.1		
			3. 親に	7.7	10.5	5.0	9.2	6.2	9.4	6.1		
			4. 先生に	52.5	52.4	52.6	54.2	50.7	53.0	51.9		
			5. パイトの客に	31.5	25.2	37.8	30.3	32.8	42.6	20.6		
			6. 初対面のおとなに	66.2	60.2	72.3	67.3	65.1	70.4	62.1		
			7. ぜんぜん使わない	13.9	17.7	10.0	13.0	14.7	10.3	17.4		
		11	ふだんしていることや考えていることに一番あてはまるもの	人が話すのが好き	1. とてもそう	34.8	28.9	41.0	36.4	33.4	36.8	33.1
					2. ややそう	44.1	46.1	42.6	43.6	45.1	44.2	44.5
					3. あまりそうでない	18.5	22.1	15.1	18.2	19.0	16.8	20.4
					4. ぜんぜんそうでない	2.1	3.0	1.3	1.7	2.6	2.2	2.0
				ものが書くのが好き	1. とてもそう	19.3	15.3	23.5	20.2	18.5	21.7	17.1
					2. ややそう	32.0	25.8	38.5	34.7	29.4	34.9	29.4
					3. あまりそうでない	38.6	45.2	32.4	35.4	42.3	33.7	43.8
4. ぜんぜんそうでない	9.7				13.8	5.6	9.7	9.7	9.7	9.7		
ものを書くときパソコンを使う	1. とてもそう			4.6	6.1	3.1	4.5	4.7	5.7	3.5		
	2. ややそう			9.0	9.3	8.7	8.5	9.6	10.5	7.6		
	3. あまりそうでない			30.0	29.3	31.0	30.7	29.6	30.1	30.2		
	4. ぜんぜんそうでない			55.9	55.3	57.2	56.3	56.1	53.7	58.7		
日記をつける	1. とてもそう			8.3	3.9	12.9	7.7	9.1	9.0	7.8		
	2. ややそう			12.7	3.4	22.2	12.4	13.2	14.5	11.1		
	3. あまりそうでない			11.1	7.0	15.4	11.0	11.4	12.6	9.8		
	4. ぜんぜんそうでない			67.4	85.8	49.6	68.9	66.3	63.9	71.3		
今年正月のさく年賀状をたく	1. とてもそう			14.0	7.9	20.3	15.9	12.2	16.8	11.4		
	2. ややそう			21.7	14.9	28.7	20.1	23.7	24.8	18.9		
	3. あまりそうでない			31.8	30.5	33.5	32.2	31.8	30.7	33.3		
	4. ぜんぜんそうでない			25.4	39.3	12.0	25.0	26.3	21.8	29.3		
	5. 喪中だった	6.4	7.4	5.5	6.8	6.1	5.9	7.0				

資料 2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		地 域 別				
			男 子	女 子	1 年	2 年	東 京	秋 田			
11	ふだんしていることや考えていることに一番あてはまるもの	くマンガが好きを描	1. とてもそう	5.2	4.3	6.3	5.2	5.4	5.9	4.7	
			2. ややそう	11.3	10.0	12.9	11.1	11.8	12.1	10.9	
			3. あまりそうでない	18.9	19.8	18.3	20.0	18.1	21.0	17.2	
			4. ぜんぜんそうでない	63.5	65.9	62.5	63.7	64.7	61.0	67.3	
		む本や雑誌を読	1. とてもそう	52.8	46.0	60.8	54.4	52.4	53.3	53.5	
			2. ややそう	33.2	37.5	29.6	31.8	35.3	33.5	33.5	
			3. あまりそうでない	9.1	11.5	7.0	9.7	8.8	9.7	8.8	
			4. ぜんぜんそうでない	3.8	4.9	2.7	4.1	3.5	3.5	4.1	
		むマンガが好き	1. とてもそう	62.0	61.5	63.6	64.3	60.6	62.6	62.5	
			2. ややそう	27.4	29.5	25.9	26.8	28.5	27.5	27.8	
			3. あまりそうでない	6.5	6.0	7.1	6.1	7.0	6.5	6.6	
			4. ぜんぜんそうでない	3.2	3.1	3.4	2.8	3.8	3.5	3.1	
だてと思ふ	1. とてもそう	28.2	28.7	28.2	27.9	29.1	33.6	23.5			
	2. ややそう	43.4	41.4	46.2	44.4	43.2	42.5	45.0			
	3. あまりそうでない	22.6	23.4	22.3	23.3	22.4	19.0	26.5			
	4. ぜんぜんそうでない	4.9	6.5	3.3	4.5	5.4	4.8	5.0			
12	印象に残っている言葉	高校に入ってから最も	たり読むところから聞いた	1. 親から	4.4	6.5	7.8	7.4	6.8	9.4	5.2
				2. 先生から	6.3	12.5	7.5	10.2	10.0	6.5	13.1
				3. 友だち・恋人から	16.6	21.1	32.5	28.1	25.2	30.2	23.7
				4. その他の人から	3.2	6.3	3.9	4.2	6.1	6.8	3.7
				5. 本や雑誌から	8.9	14.2	14.6	11.4	17.5	12.8	15.7
				6. マンガから	4.1	7.9	5.1	7.2	5.8	5.7	7.2
				7. テレビ・映画などから	6.3	11.6	8.7	9.7	10.7	8.1	12.0
				8. 歌詞から	9.1	12.8	16.5	15.8	13.3	14.8	14.4
				9. その他から	3.3	7.2	3.4	6.0	4.6	5.7	5.0
13	次のようなとき、どのような手段を使うか	誘親しい友だちを遊びに	1. 直接会って話す	34.8	33.5	37.2	32.4	38.4	35.3	35.4	
			2. 友だちに頼む	0.5	0.9	0.1	0.7	0.3	0.6	0.4	
			3. PHSや携帯電話で話す	15.5	21.3	10.1	14.7	16.8	12.7	18.6	
			4. 家の電話で話す	15.8	17.3	14.9	16.6	15.6	13.3	18.8	
			5. 手紙を書く	0.6	0.6	0.6	0.7	0.5	0.9	0.3	
			6. PHSや携帯電話でメールを送る	29.8	24.6	35.8	33.6	26.7	35.6	25.0	
			7. パソコンでメールを送る	0.7	0.8	0.7	0.4	1.1	0.8	0.7	
			8. その他	0.7	1.1	0.4	0.9	0.6	0.8	0.7	
		ちあまり遊び親しく誘わない友だ	1. 直接会って話す	18.3	20.0	18.2	18.4	19.8	19.1	19.1	
			2. 友だちに頼む	15.2	20.4	11.2	15.5	16.1	13.8	17.7	
			3. PHSや携帯電話で話す	8.6	12.5	5.5	9.2	8.7	7.8	10.1	
			4. 家の電話で話す	9.4	9.8	9.9	10.3	9.3	8.9	10.7	
	5. 手紙を書く		1.3	0.6	2.0	1.0	1.6	1.4	1.2		
	6. PHSや携帯電話でメールを送る		36.8	29.3	47.0	40.0	36.4	42.2	34.3		
	7. パソコンでメールを送る		1.0	0.3	1.7	1.0	0.9	1.1	0.9		
	8. その他		5.6	7.1	4.6	4.6	7.1	5.7	5.9		
	好きな人に告白する	1. 直接会って話す	70.6	75.5	74.0	72.8	76.8	78.8	71.0		
		2. 友だちに頼む	0.7	0.6	0.9	0.9	0.6	0.5	1.1		
		3. PHSや携帯電話で話す	7.1	8.6	6.4	7.4	7.6	5.3	9.6		
		4. 家の電話で話す	3.0	3.3	3.1	3.2	3.2	2.6	3.8		
		5. 手紙を書く	2.9	1.9	4.4	3.3	2.9	3.2	3.1		
		6. PHSや携帯電話でメールを送る	6.0	5.5	7.2	8.5	4.0	5.3	7.3		
		7. パソコンでメールを送る	0.2	0.3	0.2	0.5	0.0	0.2	0.3		
		8. その他	4.1	4.4	3.8	3.3	4.8	4.3	3.8		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
13	次のようなとき、どのような手段を使うか	ケンカした友だちと仲直りする	1. 直接会って話す	53.1	62.6	46.8	53.4	56.0	55.4	53.8
			2. 友だちに頼む	1.4	2.5	0.5	1.6	1.3	1.4	1.5
			3. PHSや携帯電話で話す	7.9	9.2	7.1	8.7	7.5	6.0	10.2
			4. 家の電話で話す	6.4	4.9	8.3	8.2	4.9	6.3	6.9
			5. 手紙を書く	6.3	0.9	12.0	5.4	7.7	7.5	5.6
			6. PHSや携帯電話でメールを送る	19.2	16.5	23.0	20.4	19.1	20.1	19.5
			7. パソコンでメールを送る	0.7	0.6	0.8	0.7	0.6	0.5	0.9
			8. その他	2.1	2.8	1.7	1.5	3.0	2.9	1.5
	相談する	親戚のおじさん	1. 直接会って話す	41.6	47.3	40.4	45.6	41.9	42.1	45.5
			2. 友だちに頼む	0.4	0.8	0.0	0.3	0.5	0.5	0.3
			3. PHSや携帯電話で話す	1.6	2.2	1.2	2.0	1.4	1.4	2.0
			4. 家の電話で話す	34.0	33.1	38.4	35.1	36.4	35.0	36.5
			5. 手紙を書く	7.0	4.7	10.0	6.9	7.9	8.5	6.3
			6. PHSや携帯電話でメールを送る	1.1	1.7	0.6	1.4	1.0	0.9	1.4
			7. パソコンでメールを送る	2.1	2.2	2.2	2.0	2.4	2.8	1.5
			8. その他	7.2	8.0	7.2	6.8	8.5	8.7	6.6
14	短歌、俳句について	あてはまるもの	1. 短歌は5・7・5・7・7、俳句は5・7・5であると思う	80.8	82.3	79.2	84.4	77.0	79.0	82.5
			2. 若山牧水という歌人を聞いたことがある	55.3	51.0	59.5	45.8	65.1	62.6	48.1
			3. 短歌、俳句は古い、というイメージがある	61.3	61.8	60.8	63.2	59.4	59.1	63.5
			4. 短歌、俳句は難しい、というイメージがある	65.9	63.6	68.2	69.7	62.0	65.1	66.7
			5. 今年の正月に百人一首をした	17.2	15.2	19.1	23.8	10.2	30.0	4.5
			6. 親や親戚で短歌や俳句をつくっている人がいる	7.7	6.8	8.5	7.8	7.5	8.6	6.7
			7. 先生に短歌や俳句に熱心な人がいた	24.9	24.2	25.6	23.1	26.8	28.1	21.8
			8. この1年間、授業以外で短歌、俳句を読んだことがある	27.2	26.0	28.4	26.4	28.0	25.7	28.7
			9. 短歌、俳句をつくったことがある	41.9	35.8	48.0	40.0	43.9	44.6	39.3
	AかBの好きな方の歌や文は	1	A. やは歌のあつき血潮にふれも見でさびしからずや道を詠く君	55.0	56.0	59.4	54.9	60.6	57.6	57.8
			B. 生き物をかなしと書いてこのわれに寄りかかるなよ 君は男だ	40.3	44.0	40.6	45.1	39.4	42.4	42.2
		2	A. 昼食に誘いしただけであるものを友達つれて女現わる	26.3	32.5	22.6	27.0	28.2	27.5	27.7
			B. 終バスにふたりは眠る寮の 降ります ランプに取り囲まれて	68.9	67.5	77.4	73.0	71.8	72.5	72.3
		3	A. せまい日本そんなに急いでどこへ行く	81.7	82.1	88.8	86.5	84.4	84.2	86.6
			B. せまい日本そんなに急いでどこへ行くのだ	13.9	17.9	11.2	13.5	15.6	15.8	13.4
		4	A. 麦わら帽子のへこみ思い出の一つのようでそのままにしておく	37.1	44.1	33.6	37.5	40.2	38.9	38.8
B. 思い出の一つのようでそのままにしておく麦わら帽子のへこみ	58.4		55.9	66.4	62.5	59.8	61.1	61.2		
15	平日、1日にテレビを何分くらい見てるか	1. 見ない(0分)	1.3	1.6	0.9	0.9	1.7	1.5	1.0	
		2. 0~30分	2.7	3.0	2.5	2.3	3.2	3.9	1.6	
		3. 30~60分	11.0	9.6	12.7	11.7	10.6	12.0	10.4	
		4. 60~90分	16.5	18.1	15.4	16.3	17.3	19.2	14.4	
		5. 90~120分	18.6	21.0	16.8	20.2	17.5	17.4	20.3	
		6. 120~150分	15.8	15.0	17.2	18.2	14.0	16.2	16.0	
		7. 150~180分	11.4	10.5	12.7	10.4	12.9	10.4	12.8	
		8. 180~210分	7.4	9.0	6.0	6.9	8.1	6.7	8.3	
		9. 210~240分	5.1	4.0	6.3	5.0	5.4	4.4	5.9	
		10. 240分以上	8.6	8.1	9.4	8.2	9.4	8.3	9.2	
16	平日、テレビをどの時間帯によく見るか	1. 見ない	1.1	1.5	0.8	0.7	1.5	1.5	0.7	
		2. 午後5~7時	3.9	3.3	4.7	3.5	4.5	5.2	2.8	
		3. 7~9時	39.8	41.2	40.4	44.5	36.8	43.3	38.3	
		4. 9~11時	42.4	41.5	45.3	42.6	44.3	39.0	47.8	
		5. 11~0時	3.2	4.8	1.7	2.8	3.7	3.0	3.4	
		6. 0時以降	1.0	1.5	0.6	1.0	1.1	1.1	1.0	
		7. 早朝	1.3	1.1	1.7	1.2	1.5	1.5	1.2	
		8. まんべんなく見る	4.9	5.0	5.0	3.5	6.5	5.3	4.6	

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		地 域 別			
			男 子	女 子	1 年	2 年	東 京	秋 田		
17	次のようなテレビ番組をどのくらい見ているか	お天気を含むニュース番組	1. よく見る	32.3	32.2	34.3	33.0	33.5	37.2	29.4
			2. まあ見る	35.3	36.1	36.6	35.4	37.4	38.6	34.2
			3. 少しは見る	24.5	26.4	24.2	26.5	24.0	20.3	30.1
			4. ほとんど見ない	4.9	5.3	4.9	5.2	5.0	3.8	6.3
		ドキュメンタリー	1. よく見る	7.8	8.3	7.9	7.5	8.8	8.5	7.7
			2. まあ見る	23.6	21.1	27.7	22.5	26.5	27.6	21.3
			3. 少しは見る	38.8	41.2	39.2	41.4	38.9	37.0	43.3
			4. ほとんど見ない	26.3	29.4	25.2	28.6	25.9	26.9	27.7
		映画・ドラマ・アニメ番組	1. よく見る	55.1	50.9	61.9	58.1	54.6	51.2	61.5
			2. まあ見る	28.4	31.7	26.4	27.6	30.6	31.9	26.3
			3. 少しは見る	10.1	11.6	9.0	10.6	10.0	10.8	9.9
			4. ほとんど見ない	4.1	5.7	2.7	3.7	4.8	6.1	2.4
エッセイ・バラエティ番組	1. よく見る	32.9	36.2	31.5	35.9	31.7	30.0	37.6		
	2. まあ見る	35.9	35.3	38.6	37.5	36.3	35.9	37.9		
	3. 少しは見る	19.3	18.3	21.4	18.2	21.7	22.3	17.5		
	4. ほとんど見ない	9.1	10.2	8.5	8.4	10.3	11.8	6.9		
音楽番組	1. よく見る	46.6	39.8	55.7	48.5	47.0	43.0	52.5		
	2. まあ見る	30.8	33.6	29.6	33.0	30.1	32.6	30.6		
	3. 少しは見る	13.2	17.4	9.7	12.7	14.4	15.6	11.5		
	4. ほとんど見ない	6.9	9.1	5.0	5.8	8.4	8.7	5.4		
スポーツ中継やスポーツニュース	1. よく見る	18.0	28.7	8.4	17.5	19.7	16.1	20.9		
	2. まあ見る	23.3	30.3	17.7	23.7	24.4	23.6	24.4		
	3. 少しは見る	29.0	25.5	34.2	29.9	29.8	27.0	32.7		
	4. ほとんど見ない	26.8	15.5	39.7	29.0	26.1	33.3	22.0		
情報番組やコメンタリー	1. よく見る	12.8	12.5	13.9	12.1	14.4	12.0	14.4		
	2. まあ見る	25.1	23.0	28.8	24.8	27.1	24.0	27.7		
	3. 少しは見る	36.4	38.4	36.7	38.9	36.0	39.1	36.0		
	4. ほとんど見ない	22.7	26.2	20.6	24.2	22.5	24.9	21.9		
18	次のようなニュースをどのくらい見ているか	含む都内の天気	1. かなり見る	23.1	23.2	24.2	23.8	23.5	27.4	20.0
			2. 見る方	44.4	45.2	45.8	44.4	46.6	47.6	43.4
			3. どちらともいえない	18.6	18.1	20.1	19.1	19.0	15.4	22.7
			4. 見ない方	7.7	8.0	7.9	8.5	7.3	5.5	10.3
			5. まったく見ない	3.8	5.6	2.1	4.1	3.6	4.1	3.6
		含む都内の天気以外の日本国内の天気	1. かなり見る	13.3	14.9	12.3	12.5	14.7	16.2	11.0
			2. 見る方	31.8	33.7	31.5	30.0	35.2	32.1	33.1
			3. どちらともいえない	27.8	24.8	32.1	29.3	27.5	25.0	31.7
			4. 見ない方	17.1	17.1	17.9	20.0	14.8	17.6	17.4
			5. まったく見ない	7.7	9.5	6.4	8.1	7.7	9.2	6.7
		含む世界の各国の天気	1. かなり見る	4.6	6.1	3.5	4.7	4.8	4.1	5.4
			2. 見る方	9.7	10.7	9.1	8.2	11.6	7.8	12.0
3. どちらともいえない	22.5		21.6	24.6	24.0	22.2	22.9	23.4		
4. 見ない方	30.1		29.2	32.5	31.5	30.1	30.8	30.8		
5. まったく見ない	30.6		32.4	30.4	31.5	31.2	34.4	28.4		
含む国内で人気のあるスポーツ中継やスポーツニュース	1. かなり見る	17.0	25.5	9.4	16.7	18.2	17.1	17.8		
	2. 見る方	27.7	36.1	20.7	28.5	28.2	25.5	31.2		
	3. どちらともいえない	21.1	18.3	25.0	20.7	22.7	20.7	22.6		
	4. 見ない方	18.7	11.3	27.0	20.8	17.4	19.2	19.1		
	5. まったく見ない	13.0	8.8	17.9	13.3	13.4	17.5	9.3		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
18	次のようなニュースをどのくらい見ているか	世界各国のスポーツ中継やニュース	1. かなり見る	17.1	3.5	9.4	11.3	9.0	11.6	
		2. 見る方	20.9	29.4	13.3	20.9	21.9	21.0	21.7	
		3. どちらともいえない	25.4	25.4	26.4	25.3	26.5	23.2	28.6	
		4. 見ない方	22.6	15.2	31.1	24.6	21.6	22.7	23.5	
		5. まったく見ない	18.9	12.9	25.7	19.9	18.7	24.1	14.6	
19	ニュース番組についての意見	1	A. 番組で流れるニュースはフィクションだ	15.4	19.9	12.2	15.0	17.1	18.1	14.1
			B. 番組で流れるニュースは真実だ	80.6	80.1	87.8	85.0	82.9	81.9	85.9
		2	A. 内容はどの番組を見ても同じだ	53.7	50.5	61.2	55.6	56.0	56.1	55.5
			B. 内容はそれぞれ番組によって違う	42.6	49.5	38.8	44.4	44.0	43.9	44.5
		3	A. 放送時間は長い	59.8	61.3	64.9	63.0	63.1	59.8	66.2
			B. 放送時間は短い	35.1	38.7	35.1	37.0	36.9	40.2	33.8
		4	A. 番組を見ていてよくわかる	70.1	75.7	70.4	74.4	71.8	77.0	69.3
			B. 番組を見ていてわからない	25.8	24.3	29.6	25.6	28.2	23.0	30.7
		5	A. 番組はつまらない	39.5	40.4	42.2	41.8	40.8	36.5	46.0
			B. 番組はおもしろい	56.2	59.6	57.8	58.2	59.2	63.5	54.0
		6	A. ニュースの中身は暗い話題が多い	85.9	87.5	93.3	90.6	90.2	90.7	90.1
			B. ニュースの中身は明るい話題が多い	9.1	12.5	6.7	9.4	9.8	9.3	9.9
		7	A. 番組を見て自分の意見を言いたくなる	66.1	66.6	71.2	68.7	69.1	70.5	67.3
			B. 番組を見て自分の意見を言いたくなることはない	29.8	33.4	28.8	31.3	30.9	29.5	32.7
		8	A. 番組の情報量は多い	64.6	68.0	66.9	67.8	67.0	64.6	70.2
			B. 番組の情報量は少ない	31.2	32.0	33.1	32.2	33.0	35.4	29.8
		9	A. 番組を見るとためになる	86.4	86.1	94.3	89.8	90.6	91.6	88.8
			B. 番組を見るとためにならない	9.4	13.9	5.7	10.2	9.4	8.4	11.2
		10	A. 番組の情報は信用できる	63.2	65.7	67.3	68.1	64.9	67.2	65.9
			B. 番組の情報は信用できない	31.8	34.3	32.7	31.9	35.1	32.8	34.1
		11	A. 番組は集中して見ている	21.0	23.7	19.8	22.1	21.5	23.2	20.3
			B. 番組は何かしながら見ている	75.5	76.3	80.2	77.9	78.5	76.8	79.7
20	テレビ番組に関することについてどう思うか	組が多すぎる	1. とてもそう思う	27.9	33.2	23.9	29.2	27.9	31.2	26.0
			2. ややそう思う	46.0	41.4	52.7	45.2	48.9	46.9	47.2
			3. あまりそう思わない	20.0	19.4	21.5	21.1	19.8	17.4	23.4
			4. まったくそう思わない	3.9	6.0	2.0	4.6	3.4	4.6	3.4
		が心配になる	1. とてもそう思う	21.5	19.8	24.2	22.4	21.6	22.6	21.4
			2. ややそう思う	53.4	51.0	58.3	52.6	56.8	55.5	53.8
			3. あまりそう思わない	18.9	22.7	15.9	21.1	17.4	17.3	21.2
			4. まったくそう思わない	4.0	6.5	1.7	4.0	4.2	4.6	3.6
		いは方がよい	1. とてもそう思う	9.4	8.9	10.3	10.2	9.0	9.8	9.4
			2. ややそう思う	26.9	25.0	30.2	29.0	26.1	26.0	29.2
			3. あまりそう思わない	47.4	46.3	50.9	48.4	48.8	50.7	46.6
			4. まったくそう思わない	13.9	19.8	8.6	12.3	16.2	13.6	14.8
		ていはいか気になる	1. とてもそう思う	7.8	8.4	7.6	8.3	7.7	6.4	9.6
			2. ややそう思う	32.4	27.1	39.3	33.1	33.2	32.0	34.3
			3. あまりそう思わない	42.1	43.5	42.8	43.9	42.3	44.5	41.8
			4. まったくそう思わない	15.3	21.1	10.3	14.6	16.8	17.1	14.4
		ある	1. とてもそう思う	13.4	16.0	11.6	13.5	14.1	12.8	14.8
			2. ややそう思う	36.8	38.0	37.9	37.1	38.8	37.6	38.3
			3. あまりそう思わない	41.0	38.5	46.0	43.0	41.3	43.4	41.0
			4. まったくそう思わない	5.9	7.5	4.6	6.4	5.7	6.1	6.0
の結果が気になる	1. とてもそう思う	43.0	47.1	41.1	43.1	45.1	41.0	47.1		
	2. ややそう思う	36.6	34.2	41.0	37.2	38.0	39.6	35.6		
	3. あまりそう思わない	12.4	11.9	13.5	13.9	11.4	13.4	12.0		
	4. まったくそう思わない	5.5	6.8	4.4	5.8	5.4	5.9	5.3		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
20	テレビ番組に関するアンケートについて	スポーツ中継を 行かなくてもよ いと思うか	1. とてもそう思う	24.7	25.5	25.2	25.0	25.7	25.0	25.6
		2. ややそう思う	36.8	36.6	38.9	36.3	39.3	36.6	38.8	
		3. あまりそう思わない	26.7	26.4	28.4	29.5	25.2	27.6	27.1	
		4. まったくそう思わない	9.3	11.6	7.4	9.2	9.9	10.7	8.4	
		スポーツ中継を 見ると決まる	1. とてもそう思う	17.5	20.9	14.9	17.6	18.2	15.0	20.8
		2. ややそう思う	35.2	32.2	40.0	35.5	36.6	36.2	35.9	
		3. あまりそう思わない	32.8	31.1	36.2	34.8	32.5	34.4	32.9	
		4. まったくそう思わない	12.1	15.8	9.0	12.1	12.7	14.5	10.3	
21	ニュースキャスターについて、どの程度関心があるか	コメント	1. とても関心がある	8.2	10.0	6.8	8.2	8.7	9.2	7.7
			2. やや関心がある	36.4	37.7	37.1	36.7	38.2	37.3	37.5
			3. あまり関心がない	43.0	40.4	47.9	44.1	44.2	44.5	43.8
			4. まったく関心がない	9.7	11.9	8.1	11.0	9.0	9.0	11.0
		ツギ話の ツギ方	1. とても関心がある	15.0	12.1	18.8	15.2	15.8	17.3	13.7
			2. やや関心がある	38.3	38.1	40.7	36.0	43.0	41.4	37.4
			3. あまり関心がない	35.8	39.4	34.2	40.3	33.2	33.8	39.8
			4. まったく関心がない	8.1	10.4	6.2	8.6	8.0	7.5	9.2
		ツギ話の ツギ方	1. とても関心がある	11.3	10.9	12.5	12.5	10.8	10.1	13.2
			2. やや関心がある	34.7	29.0	42.5	33.0	38.5	35.3	36.1
			3. あまり関心がない	38.2	42.1	36.5	41.3	37.3	40.5	38.2
			4. まったく関心がない	12.9	18.0	8.5	13.2	13.3	14.1	12.5
		人気が あるか	1. とても関心がある	10.5	12.2	9.3	10.8	10.7	6.1	15.3
			2. やや関心がある	34.5	32.3	38.6	35.2	35.7	35.6	35.3
			3. あまり関心がない	37.5	37.0	40.1	38.9	38.2	42.3	34.8
			4. まったく関心がない	14.9	18.6	12.0	15.1	15.5	16.0	14.6
自分も キャスター になりたいか	1. とても関心がある	2.7	3.0	2.6	3.0	2.6	2.3	3.3		
	2. やや関心がある	6.3	6.3	6.7	7.7	5.3	6.7	6.3		
	3. あまり関心がない	23.1	23.1	24.3	25.4	21.9	24.1	23.3		
	4. まったく関心がない	65.2	67.6	66.4	63.9	70.2	66.9	67.1		
22	次の人から「ニュースを見るように」と言われるか	お父さん	1. よく言われる	11.8	10.7	13.7	12.0	12.4	9.6	14.8
			2. ときどき言われる	17.8	18.2	18.6	20.0	16.8	16.3	20.4
			3. あまり言われない	27.0	25.7	30.2	28.2	27.6	27.0	28.9
			4. まったく言われない	40.0	45.4	37.5	39.8	43.2	47.1	35.9
		お母さん	1. よく言われる	9.6	8.4	11.4	9.1	10.7	8.9	10.8
			2. ときどき言われる	21.1	20.1	23.4	21.7	21.7	19.9	23.5
			3. あまり言われない	29.6	29.1	32.0	33.5	27.5	29.1	31.9
			4. まったく言われない	36.7	42.5	33.2	35.7	40.1	42.0	33.7
		担任の先生	1. よく言われる	7.1	7.5	7.1	8.5	6.1	4.9	9.7
			2. ときどき言われる	19.6	18.4	22.0	18.6	21.9	11.9	28.4
			3. あまり言われない	30.0	28.8	33.1	33.2	28.6	33.8	28.1
			4. まったく言われない	40.2	45.3	37.7	39.6	43.4	49.3	33.7
		社会科の先生	1. よく言われる	9.8	9.3	10.9	14.0	6.1	12.4	7.8
			2. ときどき言われる	23.1	22.6	25.0	26.3	21.1	24.1	23.5
			3. あまり言われない	28.9	27.0	32.6	27.2	32.5	26.4	33.1
			4. まったく言われない	35.2	41.2	31.5	32.4	40.4	37.1	35.5
学校の友だち	1. よく言われる	1.3	2.0	0.6	1.2	1.4	1.1	1.5		
	2. ときどき言われる	4.4	4.9	4.3	4.6	4.5	4.5	4.7		
	3. あまり言われない	21.5	21.2	23.3	21.0	23.5	23.2	21.3		
	4. まったく言われない	69.6	71.9	71.9	73.1	70.6	71.2	72.5		
23	TV番組の 加入	1. している	54.0	56.6	55.8	56.0	56.4	48.5	63.9	
		2. していない	42.1	43.4	44.2	44.0	43.6	51.5	36.1	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
24	友だちの人数	1. 10人未満	14.6	17.7	20.6	14.6	23.7	15.4	22.5	
		2. 10人以上20人未満	17.0	22.4	22.4	23.0	21.8	23.9	21.1	
		3. 20人以上30人未満	10.9	14.4	14.3	11.5	17.1	13.1	15.4	
		4. 30人以上50人未満	10.6	14.2	13.7	15.0	12.9	15.8	12.3	
		5. 50人以上100人未満	10.4	14.4	12.9	15.8	11.6	14.3	13.1	
		6. 100人以上	12.6	16.9	16.2	20.2	12.9	17.6	15.6	
25	友だちの人数が多い方か	1. とてもそう	29.5	34.9	26.2	35.5	25.3	30.9	30.2	
		2. どちらかといえばそう	40.1	39.2	43.8	41.4	41.7	40.3	42.7	
		3. どちらかといえばそうではない	20.3	19.0	23.1	18.3	24.0	21.5	20.6	
		4. まったくそうではない	6.6	6.9	6.8	4.8	9.0	7.2	6.5	
	友だちの人数は少ない方だ	1. とてもそう	5.8	8.0	4.1	5.9	6.2	5.9	6.2	
		2. どちらかといえばそう	37.5	40.3	37.6	38.5	39.4	36.4	41.5	
		3. どちらかといえばそうではない	44.4	42.8	49.5	46.8	45.5	48.0	44.4	
		4. まったくそうではない	8.5	8.9	8.7	8.8	8.9	9.7	7.9	
	大1切間の方	1. とてもそう	6.8	8.5	5.7	5.1	9.1	7.0	7.1	
		2. どちらかといえばそう	22.4	26.9	19.8	23.2	23.4	23.3	23.4	
		3. どちらかといえばそうではない	48.7	46.9	54.5	51.1	50.3	51.2	50.3	
		4. まったくそうではない	18.1	17.7	20.1	20.5	17.2	18.6	19.1	
	話さない方	1. とてもそう	10.5	15.4	6.2	9.6	12.1	11.2	10.5	
		2. どちらかといえばそう	28.7	34.3	25.2	30.6	28.8	29.8	29.7	
		3. どちらかといえばそうではない	36.7	32.7	43.2	38.1	37.8	38.2	37.7	
		4. まったくそうではない	20.8	17.6	25.4	21.6	21.4	20.9	22.1	
	お互いではない	1. とてもそう	4.9	7.4	3.0	5.6	4.9	6.2	4.3	
		2. どちらかといえばそう	14.7	17.4	13.7	14.2	17.0	16.0	15.1	
		3. どちらかといえばそうではない	44.1	46.5	47.0	46.9	46.6	48.2	45.4	
		4. まったくそうではない	30.6	28.7	36.3	33.3	31.5	29.6	35.2	
	が結構いる	1. とてもそう	4.1	5.5	2.9	4.8	3.6	4.5	4.0	
		2. どちらかといえばそう	15.2	16.9	14.7	16.2	15.4	18.6	13.0	
		3. どちらかといえばそうではない	34.8	37.8	34.7	37.6	34.7	38.2	34.3	
		4. まったくそうではない	42.1	39.8	47.8	41.4	46.3	38.8	48.8	
だちを選ぶ	1. とてもそう	16.7	17.6	16.9	17.0	17.5	17.2	17.3		
	2. どちらかといえばそう	46.4	47.5	48.7	47.8	48.4	51.7	44.5		
	3. どちらかといえばそうではない	22.8	21.7	25.2	24.9	22.3	22.5	24.8		
	4. まったくそうではない	10.6	13.2	8.9	10.3	11.8	8.6	13.4		
26	日頃、次のようなことがどの程度あるか	D借りなどの貸	1. よくある	32.5	36.1	31.1	34.9	32.2	27.8	39.4
			2. ときどきある	48.1	43.8	55.7	50.1	49.5	52.9	46.7
			3. あまりない	11.4	12.1	11.5	10.8	12.9	13.5	10.2
			4. まったくない	4.6	8.0	1.7	4.2	5.4	5.8	3.8
	PPOPや洋楽の話をする	1. よくある	31.4	33.4	31.6	32.8	32.1	30.7	34.2	
		2. ときどきある	37.7	35.9	42.0	39.3	38.7	39.9	38.0	
		3. あまりない	20.4	21.2	21.1	20.7	21.6	21.5	20.8	
		4. まったくない	7.1	9.5	5.3	7.2	7.6	7.8	7.0	
	のニュース番組の話をする	1. よくある	13.3	13.8	13.7	10.3	17.2	12.0	15.5	
		2. ときどきある	33.6	32.8	36.7	35.8	33.6	36.7	32.9	
		3. あまりない	35.4	37.7	35.7	37.8	35.5	36.0	37.3	
		4. まったくない	14.4	15.8	14.0	16.0	13.6	15.3	14.4	
	どの話をする	1. よくある	26.9	26.3	29.3	26.7	29.0	21.9	33.7	
		2. ときどきある	44.9	45.5	47.4	48.0	44.8	47.9	45.1	
		3. あまりない	19.1	20.8	18.7	18.8	20.8	21.6	17.9	
		4. まったくない	5.7	7.4	4.6	6.5	5.4	8.6	3.3	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学年別		地域別			
			男子	女子	1年	2年	東京	秋田		
26	日頃、次のようなことがどの程度あるか	友だちとテレビを見た海外情報	4.6	5.4	4.1	3.9	5.6	4.9	4.6	
		1. よくある	20.1	22.8	19.0	17.0	24.9	22.1	19.7	
		2. ときどきある	44.1	43.0	48.7	49.5	42.1	45.7	46.0	
		3. あまりない	27.4	28.8	28.2	29.6	27.4	27.3	29.7	
		4. まったくない	51.7	42.3	64.6	53.0	54.1	53.1	54.0	
		友だちと話をしている	36.7	45.8	30.3	38.3	37.8	38.7	37.4	
		1. よくある	6.9	9.4	4.9	7.7	6.5	6.3	7.9	
		2. ときどきある	1.3	2.5	0.2	1.1	1.6	1.8	0.8	
		3. あまりない	6.0	7.1	5.3	5.3	7.1	6.5	5.9	
		4. まったくない	32.8	34.2	33.9	34.2	33.8	33.2	34.8	
		友だちと話をしている	50.0	50.6	53.2	53.1	50.7	52.0	51.8	
		1. よくある	7.6	8.2	7.6	7.4	8.4	8.3	7.4	
2. ときどきある	6.8	6.6	7.5	7.7	6.4	7.1	7.0			
3. あまりない	36.0	33.7	41.1	39.3	35.6	36.5	38.4			
4. まったくない	38.5	40.7	39.4	39.1	41.0	39.4	40.7			
親しい人がどのくらいいるか	14.9	19.0	12.0	13.9	17.1	17.1	13.9			
1. よくある	39.5	35.1	47.0	42.6	39.5	39.8	42.4			
2. ときどきある	39.3	45.5	36.2	40.5	41.2	42.7	39.0			
3. あまりない	13.7	14.9	13.6	13.4	15.1	13.1	15.4			
4. まったくない	3.7	4.5	3.2	3.5	4.2	4.5	3.2			
親しくない人であるか	27.1	24.4	31.8	30.0	26.2	25.7	30.6			
1. よくある	37.0	39.8	37.0	37.7	39.1	40.4	36.4			
2. ときどきある	21.0	23.3	20.2	22.5	21.1	20.9	22.7			
3. あまりない	11.3	12.4	11.0	9.8	13.6	13.1	10.4			
4. まったくない										
27	あなた以外の本棚に雑誌・マンガ以外本がどのくらいあるか	1. 本棚0～3段くらい(60冊未満)	46.9	47.5	50.4	49.7	48.2	40.8	57.1	
		2. 本箱1本くらい(100冊くらい)	21.1	23.1	20.9	22.3	21.7	21.8	22.1	
		3. 本箱2本くらい(200冊くらい)	12.4	12.5	13.4	12.3	13.5	17.5	8.3	
		4. 本箱3本くらい(300冊くらい)	7.4	7.4	8.1	7.8	7.8	9.5	6.0	
		5. 本箱4本くらい(400冊以上)	8.0	9.5	7.2	7.9	8.8	10.3	6.5	
28	両親の最終学歴	お父さん	1. 中学・高校卒業	38.6	39.1	41.5	37.4	43.3	21.8	58.7
			2. 専門・専修学校卒業	5.9	7.1	5.2	5.8	6.5	7.0	5.4
			3. 短大・高専卒業	3.4	3.9	3.2	4.4	2.6	2.8	4.3
			4. 大学・大学院卒業	38.1	38.5	41.0	40.1	39.4	57.7	22.1
			5. その他	0.7	0.6	0.9	1.2	0.3	0.8	0.8
			6. わからない	9.1	10.8	8.1	11.1	7.8	10.0	8.9
		お母さん	1. 中学・高校卒業	42.8	45.1	44.1	42.1	47.2	29.8	59.3
			2. 専門・専修学校卒業	10.4	8.3	13.3	11.1	10.6	11.3	10.4
			3. 短大・高専卒業	15.5	14.0	18.4	16.4	16.0	21.5	11.0
			4. 大学・大学院卒業	17.8	19.4	17.6	19.1	17.9	27.6	9.5
			5. その他	0.6	0.6	0.6	0.9	0.3	0.6	0.6
			6. わからない	8.8	12.5	6.0	10.5	7.9	9.3	9.2
29	部活動への参加	1. 運動部に入っている	43.4	56.0	36.0	49.0	42.7	47.8	43.9	
		2. 文芸系の部に入っている	11.6	7.3	17.1	10.6	13.9	13.4	11.1	
		3. マンガ系の部に入っている	0.6	0.3	0.9	0.6	0.6	0.8	0.5	
		4. 放送、ディベート系の部に入っている	1.6	0.9	2.5	2.3	1.1	0.0	3.4	
		5. その他の文化部に入っている	8.3	4.3	13.2	9.4	8.2	7.9	9.7	
		6. 以前入っていたが、今は入っていない	18.9	20.3	19.5	19.1	20.8	19.3	20.6	
		7. 入ったことがない	8.7	9.6	8.8	7.2	11.2	8.7	9.7	
		8. その他	1.5	1.3	2.0	1.7	1.6	2.0	1.2	
30	トアルバイ	1. している	14.9	12.4	18.8	15.7	15.6	26.9	4.3	
		2. 以前したことがあるが、今はしていない	30.0	27.7	35.2	22.4	40.9	33.1	29.8	
		3. したことがない	50.4	59.9	46.0	61.9	43.6	39.9	65.8	

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		地 域 別			
			男 子	女 子	1 年	2 年	東 京	秋 田		
31	お小遣い	1. 5000円未満	21.3	22.5	20.1	25.0	17.5	20.6	22.1	
		2. 5000円以上7500円未満	43.0	42.5	43.4	43.1	42.8	35.2	50.6	
		3. 7500円以上10000円未満	3.2	3.7	2.7	2.7	3.7	3.7	2.7	
		4. 10000円以上15000円未満	15.4	15.3	15.5	13.5	17.3	14.6	16.2	
		5. 15000円以上	17.1	15.9	18.2	15.6	18.6	25.9	8.4	
32	成績 (ク ラ ス の 中 で)	音楽	1. 上	5.0	3.6	7.0	5.7	4.9	5.3	5.3
			2. 中の上	12.2	11.8	13.9	16.1	9.5	12.9	12.8
			3. 中	22.6	22.3	25.5	26.9	20.8	20.1	27.7
			4. 中の下	8.2	9.2	8.0	10.9	6.3	6.7	10.6
			5. 下	3.9	6.4	1.9	6.0	2.2	3.1	5.1
			6. 選択していない	42.8	46.7	43.7	34.4	56.3	51.9	38.5
		現代国語	1. 上	5.5	5.8	5.8	5.9	5.7	6.1	5.5
			2. 中の上	16.9	16.1	19.7	19.1	16.7	22.2	13.6
			3. 中	38.0	35.8	44.6	40.2	40.3	41.2	39.3
			4. 中の下	21.8	25.0	21.2	21.7	24.5	19.5	26.8
			5. 下	11.8	16.4	8.6	12.9	12.1	10.8	14.2
			6. 選択していない	0.4	0.8	0.2	0.2	0.8	0.3	0.6
	古典	1. 上	4.8	5.0	5.2	6.5	3.6	6.3	3.9	
		2. 中の上	14.8	12.5	18.9	18.3	13.1	18.8	12.7	
		3. 中	32.2	30.3	38.1	38.0	30.3	35.2	33.2	
		4. 中の下	20.9	23.4	20.9	21.2	23.1	19.4	24.9	
		5. 下	15.4	21.5	11.3	16.0	16.7	13.4	19.3	
		6. 選択していない	6.1	7.4	5.6	0.0	13.1	7.0	6.0	
	全教科の平均	1. 上	5.3	5.9	5.3	6.5	4.7	5.1	6.1	
		2. 中の上	20.5	23.0	20.5	20.8	22.7	24.8	18.6	
		3. 中	33.9	33.8	38.1	35.0	36.9	39.2	32.7	
		4. 中の下	18.7	19.7	20.0	20.8	18.9	17.5	22.2	
		5. 下	15.9	17.7	16.1	16.9	16.9	13.4	20.3	
	33	たこ10年 い後、 か暮らしど	1. 現在、自分が住む県内・都内	32.9	35.0	34.2	34.6	34.5	46.2	22.9
2. 現在、自分が住んでいない大都市部			20.6	22.9	20.5	23.0	20.4	8.5	34.8	
3. 現在、自分が住んでいない大都市部でないところ			12.7	11.8	15.0	15.0	11.8	15.0	11.8	
4. 日本以外の国			10.5	7.8	14.1	8.4	13.6	13.3	8.7	
5. どこでもかまわない			18.4	22.6	16.2	19.0	19.7	16.9	21.8	